切斷シタル手足ノ如キ何レモ茲ニ所謂死體遺骨ニ非ルモノトス而シテ又本條所謂死體ハ埋葬スヘキモノタルヲ要スルナリトス蓋シ人ノ死體ハ皆埋葬スヘキモノナリト雖モ既ニ埋葬シタル死體ニ付キテハ次條ニ規定スル所アレハナリトス、尙ホ本條所謂棺內ニ藏置シタルモノハ我國古來ノ慣習上死者ノ生存中愛翫シタル器物衣服ノ如キ死後棺內ニ納メタル物品ヲ謂フモノトス。

第二、損壞遺棄又ハ領得シタルコトヲ要ス、

即チ法律規定ノ物件ヲ物質的ニ損傷シ又ハ道路原野河海ニ投棄シ若クハ自己ノ所持內ニ取得スルトキハ常ニ本罪成立スルモノトス、彼ノ學術研究ノ爲メ死體ヲ解剖スルカ如キハ法律ノ認メタル權利行爲ナルカ故ニ本罪ニ關係ナキヤ勿論ナリトス、本罪モ法律規定ノ物件ナルコトヲ知リテ犯シタルコトヲ要スルヤ勿論ナリ故ニ生存者ナリト信シテ死體ヲ遺棄シタルカ如キ場合ニハ本罪ヲ構成スルコトナキモノトス。

以上ノ條件具備スルトキハ三年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス

第百九十一條　第百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺內ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ墳墓ヲ發掘シテ死體等ヲ損壞遺棄領收シタル罪ニ付キ規定シタルモノニシテ第百八十九條ト相牽連セル行爲ニ關スル規定ナリトス。

本罪ノ成立ニハ第一、墳墓ヲ發掘シタルコト及ヒ第二、死體、遺骨、遺髮又ハ棺內ニ藏置シタル物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタルコトノ二條件アルヲ要スルモ第一條件ニ付キテハ既ニ第百八十九條ニ於テ說明シタル所ヲ以テ明ラカナル可ク第二條件ニ付キテハ前條ニテ詳論シタルト同一ナルカ故ニ何レモ茲ニ再說ノ要ナシトス、畢竟本罪ハ前條規定ノ罪ト同一趣旨ニシテ唯異ナルハ前罪ハ埋葬ス可キ死體其他ノ物ニ關スル罪ナルモ本罪ハ既ニ埋葬シタル死體其他ノ物ニ關スル罪タルノ差アルノミナリトス、即チ本罪ハ前罪ニ比シ稍々其情重キモノアルカ故ニ特ニ本法カ本條ニ之カ所罰ヲ規定シタルモノナリトス、從テ本法ニ在リテハ舊法ト異ナリ單ニ墳墓ヲ發掘シタルニ過キサル場合ニハ二年以下ノ懲役ニ處セラルヘキモ若シ其上ニ死體遺骨遺髮又ハ棺內ニ藏置シタル物ヲ損

毀遺棄又ハ傾得シタルトキニハ特ニ本條ニ依リ三月以上五年以下ノ懲役ニ處セラル可キモノナリトス、從テ又彼ノ舊法ニ在リテハ墳墓內ノ財物ヲ竊取センカ爲メニ之ヲ發堀シ其目的ヲ達シタル場合ニ關シ二罪ナリヤ一罪ナリヤニ付キ議論紛々タリシモ本法ニ在リテハ別ニ何等ノ疑ヒナク本條ニ依リ處分セラルヽコトナルモノナリトス。

第百九十二條　檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

本條ハ檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル罪ニ付キ規定シタルモノニシテ本法ノ新設ニ係ル規定ナリトス蓋シ從來犯罪ノ發覺ヲ防カンカ爲メニ變死者ヲ窃ニ葬リタルノ例尠ナカラザリシヲ以テ之ヲ禁遏センカタメニ因テ本條ノ設ケラレタルモノナリトス。

本罪ノ成立ニハ變死者タルコト及ヒ檢視ヲ經サルコトノ二條件アルヲ要スルモノトス。

第一、變死者タルコトヲ要ス、

茲ニ變死トハ所謂横死又ハ非命ノ死ノ意ニシテ他殺自殺又ハ天災ニ因ル死等自然ニ非サル死ヲ謂フモノトス、而シテ其原因ノ如何ハ之ヲ問ハサルモノトス。

第二、檢視ヲ經サルコトヲ要ス、

本條檢視トハ當該公務員ノ死體檢査ヲ謂フモノトス、蓋シ變死者ニ對シテハ當該公務員ノ檢視ヲ經ルニ非サレハ其死體ヲ埋葬スルコトヲ得サルハ特別法令ノ定ムル所ナレハナリトス、而シテ本罪ノ成立ニハ變死者タルコトヲ知テ檢視ヲ經ル意思ナカリシコトヲ要スルヤ勿論ナリトス、故ニ變死者タルコトヲ知ラス從テ檢視ヲ經スシテ病死者トシテノ成規ノ手續ヲ爲シ埋葬シタルカ如キ場合ニハ本罪ヲ構成スルコトナシトス。

以上ノ條件具備スルトキハ五拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス可キモノトス。

第二十五章　瀆職ノ罪

本章ハ所謂官吏人民ニ對スル罪ヲ規定シタルモノニシテ舊法第二編第九章

第二節ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリトス、其修正ヲ施シタル主要ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シトス。

一　舊法ハ唯官吏ノ職務ニ關スル罪ノミヲ規定シタルヲ以テ其範圍極メテ狹ク實際上不便尠ナカラサリシカ故ニ本法ハ之ヲ改メ廣ク公務員ノ瀆職ニ關スル規定ヲ設クルコトト爲シタリ。

二　舊法ハ官吏ノ職務ニ關スル罪ヲ區別シ官吏公益ヲ害スル罪官吏人民ニ對スル罪官吏財産ニ對スル罪ト爲シタルモ本法ハ此等ノ區別ヲ廢除シ本章ニハ單ニ官吏人民ニ對スル罪ノミヲ規定シタリ。

三　舊法第二百七十三條乃至第二百七十五條第二百七十七條第二百七十九條及ヒ第二百八十三條ノ規定ハ懲戒處分其他ノ特別法令ニ規定ス可キモノナルカ故ニ本法ハ之ヲ刪除スルコトト爲シタリ。

四　舊法ニハ賄賂ヲ贈與シタル罪ノ規定ナカリシト雖モ實際上其必要大ナルヲ以テ本法ハ新ニ之ニ關スル規定ヲ設ケタリ。

第百九十三條　公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

本條ハ公務員ハ職權濫用罪ヲ規定シタルモノニシテ舊法第二百七十六條ノ規定ヲ修正シタルモノトス。

本罪ノ成立ニハ公務員其職權ヲ濫用シタルコト及ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルコトノ二條件アルヲ要スルモノトス

第一　公務員其職權ヲ濫用シタルコトヲ要ス

茲ニ公務員ノ意義ニ付キテハ既ニ屢々述ヘタルヲ以テ更ニ贅セサル可シ、但シ舊法官吏トアルヲ本法之ヲ公務員ト改メタルハ第一編第一章第七條ノ規定ニ基キタルモノナリトス。

茲ニ職權濫用トハ公務員タル身分ニ依據シ職務上權限外ノ事項ハ勿論權限內ノ事項ト雖モ無益ニ之ヲ亂用シ人民ニ害ヲ與フルヲ謂フモノトス、公務員タル身分ニ依據シタル事實アルヲ要スルカ故ニ豫メ公務員タルノ身分ヲ知ラシメ依リテ職權ヲ濫用シタルノ事實ナクンハ本罪ヲ構成セサルモノトス例ヘハ

單ニ個人相互ノ關係ニ於テ姿勢ヲ凶惡ニシ若クハ不正ニ腕力ヲ弄シ以テ人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメタルカ如キ即チ是レナリトス。

第二、人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルコトヲ要ス

茲ニ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメトハ人ノ行フ可キ義務ナキ事ヲ强制シテ行ハシムルヲ謂フモノトス例ヘハ出頭ノ義務ナキ者ニ對シ出頭ヲ强制スルカ如キ又ハ地方長官カ强テ人民ヲシテ自己ノ出入ヲ送迎セシムルカ如キ是レナリトス又行フ可キ權利ヲ妨害シタルトハ人ノ爲スコトヲ得可キ權利ヲ妨害シタルヲ謂フ例ヘハ選擧權者ノ投票ヲ妨害スルカ如キ又ハ擅ニ往來止ヲ爲シテ人ノ交通ヲ妨害スルカ如キ是レナリトス然レトモ若シ公務員人ヲシテ犯罪ヲ行ハシメタル場合ニハ其犯罪ノ共犯者トシテ論セラルヽヤ勿論ナリトス。

以上ノ條件具備スルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キモノトス。

第百九十四條　裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

本條ハ裁判檢察警察ノ職務ヲ行フ者ノ職權濫用罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第二百七十八條ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリトス、蓋シ舊法ノ趣旨狹溢ニ失セシヲ以テ本法ハ其適用範圍ヲ擴張シタルト共ニ其刑期ノ範圍モ亦之ヲ廣クシ情狀ニ依リ裁判官ヲシテ適宜ノ刑ヲ科セシムルコトト爲シ以テ舊法ノ但書ヲ刪除シタリ即チ舊法ハ其但書ヲ以テ監禁日數十日ヲ過ル毎ニ一等ヲ加フル主義ナリシモ事細密ニ渉リ實益尠ナカリシヲ以テナリトス。

抑モ人ハ法律ニ依ルニ非スンハ逮捕監禁セラルルコトナシトハ憲法第二十三條ノ明言スル所ニシテ刑法上二箇ノ規定ニ依リテ保護セラルヽナリ即チ一ハ一私人ノ所爲ニ係ルモノニシテ他ハ公務員ノ所爲ニ係ルモノナリ前者ハ第三十一章ニ規定セラレ後者ハ本章ニ規定セラルヽ所ナリ蓋シ之ヲ各別ニ規定シタルハ畢竟沿革上ノ理由ニ基クニ過キサルモノナリトス。

本罪ノ成立ニハ裁判檢察警察ノ職務ヲ行フ者又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シタルコト及ヒ人ヲ逮捕監禁シタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一、裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行フ者又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シタルコトヲ要ス

茲ニ裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行フ者又ハ之ヲ補助スル者トハ判事、檢事、警視、警部等ノ司法警察官及ヒ憲兵巡査等ヲ謂フモノナリトス、而シテ此等公務員ノ職務權限ハ特別法令ニ依リ一定セルモノナルカ故ニ其法令ニ反シタル場合ハ勿論法令ニ反セサル場合ト雖モ必要ナル手續ヲ履マサル場合ニハ本條所謂職權濫用ナリトス例ヘハ禁錮以上ノ刑ニ該ルモノト思量スルニ非サレハ拘留狀ヲ發スルコト能ハサルニ拘ラス之ヲ發シ拘留シタルカ如キ又ハ豫審判事ノ署名捺印ナキ令狀ヲ以テ人ヲ逮捕シタルカ如キ即チ是レナリトス、然レトモ本條ハ法律規定ノ公務員カ其職務ノ執行トシテ人ヲ逮捕監禁シタル場合ヲ規定シタルモノニシテ單ニ法律規定ノ公務員タル身分ヲ有スル者ノ犯シタル行爲ヲ規定シタルモノニ非ス故ニ此等ノ身分アル者ト雖モ單ニ一私人トシテ本條規定ノ行爲ヲ爲シタルトキハ他ノ公務員ト同シク第二百二十條ノ範圍ニ屬スルモノトス。

第二、人ヲ逮捕又ハ監禁シタルコトヲ要ス、

茲ニ逮捕トハ人ノ去就ノ自由ヲ剝奪スルヲ謂ヒ監禁トハ其自由ヲ剝奪シテ一定ノ場所ニ多少ノ時間留置スルヲ謂フモノトス、故ニ例ヘハ巡査カ令狀ナクシテ非現行犯人ヲ逮捕シ又ハ監禁シタルカ如キ場合ニハ直ニ本罪ヲ構成スルモノトス。

尙ホ本罪ノ成立ニハ職權ノ濫用ナルコトヲ知リテ之ヲ犯シタルコトヲ要ス非現行犯ヲ現行犯ナリト誤信シテ人ヲ逮捕監禁シタルカ如キ場合ニハ單ニ懲戒處分ノ範圍ニ屬シ本罪成立スルコトナシトス、然レトモ非現行犯人ト雖モ令狀ヲ携帶セスシテ之ヲ逮捕スル職權アリト誤解シテ實行シタルカ如キ場合ニハ是レ所謂法律ノ不知ナルカ故ニ罪ヲ免ルヽヲ得サルヤ勿論ナリトス(第三十八條第三項參照)。

以上ハ條件具備スルトキハ六月以上七年以下ハ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キモノトス。

第百九十五條　裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助

スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

本條ハ所謂拷問ヲ爲ス罪及ヒ囚人虐待罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第二百八十二條ノ規定ニ多少ノ修正ヲ加ヘタルモノナリトス。

抑モ昔者罪ヲ斷スルニ必ス自白アルコトヲ要セシカ故ニ自白ヲ求ムル必要手段トシテ拷問ハ各國何レモ場合ヲ限リテ法律ノ命令シタル職權行爲ナリシト雖モ拷問ハ曾ニ野蠻陋醜ノ手段ナルノミナラス之ニ因ル自白ハ却テ信ヲ置クニ足ラサルト共ニ犯人ノ自白ハ判決ノ必要條件ニ非スシテ裁判官ハ自白以外ノ證據ニ依リ自由ニ有罪ノ認定ヲ下スコトヲ得ルニ至リシヲ以テ現時ニ於テハ却テ之ヲ一種ノ犯罪トシテ所罰スルニ至レリ、此レ本條ノ規定アル所以ナリトス。

本條第一項規定ノ罪ノ成立ニハ第一裁判檢察警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ及ヒ第二刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一、裁判檢察警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ爲シタルコトヲ要ス、

即チ檢事及ヒ刑事訴訟法第四十七條規定ノ司法警察官等法律ノ規定ニ從ヒ其職權ヲ執行スルニ際シ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルコトヲ要スルモノトス、然レトモ敢テ被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メノミナルヲ要セス苟クモ職務權限ヲ執行スルニ際シ之ヲ虐待シタルトキ即チ職權ヲ濫用シタルトキハ常ニ本罪成立スルモノトス、例ヘハ單ニ被告人ヲ訊問スルニ際シ不法ニ之ヲ毆打拷責スルカ如キ即チ是レナリトス、

第二、刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルコトヲ要ス

茲ニ刑事被告人トハ犯罪ノ嫌疑者ヲ指稱スル意ニシテ事實犯人ナルト否トヲ既ニ公訴ヲ提起セラレタル者ナルト否トハ之ヲ問ハサルモノトス、尚ホ法文ハ其他ノ者トアルカ故ニ既ニ有罪ノ判決ヲ受ケタル者モ又本罪ノ被害者タルヲ得ルモノトス、而シテ茲ニ暴行ノ意義ニ付キテハ屢々述ヘタル所ナルヲ以テ説明ヲ要セザルモ茲ニ陵虐ハ行爲トハ殘虐若クハ苛酷ノ所爲ト云フノ義ニシテ即チ普通ノ慣習上忍フ可カラサル殘酷ノ所爲ヲ謂フモノトス、但シ如何ナル所爲カ忍フ可カラサルモノナルヤハ各事實ニ付キ諸般ノ事情ヲ斟酌シテ判斷ス可キ問題ナリトス。

以上ハ條件具備スルトキハ三年以下ハ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キモノトス。

本條第二項規定ハ罪ヲ構成スルニハ第一法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ爲シタルコト及ヒ第二暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一、法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ爲シタルコトヲ要ス、

茲ニ法令ニ因リ拘禁セラレタル者即チ被拘禁者トハ既ニ第九十九條ニ於テ詳述シタル如ク彼ノ所謂因人ハ勿論刑事被告人留置人等苟クモ法律ノ規定ニ依リ獄舍ニ拘置セラルヽ者ハ總テ之ヲ指スノ意ナリトス、故ニ彼ノ罰金ヲ禁錮ニ換ヘラレ又ハ拘留ニ處セラレ留置場ニ留置セラルヽ者ノ如キモ茲ニ所謂被拘禁者ナリトス、而シテ此等ノ者ヲ看守又ハ護送スル者トハ典獄、看守長、看守、警部、巡査等ヲ謂フナリ、而シテ本罪ハ此等ノ公務員被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルコトヲ要スルモノトス。

第二、暴行又ハ陵虐ハ行爲ヲ爲シタルコトヲ要ス、

即チ前項ニ於テ述ヘタル如ク被拘禁者ヲ看守又ハ護送スル者彼等ヲ不法ニ毆打拷責シタルトキハ本罪成立スルモノトス、但シ拘禁者公務員ノ命令ニ服從セス抵抗シタルトキニ之ヲ防止スル爲メニ腕力ヲ用ヒタルカ如キ場合ニハ却テ職務執行ノ行爲ニシテ本罪ヲ構成スルコトナキヤ勿論ナリトス、

以上ハ條件具備スルトキハ前項ノ罪ト同シク三年以下ハ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キモノトス。

第百九十六條　前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第二百八十條第二項及第二百八十二條第二項ノ規定ト同一趣旨ナリトス。

本條ノ規定ニ依レハ裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者若クハ被拘禁者ヲ看守又ハ護送スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕監禁シ又ハ刑事被告人若クハ被拘禁者ニ對シ暴行ヲ爲シ因テ其結果人ヲ死傷ニ致シタルトキハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處分ス可キモノナリトス、故ニ例ヘハ司法警察官其職權ヲ濫用シテ人ヲ逮捕シ因テ其身體ヲ傷害シタル場合ニハ重キ第二百四條適用セラレ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處セラル可ク(刑法施行法第三條第三項參照)若シ其傷害カ過失ニ出テタル場合ニハ第二百九條適用セラルヽコトナク重キ第百九十四條適用セラレ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラル可キモノナリトス。

第百九十七條　公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サヽルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價格ヲ追徵ス

本條ハ賄賂ニ關スル罪ヲ規定シタルモノニシテ舊法第二百八十四條及第二百八十八條ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ、蓋シ舊法ハ收賄カ民事裁判ニ關スルト刑事裁判ニ關スルトニ因リテ區別シタルモ此等ハ孰レモ等シク國家ノ公務ニシテ何等區別ノ必要ナキヲ以テ本法ハ此區別ヲ廢シ總テ情狀ニ因リ處分スルコトヽ爲シ、且ツ舊法ハ本罪ハ官吏ニ限リタルモ本法ハ公務員ノ外仲裁人ニモ又之ヲ適用スルコトヽ爲シ、尙且ツ舊法ハ賄賂ヲ收受シ因テ不正ノ處分

ヲ爲シタルトキハ特ニ刑二等ヲ加フル規定ナリシモ本法ハ之ヲ改メ特ニ刑ヲ科スルコトヽ爲シタリ。

本條第一項ハ公務員又ハ仲裁人ハ收賄罪ニ付キ規定シタルモノニシテ本罪ノ成立ニハ第一公務員又ハ仲裁人タルコト、第二其職務ニ關シタルコト及ヒ第三賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若クハ約束シタルコトノ三條件アルヲ要ス。

第一、公務員又ハ仲裁人タルコトヲ要ス

公務員ノ何タルヤニ付キテハ既ニ屢々詳論セシヲ以テ更ニ茲ニ說明ノ要ナシト雖モ茲ニ所謂仲裁人トハ仲裁判斷ヲ爲ス第三者ヲ謂フモノトス、即チ一私人ハ私權上ノ爭ニ付キテハ第三者タル一私人ニ委任シテ其爭ヲ判定セシムルコトヲ得ルモノナリ、而シテ此ノ仲裁判斷ヲ爲サシムルノ合意ハ當事者カ係爭物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限リ其効力ヲ有スルモノトス、而シテ此ノ和解ハ當事者カ互ニ讓步ヲ爲シテ其間ニ存スル爭ヲ止ムルコトヲ約スルニ因リテ其効力ヲ生スルモノトス(民事訴訟法第七百八十六條以下及ヒ民法第六百九十五條參照)斯ノ如ク仲裁人ハ私人間ノ爭ニ關シ其判斷ヲ一任セラレタルモノナルヲ以テ其判定事項ニ付テハ當事者間ニ重大ナル利害關係ヲ生スルモノナリ、從テ若シ仲裁人カ其仲裁ニ關シ一方ニ對シ賄賂ヲ收受スルカ如キコトアルトキハ其影響スル所彼ノ公務員ノ職務執行ニ關スル場合ト異ナルコトナシトス、是レ本法カ特ニ仲裁人ヲシテ公務員ト同一ニ本條ノ規定ヲ適用セシメタル所以ナリトス、蓋シ至公至正ノ職ニ在リテ賄賂ヲ收受スルカ如キハ是レ其職ヲ零賣シテ不義ノ利ヲ圖ルモノニシテ啻ニ社會ヲ害スルノミナラス其陋劣ヤ實ニ謂フ可カラサルモノアレハナリトス

第二、其職務ニ關シタルコトヲ要ス、

即チ公務員又ハ仲裁人カ自己職務ノ執行ニ關シ賄賂ヲ收受シタルコトヲ要スルモノトス、蓋シ本罪ハ公務員又ハ仲裁人カ單ニ一私人ヨリ利益ヲ受クルノ罪ニ非ズシテ其職務ヲ執行スルノ自由ヲ賣買スルノ罪ナレハナリ、然シ其職務ノ執行タルヤ行爲ニ關スルト不行爲ニ關スルト又法ヲ枉クルコトニ關スルト適法ノコトニ關スルトハ之ヲ問ハサルモノトス、故ニ其職務ニ關セサル事項例ヘハ書ニ堪能ナル公務員ニ對シ其揮毫ヲ依賴シテ之ニ一定ノ報酬ヲ約束シタ

ルカ如キ又ハ單ニ一私人ノ交際トシテ友人ヨリ物品ノ寄贈ヲ受ケタルガ如キハ或ハ場合ニ因リテ懲戒處分ヲ受クルコトアルモ本罪ヲ構成スルコトナシト雖モ自己ノ管掌スル所ニ非ザルモノニ關スルトキハ本罪ノ範圍外ナリトス、例ヘバ司法官カ特許ニ關スル囑託ヲ受ケタルカ如キ假令自己ノ職務ニ關スルカ如ク欺瞞シテ囑託ヲ受ケタル場合ニ於テモ詐欺ノ罪ト爲ルハ格別本罪タルコトナキモノトス。

第三、賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若クハ約束シタルハヲト要ス、

賄賂ノ目的物ニ付キテハ從來議論ノアル所ナリト雖モ畢竟利益タルノミヲ以テ十分トス必スシモ金錢ニ見積ルコトヲ得可キ有形ノ物件タルコトヲ要セズ故ニ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘカラサル人ノ行爲若クハ勞力ト雖モ本罪ノ目的タルコトヲ得ルモノトス蓋シ苟クモ或ル利益ノ授受ヲ源因トシタルトキハ假令金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ有形ノ物件ニ依ラサルモ職務ノ執行賣買タルニ於テ毫モ異同アルコトナケレハナリ、故ニ場合ニ因リテハ例ヘハ請託ヲ條件トシテ人ノ妾ト爲ルコトヲ諾スルカ如キ又ハ一夜ノ遊興タル酒色ノ如キモ仍ホ賄賂ナリト謂フコトヲ得ヘキモノトス、而シテ法律ハ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若クハ約束シトアリテ何レカ其一ヲ具備スルノミヲ以テ十分ト爲スカ故ニ假令未タ何等ノ利益ヲ收受セサルモ之ヲ要求シタルトキハ勿論尚ホ之ヲ收受スヘキコトヲ約束シタルトキハ直ニ本罪成立スルモノトス、故ニ假令賄賂ヲ要求シタルモ相手方之ニ應セサリシ場合又ハ之ヲ約束シタルモ後日悔悟シテ其約束シタル利益ヲ收受スルコトヲ中止シタルカ如キ場合ニ於テモ常ニ本罪ハ之ヲ要求シタルトキ又ハ之ヲ約束シタルトキニ完成スヘキモノトス、但シ其賄賂ヲ收受シ又ハ要求シ若クハ約束シタルトキニ自己ノ職務ニ關スル賄賂ナルコトヲ知リテ爲シタルコトヲ要スルヤ勿論ナリトス。

以上ノ條件具備スルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス。

而シテ既ニ一言シタル如ク本罪ハ苟クモ賄賂ヲ收受シ又ハ要求シ若クハ約束シタルトキハ假令適法ナル裁決又ハ判斷ヲ與ヘタルト否トヲ問ハス直ニ成立スルモノトス、然レトモ若シ其結果自己ノ職務ニ付キ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ職務上相當ノ行爲ヲ爲サヽリシトキハ其情狀重キカ故ニ之ヲ重罰スルノ必要

アリ、故ニ本條ハ其第一項末段ニ於テ因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サヽルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處スト規定シタリ。

本條第二項ハ賄賂ノ目的物ハ没收ニ關シ規定シタルモノニシテ本項ノ規定ニ依レハ前項規定ノ罪ヲ犯シ收受シタル賄賂ハ之ヲ没收シ若シ其全部又ハ一部ヲ没收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス可キモノトス、蓋シ既ニ第十九條ニ於テ説明シタル如ク没收ハ一ノ刑罰ニシテ犯罪人ニ對スルモノナルカ故ニ没收ノ目的ト爲リ得ヘキモノハ犯人ノ手ニ存スルモノタラサル可カラス、故ニ若シ犯人カ收受シタル金錢ヲ以テ物品ヲ購求スルカ如ク其賄賂ノ目的物ヲ費消シタルトキハ假令其購求シタル物件等犯人ノ手ニ存スルモ之ヲ没收スルコトヲ得ス唯其始メ收受シタル金錢等ヲ追徵ス可キノミナリトス、從テ本條ハ犯人ヲシテ毫モ不正ノ利益ヲ得サラシメンカ爲メ本項ノ規定ヲ設ケ若シ没收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵スルコトヽ爲シタルモノトス。

第百九十八條　公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ參百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

本條ハ賄賂贈與ニ關スル罪ヲ規定シタルモノニシテ本法ノ新設ニ係ル規定ナリトス、蓋シ舊法之ニ關スル罪ヲ缺如シタルモ若シ之ヲ無罪トセンカ例ヘハ收賄シタル司法官カ贈賄者ノ請託ヲ容レ被告人ヲ陷害シテ死刑ニ處スルモ贈賄者ハ何等ノ責任ヲ負ハサルノ結果普通第三者ニ金錢ヲ與ヘテ以テ殺人行爲ヲ行ハシメタル者ハ殺人罪ノ正犯トシテ重刑ヲ免レサルニ拘ラス公務員ヲシテ贈賄ニ因リ殺人行爲ヲ行ハシメタル者ハ常ニ無罪トシテ何等ノ責任ヲ負フコトナキノ結果ヲ生スルニ至ルヘシ其ノ不合理ナル敢テ識者ヲ俟テ後知ル可キコトニ非ス、或ハ之ヲ罰セサルハ收賄罪ノ發覺ヲ容易ナラシムル刑事政策ニ出テタルモノナルヤ之ヲ知ラスト雖モ斯ル政策ハ決シテ宜シキヲ得タルモノニ非ス、是レ本法カ本條ノ規定ヲ新設シタル所以ナリトス。

本罪ノ成立ニハ公務員又ハ仲裁人ニ對スルコト及ヒ賄賂ヲ贈與提供又ハ約束シタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一、公務員又ハ仲裁人ニ對スルコトヲ要ス、

本條件ニ付キテハ前條ノ說明ニ依リ明瞭ナル可キヲ以テ敢テ贅セス。

第二、賄賂ヲ贈與提供又ハ約束シタルコトヲ要ス、

即チ一私人カ公務員又ハ仲裁人ニ對シ其職務ノ執行ニ關シ賄賂ヲ贈與シ又ハ之ヲ受ケンコトヲ申シ込ミ若クハ之ヲ授クルコトヲ約束シタルトキハ常ニ本罪成立スルモノトス、而シテ其贈與提供又ハ約束ハ贈賄者直ニ爲シタルモノナルト將タ第三者ヲ介シテ爲シタルモノナルトハ之ヲ問ハサルモノトス、然レトモ其公務員又ハ仲裁人ハ其職務執行ニ關シ其贈與ヲ受ケ又ハ其申込ヲ諾シ若クハ其約束ニ應シタルコトヲ要ス、但シ公務員又ハ仲裁人ヨリ賄賂ノ要求ヲ受ケタルモノナルト否トハ之ヲ問ハサルナリトス。

以上ノ條件具備スルトキハ三年以下ノ懲役又ハ參百圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス。

然レトモ本罪ノ如キハ犯人若シ事未タ發覺セサル前ニ自首シタルトキハ實害ヲ未發ニ防ク刑事政策上其刑ヲ減免スルノ必要アリトス、爰ヲ以テ本條第二項ハ前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得ト規定シ以テ犯人ノ自首ヲ奬勵スルコトヽ爲シタリ。

第二十六章　殺人ノ罪

本章ハ殺人罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三編第一章第一節及ヒ第五節ノ規定ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリトス、今其修正ヲ施シタル主要ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シトス。

一舊法ハ殺人罪ヲ大別シテ謀殺及ヒ故殺ノ二種ト爲シタルモ斯ル區別ハ實際上之ヲ判別スルノ頗ル困難ナルノミナラス本法ハ一般ニ刑ノ範圍ヲ擴充シタルヲ以テ斯ル區別ノ必要毫モ存セサルカ故ニ茲ニ之ヲ廢除スルコトヽ爲シタリ。

二舊法ハ其第二百九十三條及ヒ第二百九十五條乃至第二百九十七條ニ於

テ殺人罪ニ關スル種々ノ區別ヲ設ケタリト雖モ是等ハ單ニ殺人ノ手段方法ヲ異ニスルニ過キスシテ本法ニアリテハ其區別ノ必要ナキカ故ニ總テ之ヲ廢除スルコトヽ爲シタリ、又舊法ハ其第二百九十八條ニ於テ誤殺ニ關スル規定ヲ設ケタルモ學理上當然ノ事項ニシテ之ヲ規定スルノ必要ナキノミナラス却テ疑義ヲ生スルノ虞アリシヲ以テ是レモ亦删除スルコトヽ爲シタリ。

三　舊法ハ自殺幇助罪ヲ別節タル第五節ニ規定シタルモ其幇助者ヨリ觀察スレハ等シク殺人罪ノ一種ト看做スヲ得ヘキヲ以テ本法ハ之ヲ本章ニ規定スルコトヽ爲シタリ。

第百九十九條　人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

本法ハ一般殺人罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第二百九十二條乃至第二百九十八條ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリトス。其修正シタル主要ノ點ハ既ニ前述シタル所ナリトス。

本罪ノ成立ニハ人タルコト及ヒ殺シタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一、人タルコトヲ要ス、

法律上人ニ自然人法人ノ二種アリト雖モ茲ニ所謂人ハ自然人ニ限ルモノトス、而シテ仍ホ本罪ノ物體ハ生命アル自己以外ノ人類ニ限ラレ生前ノ胎兒死後ノ遺骸ヲ含マサルハ勿論ナリトス、而シテ出產ノ時期ニ付テハ從來沈痛說一部露出說生聲說獨立呼吸說等多數ノ學說アリト雖モ畢竟出生ハ胎兒カ天然又ハ人工ノ方法ニ依リ全ク母體ノ外ニ出ルヲ以テ完成スト爲スヲ妥當トス、但シ臍體ノ斷絕セルヤ否ヤハ之ヲ問ハス、然レトモ本罪ノ所謂人タルニハ出生ノ完成セル時ニ於テ生兒カ生命ヲ保有セルコトヲ要スルモノトス、但シ其生命ヲ保有セル時間ノ長短及ヒ如何ナル徵候ニ依リ生命アルコトヲ示シタルヤハ之ヲ問ハサルモノトス、又其生兒カ如何ニ異樣ノ形體ヲ有スルモ本罪ノ物體タルニ妨ケナキモノトス斯ク法律上人タルニハ生活機關ヲ具フル產出物タルヲ要スルカ故ニ彼ノ所謂鬼胎ノ如キハ茲ニ人ニ非サルヤ勿論ナリトス、尙ホ本罪カ其構成要件トシテ要求スル所ノ目的物ハ生命アル人タルコトヲ要スルノミニシテ其何人タルヤヲ要セサルカ故ニ苟クモ犯人ノ行爲ニ因リテ生命ヲ破ラレタル

者カ人タルニ於テハ假令犯人ノ殺サント欲シタル所ノ人ニ非サルモ犯罪ノ構成ヲ妨クルコトナシトス、故ニ例ヘハ富豪ナリト信シテ貧賤ノ者ヲ殺シ男子ナリト信シテ誤テ女子ヲ殺シタルカ如キ場合ニ於テモ何等本罪ノ成立ニ關係ナキモノトス。

第二殺シタルコトヲ要ス、

本條人ヲ殺ストハ不法ニ人ノ生命ヲ破壞スルヲ謂フ而シテ其人ノ生命ヲ絶ツニ用ヒタル手段方法ハ之ヲ問ハサルモノトス、故ニ積極的行爲ニ出ツルト消極的行爲ニ出ツルト將タ直接ナルト間接ナルトハ之ヲ別タサルナリトス、從テ例ヘハ舊法規定スルカ如キ一時ノ感激ニ出テタルモノナルト熟慮精思ノ餘ニ出テタルモノナルト又毒藥ヲ施シタルト慘酷ノ所爲ヲ以テシタルト將タ又已ニ犯シタル罪ヲ免カルヽ爲メナルト罪ヲ犯スニ便利ナル爲メナルトハ之ヲ區別スルコトナク、且ツ又直接手ヲ下シテ殺シタルモノナルト母乳ヲ與ヘサリシト云フカ如キ不行爲ニ出テタルモノナルトハ之ヲ別タス常ニ本罪成立スルモノトス、尙ホ若シ物質上ノ手段ニ依ラスシテ單ニ精神的ノ方法ニ依リテ人ノ生命ヲ斷ツコトヲ得ハ理論トシテ本罪成立スト認ムルニ付キ何等ノ妨ケナキモノトス、而シテ其人ノ生命ヲ失ヒタルトキヲ以テ本罪既遂ノ成立時期ナリトス、殺人ノ行爲ト被害者ノ死亡トノ間ニ經過シタル時間ノ長短ニ至リテハ法律上之ヲ區別スルコトナシトス、

尙ホ本罪ノ成立ニハ單ニ人ノ身體ニ危害ヲ生ス可キ行爲ヲ爲スノ意思ノミヲ以テ滿足セス必スヤ之ニ依リテ人ノ生命ヲ害セントノ意思アルコトヲ要ス是レ次章傷害罪ト異ナル所ノ要點ナリトス、但シ本罪ノ要求スル所ノ意思タルヤ單ニ殺人ノ意思アルヲ以テ足リ其何人ヲ殺ス意思タルヤヲ要セサルモノトス。

以上ハ條件具備スルトキハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ハ懲役ニ處ス可キモノトス、蓋シ前述シタルカ如ク本法ハ舊法規定ノ殺人ノ區別ヲ廢棄シタルカ故ニ其情狀ニ應シ裁判官ヲシテ相當ノ刑ヲ科セシムルノ必要アル可シ即チ例ヘハ不具畸形兒ニ對スルト完全ナル人ニ對スルト又赤貧ノ餘リ止ムナク犯シタルト不具戴天ノ仇敵トシテ熟慮精思ニ出テタルト將タ又虐殺シタルト誤殺

シタルトニ依リ其刑ヲ異ニスルノ必要アルカ如キ是レナリ、因テ本條ハ其科料範圍ヲ廣濶ナラシメ三年以上又ハ死刑ト爲シタル所以ナリトス。

第二百條　自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ尊屬親ニ對スル殺人罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三百六十二條第一項ヲ補修シタルモノナリトス。

本罪ノ成立ニハ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ナルコト及ヒ殺シタルコトノ二條件アルヲ要スルモノトス。

第一、自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ナルコトヲ要ス、

本條所謂直系尊屬トハ自己又ハ自己ノ配偶者ヨリ世數ヲ上ニ計算シタル親等ヲ謂フモノトス、即チ自己又ハ自己ノ配偶者ノ父母祖父母曾祖父母高祖父母等是レナリトス、法文特ニ直系尊屬トアルカ故ニ自己ノ兄弟姉妹配偶者伯叔父母及ヒ自己ノ配偶者ノ兄弟姉妹等即チ所謂傍系尊屬ハ本條ニ包含セサル所ナリトス、然レトモ繼父母嫡母及ヒ養親ハ本條所謂直系尊屬ナリトス蓋シ養子ト養親及ヒ其血族トノ間ニ於テハ養子緣組ノ日ヨリ血族間ニ於ケルト同一ノ親屬關係ヲ生シ繼父母ト繼子ト又嫡母ト庶子トノ間ニ於テハ親子間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生スルモノナレハナリトス(民法第七百二十七條及ヒ第七百二十八條參照)從テ本條所謂自己ハ子孫曾孫玄孫等ハ勿論養子養女庶子等ヲ指稱スルモノトス、然レトモ姻族關係及ヒ繼父母ト繼子ト又嫡母ト庶子トノ間ニ於ケル親屬關係ハ離婚ニ因リテ止ミ養子ト養親トノ親屬關係ハ離緣ニ因リテ止ムモノナレハ離婚離緣後ハ例ヘハ養子カ養親ヲ庶子カ嫡母ヲ子カ其配偶者ノ父母ヲ殺スカ如キコトアルモ是レ前條規定ノ普通殺人罪ニシテ本罪ニアラサルモノトス(民法第七百二十九條及ヒ第七百三十條參照)。

第二、殺シタルコトヲ要ス、

本條件ニ付キテハ前條ニテ說明シタルト同一ナルカ故ニ再說セス、然レトモ茲ニ注意ス可キハ本罪ノ成立ニハ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ナルコトヲ知リテ殺シタルコトヲ要スルコト是レナリトス、從テ若シ自己ノ直系尊屬親ナルコトヲ知ラス他人ト誤信シテ之ヲ殺シタルカ如キ場合ニハ第三十八條第二項ニ

依リ本罪ヲ以テ論スルコトヲ得スシテ前條ニ依リ處分ス可キモノナリトス。

以上ハ條件具備スルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス可キモノトス。

第二百一條　前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

本條ハ殺人罪ノ豫備行爲ヲ罰スルコトヲ規定シタルモノニシテ本法ノ創設ニ係ル規定ナリトス、蓋シ殺人罪ノ如キハ其罪極メテ重ク社會ノ秩序ヲ害スルコト最モ大ナルモノナルヲ以テ之カ危害ヲ未發ニ防止スルノ必要アレハナリトス。

本條所謂豫備トハ既ニ第七十八條ニ於テ詳論シタル如ク犯罪ノ實行ノ着手ニ先ナタル準備行爲即チ換言セハ犯罪ノ着手ニ導クヘキ徑路ニ當ル外部身體ノ動止ヲ謂フモノトス、例ヘハ人ヲ殺サンカ爲メニ之ニ用フ可キ刀劍又ハ毒物ヲ購求スルカ如キ若クハ尙一歩進テ之ヲ携ヘテ被害者ノ居宅ニ進ムカ如キ即チ是レナリトス、但シ其豫備行爲ト未遂ノ行爲トハ極メテ密接ニシテ之ヲ區別スルコト困難ナルモ結局ハ裁判官ノ判定ニ委ス可キ事實問題ナリトス、而シテ本條ハ罪ヲ犯シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス、然レトモ場合ニ因リ其情狀輕キ者ニ對シテハ其刑ヲ免除スルノ必要アリ、故ニ本條ハ其但書ニ於テ情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得ト規定シタルモノトス。

第二百二條　人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

本條ハ所謂自殺幫助罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三百二十條及ヒ第三百二十一條ノ規定ヲ合シ之ヲ修正シタルモノナリトス、即舊法ハ自己ノ利益ノ爲メニスルト否トヲ區別シタリト雖モ斯ル必要ナキヲ以テ本法ハ之ヲ廢シ尙且ツ被殺者ノ承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル場合ニ付キテハ從來議論ノアリシ所ナルヲ以テ其疑義ヲ避ケンカ爲メニ本法ハ此場合ニ付キテモ自殺幫助罪ナ

ルコトヲ規定シタリ。

抑モ自殺ノ行爲其自身ハ立法上之ヲ不問ニ措クヘキモノナルヤ將タ相當ノ制裁ヲ科ス可キモノナルヤニ付キ古來議論ノアル所ニシテ古今ノ立法例又區々タリ、或ハ之ヲ不法ノ行爲トナシテ自殺ヲ遂ケサリシ者ハ勿論其之ヲ遂ケタルモノト雖モ其遺骸ニ或一種ノ刑罰ヲ科シ又ハ其財産ヲ官沒シ若クハ其遺言ヲ無効ト爲シタリ、然レトモ近世一般ノ立法例ニ於テハ元來自殺者ハ其行爲自身ニ於テ已ニ死モ之ヲ避ケサルモノナルヲ以テ之ニ對シテ刑罰ヲ加フルモ何等ノ效果ヲ奏スヘキモノニ非スト爲シ之ヲ處罰セサルコトヽナシタリ、然リト雖モ他人ノ自殺ヲ幇助スルカ如キハ啻ニ背德ノ行爲タルノミナラス一種ノ殺人トモ看做シ得ヘキ行爲ナルカ故ニ何レノ國ニ於テモ之ヲ處罰スルヲ例トス、本法カ本條ノ規定ヲ設ケタル所以モ亦實ニ茲ニアリ、從テ本條規定ノ行爲ヲ罰スル所以タルヤ自殺其モノカ罪ト爲ルカ爲メニ非スシテ一種獨立ノ犯罪トシテ其行爲自身害惡アルヲ以テナリトス。

本條ノ規定ハ之ヲ二段ニ別チテ說明スルヲ便宜トスルヲ以テ假リニ二罪ニ區別シテ釋義ス可シ。

第一、人ヲ敎唆若クハ幇助シテ自殺セシメタル罪

本罪ノ成立ニハ自殺セシメタルコト及ヒ人ヲ敎唆若クハ幇助シタルコトノ二條件アルヲ要スルモノトス。

(一)自殺セシメタルコトヲ要ス、

凡ソ自殺ト他殺トハ單ニ生命ヲ亡失セシメタル行爲其モノヲ爲シタル者カ死者自身タルト否トニ依リテ區別ス可キモノニ非スシテ殺人行爲其モノヲ誘發シタル原因即チ意思カ死者自身ニ存スルト否トニ依リテ區別スヘキモノナリトス從テ自殺トハ死者自身ノ意思ヲ原因トスル殺人行爲ヲ謂フモノトス。

(二)人ヲ敎唆若クハ幇助シタルコトヲ要ス、

茲ニ敎唆トハ自殺ノ決心ヲ與フル所爲ヲ謂フ其目的トスル所自己ノ利益ノ爲メナルト否トヲ問ハサルモノトス、故ニ例ヘハ自己ノ惡事ヲ知リタル者ニ對シ其發覺ヲ惧レ自殺ヲ敎唆シタルカ如キ又ハ財産横領ノ目的ヲ以テ爲シタルカ如キ若クハ自己ノ配偶者ヲ無キ者ニシテ他ノ美女ト結婚センカ爲メ自己モ

亦共ニ情死スベシト詐リ之ヲ教唆シテ自殺ヲ決意セシメタルカ如キ總テ本罪タルモノトス、又茲ニ幇助トハ自殺ヲ容易ナラシムル總テノ行爲ヲ謂フモノトス、即チ例ヘハ自殺者ノ要求ニ應シテ毒藥ヲ與ヘ又ハ銃劍ヲ貸與スルカ如キ是レナリ、然レトモ自殺スルコトヲ知リテ之ヲ幇助シタルコトヲ要スルヤ勿論ナリトス、

第二、被殺者ハ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタルハ罪、

本罪ノ成立ニハ殺シタルコト及ヒ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得タルコトノ二條件アルヲ要ス

(一)殺シタルコトヲ要ス

本條件ニ付キテハ既ニ第百九十九條ニ於テ述ヘタル所ナルヲ以テ就テ參照スヘシ

(二)被殺者ハ囑託ヲ受ケ又ハ承諾ヲ得タルコトヲ要ス、

本條所謂被殺者ノ囑託ヲ受ケ之ヲ殺ストハ即チ介錯ヲ爲シタルノ意ナリトス、例ヘハ情死ノ相手方タル婦女死ヲ決心シタルモ自ラ死スルノ勇ナク介錯ヲ囑託シタルカ如キ是ナリ、又本條被殺者ノ承諾ヲ得テ之ヲ殺シタルトハ例ヘハ情死ノ場合ニ相手方ノ承諾ヲ得テ殺スカ如キ又ハ不治ノ病氣ニ惱メル老人ニ對シ之ヲ殺シテ其病苦ヲ免レシメント欲シ病者ノ承諾ヲ得テ殺スカ如キヲ謂フモノトス、而シテ若シ人ヲ教唆シテ自殺ヲ決意セシメタル後其囑託ヲ受ケテ殺シタルカ如キ場合ニハ本罪及前罪ノ二罪併發ニ非スシテ前罪ノミヲ構成スルモノトス、

以上ノ條件具備スルトキハ二罪共ニ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス、

第二百三條　第百九十九條、第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ殺人罪及ヒ自殺幇助罪ハ未遂罪ヲ罰スルコトヲ規定シタルモノナリ、未遂罪ノ何タルヤニ付キテハ第一編第八章ニ於テ詳論シタル所ナルヲ以テ茲ニ贅スルノ要ナキモ二三ノ例ヲ示サンニ例ヘハ人ヲ殺サント欲シ刀劍ヲ携ヘテ被害者ノ邸宅ニ忍ヒ入リタル行爲乃至刀ヲ拔キテ正ニ切リ付ケントシタル

行爲及ヒ切リ付ケタルモ被害者ヲシテ死ニ至ラシムルコト能ハサリシ場合ノ如キ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ之ニ毒藥ヲ與ヘタルモ其分量少ナカリシ爲メ死ニ致サシムルコト能ハサリシ場合ノ如キ即チ第百九十九條及ヒ前條規定ノ罪ノ未遂罪ナリトス。

第二十七章　傷害ノ罪

本章ハ舊法所謂毆打創傷罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三編第一章第二節ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノトス、其修正ヲ加ヘタル主要ノ點ハ左ノ如シトス

一舊法ハ本章ヲ毆打創傷ノ罪ト爲シタルモ元來毆打ナル文字ハ固體ヲ以テ打擊ヲ加フルノ意ヲ有シ液體又ハ氣體ヲ以テスル場合ヲ含マサルノ觀アリ且ツ創傷ナル文字モ單ニ表見的ノ意ヲ有シ身體內部ノ不表見的損傷ヲ含マサルヤノ感アリテ疑義ヲ生スルヲ免レサリシヲ以テ本法ハ之ヲ傷害ノ罪ト改メ汎ク身體傷害ニ關スル總テノ場合ヲ包含セシヲ以テ普通一般ニ了解シ易カラシムルコトヽ爲シタリ

二舊法ハ豫謀ニ出ツル傷害罪ト否ラサルモノトヲ區別スルト共ニ其第三百二條第三百三條第三百七條及ヒ第三百八條ニ於テ本罪ニ種々ナル區別ヲ附シ科刑ヲ異ニシタルモ本法ハ是等ノ區別ヲ廢シ一ニ裁判所ノ認定ニ任スル趣旨ヲ以テ此等ノ規定ヲ刪除シタリ。

第二百四條　人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

本條ハ一般人ハ身體ヲ傷害シタル罪ヲ規定シタルモノニシテ舊法第三百一ニ修正ヲ施シタルモノナリトス即チ舊法ハ本條ノ場合ニ關シ細密ナル區別ヲ爲シテ各其科刑ヲ異ニシタリト雖モ是レ極メテ煩雜ニシテ倒底其正確ヲ期ルコト能ハサルヲ以テ本法ハ全ク此等ノ區分ヲ廢棄シ概括的ニ刑ノ範圍ヲ定メ裁判所ヲシテ自由ニ適宜ノ刑ヲ科セシムルコトヽ爲シタリ

本罪ノ成立ニハ生活セル人ノ身體ナルコト及ヒ傷害シタルコトノ二條件ヲ要ス。

第一、生活セル人ノ身體ナルコトヲ要ス、

生活セル人ニ對スルコトヲ要スルカ故ニ既ニ死亡シタル死屍ニ對スル場合ハ第百九十條及ヒ第百九十一條規定ノ罪トナルハ格別本罪タルコトナシトス、又人ノ身體ニ對スルコトヲ要スルカ故ニ人ニ對スルモノト雖モ其名譽自由ニ對スル場合ハ第三十一章又ハ第三十四章規定ノ罪トナルコトアルモ本罪ヲ構成スルコトナシトス。

第二、傷害シタルコトヲ要ス、

本條人ノ身體ヲ傷害シタルトハ人ノ身體ニ病理的作用ヲ起サシメタルヲ謂フモノトス。而シテ其作用ノ大小ハ之ヲ問ハサルモノトス故ニ例ヘハ傷害ノ結果人ヲ篤疾ニ致シタルト廢疾ニ致シタルト將タ又職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメタルト疾病休業數日ニ至ラシメタルトハ之ヲ別タス總テ本罪タルモノトス、而シテ又其人ヲ傷害シタル動機ノ如何ハ之ヲ問フコトナシトス故ニ罪ヲ犯スニ便利ナル爲メナルト已ニ犯シタル罪ヲ免カルヽ爲メナルト將タ又豫メ謀ヲ爲シタルト一時ノ感情ニ出タルトハ之ヲ區別スルコトナクシテ常ニ本罪成立スルモノトス、然レトモ人ノ身體ニ損傷ヲ與フルノ結果ヲ生シタルコトヲ要スルカ故ニ如何ニ危險ナル行爲ト雖モ又犯人ニ於テ何程重大ナル損害ヲ與フル目的アリト雖モ人ノ身體ニ未タ何等ノ損害ヲモ生セサル間ハ無罪ナリトス、而シテ苟クモ人ノ身體ニ損傷ヲ加ヘタル以上ハ其傷害ノ方法カ銃劍又ハ木石ヲ以テ毆打スルト又火水熱湯ヲ注キ或ハ蒸氣電氣又ハ藥物等ヲ注キタルトヲ分タス又身體ノ外部ニ對スルト內部ニ對スルトヲ區別スルコトナク且又其行爲ノ直接ナルト間接ナルト作爲ナルト不作爲ナルトハ敢テ問フ可ニ非サルナリトス、故ニ例ヘハ子供カ火傷セントスルニ當リ親カ傷ヲ負ハシムルノ意思ヲ以テ捨テ置クカ如キモ本罪タルヲ免レサルモノトス。

尙ホ本罪ノ成立ニハ人身ニ損傷ヲ與フ可キ行爲ヲ爲スノ意思アルコトヲ要スルヤ勿論ナリトス、而シテ其意思ハ單ニ人身ニ損傷ヲ與フル性質ノ行爲ヲ爲スノ意思アルヲ以テ足リ敢テ傷害ノ程度ヲ豫期シタルコトヲ要セス、然レトモ若シ初メヨリ人ヲ殺スノ意思アリシモノナルニ於テハ假令其結果單ニ傷害ヲ加ヘタルニ止マリシ場合ト雖モ殺人罪ノ未遂罪ニシテ本罪ニ非サルモノトス、

第一、生活セル人ノ身體ナルコトヲ要ス、

生活セル人ニ對スルコトヲ要スルカ故ニ既ニ死亡シタル死屍ニ對スル場合ハ第百九十條及ヒ第百九十一條規定ノ罪トナルハ格別本罪タルコトナシトス、又人ノ身體ニ對スルコトヲ要スルカ故ニ人ニ對スルモノト雖モ其名譽自由ニ對スル場合ハ第三十一章又ハ第三十四章規定ノ罪トナルコトアルモ本罪ヲ構成スルコトナシトス。

第二、傷害シタルコトヲ要ス、

本條人ノ身體ヲ傷害シタルトハ人ノ身體ニ病理的作用ヲ起サシメタルヲ謂フモノトス。而シテ其作用ノ大小ハ之ヲ問ハサルモノトス故ニ例ヘハ傷害ノ結果人ヲ篤疾ニ致シタルト廢疾ニ致シタルト將タ又職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメタルト疾病休業數日ニ至ラシメタルトハ之ヲ別タス總テ本罪タルモノトス、而シテ又其人ヲ傷害シタル動機ノ如何ハ之ヲ問フコトナシトス故ニ罪ヲ犯スニ便利ナル爲メナルト已ニ犯シタル罪ヲ免カルヽ爲メナルト將タ又豫メ謀ヲ爲シタルト一時ノ感情ニ出タルトハ之ヲ區別スルコトナクシテ常ニ本罪成立スルモノトス、然レトモ人ノ身體ニ損傷ヲ與フルノ結果ヲ生シタルコトヲ要スルカ故ニ如何ニ危險ナル行爲ト雖モ又犯人ニ於テ何程重大ナル損害ヲ與フル目的アリト雖モ人ノ身體ニ未タ何等ノ損害ヲモ生セサル間ハ無罪ナリトス、而シテ苟クモ人ノ身體ニ損傷ヲ加ヘタル以上ハ其傷害ノ方法カ銃劍又ハ木石ヲ以テ毆打スルト又火水熱湯ヲ注キ或ハ蒸氣電氣又ハ藥物等ヲ注キタルトヲ分タス又身體ノ外部ニ對スルト內部ニ對スルトヲ區別スルコトナク且又其行爲ノ直接ナルト間接ナルト作爲ナルト不作爲ナルトハ敢テ問フ可ニ非サルナリトス、故ニ例ヘハ子供カ火傷セントスルニ當リ親カ傷ヲ負ハシムルノ意思ヲ以テ捨テ置クカ如キモ本罪タルヲ免レサルモノトス。

尙ホ本罪ノ成立ニハ人身ニ損傷ヲ與フ可キ行爲ヲ爲スノ意思アルコトヲ要スルヤ勿論ナリトス、而シテ其意思ハ單ニ人身ニ損傷ヲ與フル性質ノ行爲ヲ爲スノ意思アルヲ以テ足リ敢テ傷害ハ程度ヲ豫期シタルコトヲ要セス、然レトモ若シ初メヨリ人ヲ殺スノ意思アリシモノナルニ於テハ假令其結果單ニ傷害ヲ加ヘタルニ止マリシ場合ト雖モ殺人罪ノ未遂罪ニシテ本罪ニ非サルモノトス、

終リニ注意ス可キハ第三十五條所謂法令又ハ正當ナル業務ノ範圍ヲ超越シタル行爲ナリース、即チ懲戒權ノ範圍ヲ超ヘタル傷害行爲ノ如キ、是レナリ、而シテ其何レマテヲ懲戒權ノ實行トシ何レヨリヲ刑法ノ犯罪行爲ト看做スヘキヤハ結局一般ノ慣習ニ依リテ之ヲ判定スルノ外ナシトス、即チ彼ノ惡心アル小兒ヲ懲戒セントシテ灸點ヲ施スカ如キハ今日一般ノ慣習上普通ノ懲戒手段トシテ是認スル所ナリトス。

以上ハ條件具備スルトキハ十年以下ノ懲戒又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス可キモノトス。

第二百五條　身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

本條第一項ハ傷害致死罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第二百九十九條ト同一趣旨ノ規定ナリトス。

本罪ノ成立ニハ人ノ身體ヲ傷害シタルコト及ヒ因テ人ヲ死ニ致シタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一、人ノ身體ヲ傷害シタルコトヲ要ス、

本條件ハ前條規定ノ罪ヲ犯シタルコトヲ指スモノナルカ故ニ別ニ說明ヲ要セサル可シ。

第二、因テ人ヲ死ニ致シタルコトヲ要ス、

即チ人ノ身體ヲ損傷シ因テ其結果其人ノ生命ヲ喪失セシメタルコトヲ要スルモノトス、從テ其傷害ナル行爲ト死トノ間ニ因果關係アルヲ要ス假令人ノ身ニ傷害ヲ加フルモ其ノ行爲以外ノ影響ニ因リ死ノ結果ヲ生シタルトキハ本罪ニ非サルモノトス、例ヘハ一刀ノ下ニ切リ付ケ單ニ負傷セシメタルニ過キサリシモ被害者恐レテ逃走シ途中落雷ニ擊タレテ死シタルカ如キ場合即チ是レナリトス、然レトモ其果シテ行爲ト結果トノ間ニ因果關係アリシヤ否ヤハ事實問題ニシテ結局裁判官ノ判定ニ委スヘキコトナリトス、但シ苟クモ此間ニ明白

ナル因果關係ノ存在スルニ於テハ其經過時間ノ多少遲速等ハ犯罪ノ構成ニ何等ノ影響ヲモ有セサルモノトス。

仍ホ茲ニ注意ス可キハ本罪ト前章規定ノ殺人罪トノ區別ナリトス。蓋シ殺人罪タルヤ初メヨリ殺人ノ意思即チ被害者ノ死ヲ豫期シタルコトヲ要ス但シ其ノ意思ハ確定ノモノタルヲ要セス即チ例ヘハ心中或ハ彼ヲ殺スコトヲ得サルヤモ知レスト信セシモ苟クモ殺ス目的ヲ以テ其者ノ生命ヲ喪失セシメタルトキハ常ニ殺人罪ナリトス、然レトモ本罪ハ之ニ反シテ毫モ殺人ノ意思從テ被害者ノ死ヲ豫期セザリシ場合ナルヲ要スルモノトス即チ何等之ヲ殺スノ意思ナクシテ單ニ傷害ヲ加ヘタルニ意外ニモ其結果被害者死シタル場合ノ如キハ本罪ナリトス。

以上ハ條件具備スルトキハ二年以上ハ有期懲役ニ處ス可キモノトス。

本條第二項ハ前項ノ罪ヲ自己又ハ配偶者ハ直系尊屬ニ對シテ犯シタル場合ニ關スル罪ヲ規定シタルモノニシテ舊法第三百六十三條ト同一趣旨ノ規定ナリトス、

本罪ノ處立ニハ第一自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ノ身體ヲ傷害シタルコト及ヒ第二因テ之ヲ死ニ致シタルコトノ二條件アルヲ要スルモ何レモ第二百條及ヒ前項ノ說明ニ依リテ明瞭ナルカ故ニ茲ニ敢テ贅セサルヘシ、唯茲ニ注意ス可キハ本章ノ罪ハ單ニ其結果ヲ罰スルモノナルカ故ニ共犯ノ場合ニ於テモ單ニ尊屬親ヲ傷害スルコトヲ敎唆シタルニ止マリ特ニ之ヲ死ニ致ス可キコトヲ敎唆シタルコトナシト雖モ等シク傷害致死罪ヲ以テ論ス可キモノトス、然レトモ本罪ノ共犯者ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ本罪ノ刑ヲ科セラルヽコトナク前項ノ罪ノ刑ヲ科セラル可キモノトス、而シテ本罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス可キモノトス。

第二百六條　前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五拾圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

本條ハ傷害罪ヲ犯ス者ヲ助勢シタル罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第

三百六條ノ規定ヲ修正シタルモノナリトス。

本罪ノ成立ニハ前二條ノ犯罪アルニ當リタルコト及ヒ現場ニ於テ勢ヲ助ケタルコトノ二條件アルヲ要スルモノトス。

第一、前二條ノ犯罪アルニ當リタルコトヲ要ス、

即チ前二條ニ規定シタルカ如キ傷害罪ヲ犯スモノアルニ當リ之ヲ助勢シタルコトヲ要スルモノトス而シテ前二條ノ犯罪ノ如何ナルモノナルヤハ既ニ說明シタルヲ以テ茲ニ之ヲ省畧ス、

第二、現場ニ於テ勢ヲ助ケタルコトヲ要ス、

前二條規定ノ犯罪ノ行ハレシ現場ニ於テ爲シタルコトヲ要スルカ故ニ如何ニ犯罪者ノ勢ヲ助ケ之ヲ煽動スルモ現場ニ於テ爲サヽル以上ハ前二條ノ犯罪ノ從犯トシテ處罰セラルヽハ格別本罪ヲ構成セサルモノトス、而シテ又單ニ勢ヲ助ケタルコトヲ要スルカ故ニ假令現場ニ於テ爲スモ例ヘハ刀劍棍棒等ヲ犯罪者ニ貸與シ犯罪ノ遂行ヲ容易ナラシムルカ如キ傷害者ヲ幫助シタル場合ハ是又傷害罪ノ從犯ニシテ本罪ニ非サルモノトス、本罪ハ例ヘハ路上喧嘩ヲ爲ス者アルニ當リ其現場ニ傍觀シナカラ一方ノ傷害者ニ對シ助言ヲ發シ其勢ヲ強大ナラシメタルカ如キ場合ヲ謂フモノトス、蓋シ往々犯人自身ニハサシタル害意ナキモ傍ラナル助勢者ノ煽動ニ因リテ單ニ男ノ意地等ト云フカ如キコトヨリ遂ニ他人ニ傷害ヲ與フルカ如キコトアルヲ以テ斯ル場合ニハ其犯罪ハ殆ト煽動者ニ因リテ決行セラレタリト謂フヲ得ヘキカ故ニ法律之ヲ嚴罰シ以テ大害ヲ未發ニ防止センカ爲メ本條ノ規定ヲ設ケタルモノナリトス。

而シテ本罪ノ成立ニハ自ラ人ニ傷害ヲ加フル意思アルヲ要セス單ニ人ヲ傷害スルモノナルコトヲ知リテ其勢ヲ助クル意思アルヲ以テ足ルモノトス。

以上ハ條件具備スルトキハ假令自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五拾圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス可キモノトス。

第二百七條　二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非ス

ト雖モ共犯ノ例ニ依ル

本條ハ傷害罪ハ共犯ニ關スル特例ヲ規定シタルモノニシテ舊法第三百五條ト同一趣旨ノ規定ナリトス、蓋シ多數人カ同時ニ人ヲ傷害スル場合ノ如キハ多クハ何人カ如何ナル傷ヲ與ヘタルカヲ証明シ得サルヲ通例トス、然ルニ之ヲ証據不充分トシテ無罪トナスニ於テハ往々實際ニ起ル所ノ彼ノ共毆ト云フ實害ノ最モ大ナル場合ニ對シテモ常ニ之ヲ無罪トセサル可カラサルノ不都合ヲ生ス可キカ故ニ特ニ本條ノ如キ規定ヲ設ケ斯ル場合ニハ常ニ共犯ノ例ニ從フ可キコトヲ規定シタル所以ナリトス、

本條ハ即チ二人以上數人ニテ暴行ヲ以テ人ヲ傷害シ其結果二個以上ノ傷害ヲ負ハシメタルモ何レカ何人ノ加ヘタル傷害ナルカ判然セサル場合又ハ一個ノ傷害ヲ加ヘタルモ其ハ何人カ生セシメタル・モノナルカ判然セサル場合ニハ暴行者ノ總テヲ第一編第十一章規定ノ共犯例ニ從ヒ處罰ス可キコトヲ規定シタルモノトス、從テ被害者ニ單ニ一個ノ創傷ヲ負ハセタルニ加害者數人ニシテ而モ其傷ハ其内ノ一人ノ生セシメタルモノニテ其以外ノ者ハ全ク傷ヲ負ハシメサルハ勿論毆打其他ノ處爲スラ之ヲ爲サヽリシモノナリト雖モ其加害ノ本人ノ誰レナルカヲ知ル能ハサル場合ニハ一同ノ者モ尚ホ刑罰ヲ免ルヽコトヲ得サルモノトス、而シテ其二人以上ノ者ハ豫メ謀テ即チ通牒シテ暴行ヲ爲シタルコトヲ要セス偶然期セスシテ數人共ニ人ヲ傷害シタル場合ニ於テモ尚本條ニ依リ其罪ヲ論ス可キモノトス、然レトモ各人皆人ヲ傷害スルノ意思アリタルコトヲ要スルヤ勿論ナリトス、

第二百八條　暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五拾圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ハ暴行罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第四百二十六條ト同一趣旨ノ規定ナリトス、但シ舊法ハ之ヲ其第四編違警罪中ニ規定シタルモ本法ハ違警罪ナルモノヲ認メサルカ故ニ本章中ニ規定スルコトト爲シタルナリ。

本罪ノ成立ニハ第一、暴行ヲ加ヘタルコト及ヒ第二、人ヲ傷害スルニ至ラサリシコトノ二條件アルヲ要スルモ各條件別ニ説明ヲ要セスシテ明ラカナル可シ、畢竟本條ハ總テノ暴行ヲ含ムカ故ニ例ヘハ面ニ唾シ又ハ糞尿其他ノ穢物ヲ注キ若クハ雜沓ノ際人ヲ押倒スカ如キハ勿論彼ノ女子ノ頭髮ヲ切斷スルカ如キモ本條ニ依リ處分ス可キモノナリトス、而シテ本罪ヲ犯シタルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五拾圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス可キモノトス。

本條第二項ハ前項ハ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス可キコトヲ規定シタルモノナリトス、蓋シ前項ノ罪ノ如キハ事体輕微ナルヲ以テ之ヲ親告罪ト爲スヲ實際上利益アリト認メタレハナリトス。

第二十八章　過失傷害ノ罪

本章ハ過失ニ因リ人ヲ殺傷シタル罪ヲ規定シタルモノニシテ舊法第三編第一章第四節ノ規定ニ修正ヲ施シタルモノナリ、即チ舊法ハ職務ニ關スル過失傷害ノ場合ニ付キ何等ノ規定ヲモ設ケサリシモ是レ甚タ必要ナルカ故ニ本法ハ之ヲ新設スルコトト爲シタリ、又舊法ハ過失傷害罪ヲ親告罪ト爲サヽリシモ本法ハ之ヲ親告罪ト爲スコトトシタリ。

第二百九條　過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ハ過失ニ因リ人ヲ傷害シタル罪ヲ規定シタルモノニシテ舊法第三百十八條及ヒ第三百十九條ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノトス、蓋シ舊法ハ過失ノ原因ヲ疎慮懈怠又ハ規則習慣ノ不遵守ト爲シタルモ斯ル區別ノ必要ナキヲ以テ本法ハ此區別ヲ廢シ過失ノ源因如何ヲ問ハサルコトト爲シタリ。

本罪ノ成立ニハ過失ニ因リタルコト及ヒ人ヲ傷害シタルコトノ二條件アルヲ要ス、

第一、過失ニ因リタルコトヲ要ス、

過失ノ意義ニ付キテハ既ニ第百十六條ニ於テ述ヘタル如ク不注意ナル有意

ノ行爲ヨリ豫期セサル結果ヲ生セシメタル獸態ヲ謂フモノトス即チ不注意ナル行爲當然ノ結果ヲ生シタル場合ヲ謂フモノナリトス、而シテ其果シテ不注意ヨリ出テタルヤ否ヤハ常ニ所爲者自身ノ能力如何及ヒ法令習慣等ニ照按シ關係的ニ判定ス可キコトナリトス、而シテ又被害者ノ不注意ハ所爲者ノ過失ヲ減却スルノ原因ト爲ラサルモノトス、故ニ例ヘハ鐵道線路上ヲ步行セルニ際シ汽車ノ進行シ來ルヲ注意セスシテ列車ニフレ負傷シタルカ如キ場合ニ於テモ運轉手ハ本罪ヲ免ルヽヲ得サルモノトス、尙ホ本罪ハ其過失ノ原因如何ハ之ヲ問ハサルモノナルカ故ニ所爲者カ少シノ思慮ヲ運ラサハ危險ヲ發見シ過失ヲ爲ササルコトヲ得タルニ拘ラス沈重ナラザリシヨリ遂ニ人ヲ傷害スルニ至リタル場合ナルト又所爲者カ既ニ危險ヲ發見セルニ拘ラス其ヲ防止スルノ勞ヲ厭ヒ万一ヲ僥倖セントシ横着ヲ構ヘタルカ爲メ遂ニ本意ナラサル傷害ヲ人ニ與ヘタルカ如キ場合ナルトハ之ヲ別タス同樣ニ本罪ニ依リ論ス可キモノナリトス、要スルニ彼ノ不注意ニモ食物ト思ヒテ人ニ毒藥ヲ與ヘ以テ人ノ身體ノ內部ニ傷害ヲ負ハシメタルカ如キ又ハ傍ラニ人アルニ拘ラス不注意ニモ杖ヲ振リ上ケテ以テ他人ノ身體ニ負傷セシメタルカ如キ總テ所爲者ノ不注意ニ原因スルモノナルカ故ニ常ニ本罪ヲ構成スルモノトス。

第二、人ヲ傷害シタルコトヲ要ス、

本條件ハ既ニ第二百四條ニ於テ述ヘタルト同一ナルヲ以テ敢テ再說セサル可シ。

以上ハ條件具備スルトキハ五百圓以下ハ罰金又ハ科料ニ處ス可キモノトス。

本條第二項ハ前項ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス可キ旨ヲ規定シタルモノニシテ本法ノ新設ニ係ル規定ナリトス、蓋シ本罪ノ如キハ其情幾分カ怨ス可キ所アルノミナラス之ヲ親告罪トナスヲ利益トスレハナリトス、親告罪ニ關シテハ既ニ屢々詳述セシ所ナルヲ以テ茲ニ之ヲ省畧ス。

第二百十條　過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ過失ニ因リ人ヲ殺シタル罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三百十七條ト其立法趣旨ヲ同一ニス。

本罪ノ成立ニハ第一、過失ニ因リタルコト及ヒ第二、人ヲ殺シタルコトノ二條件アルヲ要スルモ各條件何レモ前條及ヒ第百九十九條ノ説明ヲ參照セハ其意自ラ明瞭ナルカ故ニ別ニ説明セサル可シ、唯一言注意ス可キハ本罪ハ前條ノ罪ト同シク其殺人行爲タル常ニ不注意ニ原因スルモノナルヲ要スルカ故ニ或ル行爲カ本罪ナルヤ否ヤノ問題ヲ決スルカ爲メニハ常ニ行爲者ニ於テ不注意ノ行爲アリタルヤ否ヤヲ調査セサル可カラサルコト是レナリトス。

而シテ本罪ヲ犯シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス。

第二百十一條　業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ其結果人ヲ死傷ニ致シタル罪ニツキ規定シタルモノニシテ本法ノ新設ニ係ル規定ナリトス。

本罪ノ成立ニハ業務上必要ナル注意ヲ怠リタルコト及ヒ因テ人ヲ死傷ニ致シタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一、業務上必要ナル注意ヲ怠リタルコトヲ要ス、

茲ニ業務上必要ナル注意ヲ怠リトハ自己ノ職務營業ニ關シ法令ニ依リ一定ノ注意ヲ施サヽル可カラサル義務アルニ拘ラス其注意ヲ怠リタル總テノ場合ヲ指稱スル意ナリトス、之ヲ例ヘハ汽車電車ノ運轉手ハ汽車電車ノ運轉ニ關スル總テノ危險ニ對シ注意スルノ義務アルニ拘ラス其注意ヲ怠リタルカ爲メ汽車電車ヲ脱線又ハ轉覆セシメ因テ乘客ヲ死傷ニ致シタルカ如キ又ハ藥劑師ハ藥ノ調合ニ關スル注意ヲ怠リ爲メニ毒藥ヲ人ニ服用セシメ因テ人ヲ死ニ致シタルカ如キ總テ業務上必要ナル注意ヲ怠リタルニ因リ人ヲ死傷ニ致シタルモノトシテ本罪ニ擬セラル可キモノナルカ如シ。

第二、因テ人ヲ死傷ニ致シタルコトヲ要ス、

本條件ハ別ニ説明ヲ俟タスシテ明ラカナルカ故ニ敢テ贅セス。

以上ノ條件具備スルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス。

第二十九章　墮胎ノ罪

本章ハ墮胎ニ關スル罪ヲ規定シタルモノニシテ舊法第三編第一章第八節ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリトス、即チ舊法第三百三十四條ノ規定ハ寧ロ傷害罪ノ中ニ規定ス可キモノナルヲ以テ本法ハ之ヲ第二十七章ニ讓リ本章中ヨリ刪除スルコトト爲シタリ。

抑々墮胎ノ罪ハ古昔文化尙ホ未タ發達セス父母ヨリ產出セルモノハ父母ノ所有物ナリト思惟セシ時代ニ於テハ何等國法ノ問フ所ニ非サリシナリ否寧ロ或ル時代ニ於テハ人口ノ增殖ヲ阻止セシムルカ爲メ之ヲ奬勵シタルコトスラアリシナリ、而シテ其後之ヲ以テ罪ト認ムルニ至リテモ尙ホ之ヲ以テ胎兒其モノニ對スル犯罪トセス之カ製作者タル父母ニ對スル罪ト爲セリ、其後ヲ父母ニ對スルノミナラス胎兒ニ對シテモ亦一ノ犯罪ナリト認ムルニ至リタルハ近世基督敎ノ漸ク隆盛ニ趣キタル時代ニシテ爾來各國何レモ之ヲ罪トセサル國ナキニ至リシモノナリトス、然レトモ尙ホ現時ニ於テ之カ所罰ヲ否認スル學者ナキニ非ス今參考ノ爲メ其要旨ヲ畧述セン、凡ソ墮胎ノ目的タル胎兒タルヤ殆ント其凡テハ假令胎兒生出スルモ倒底之ヲ養育スルコト能ハサル境遇ニ在ル者ノ行爲ノ結果ナリトス、法律ノ制裁アルカ爲メニ止ムヲ得ス生シタリトセンカ其結果父母ハ大ナル汚辱ヲ蒙ルカ又ハ非常ナル生活難ニ遭遇ス可キヲ以テ遂ニ自ラヲ殺スカ然ラサレハ竊盜其他ノ犯罪ヲ行フニ至ル可シ、且又其生レタル生兒モ到底十分ナル敎育ヲ受クルコトヲ得スシテ遂ニ彼ノ恐ル可キ習慣犯人トナル者決シテ尠ナカラサル可シ、從テ墮胎罪タルヤ其結果ハ却テ社會ニ幾多ノ罪人ヲ作ルモノトナルヘシ因テ社會政策上寧ロ之ヲ廢止スルニ如カスト謂フニ在リ。

第二百十二條　懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ懷胎ノ婦女自ラ墮胎シタル罪ニツキ規定シタルモノニシテ舊法第三百三十條ト同一趣旨ノ規定ナリトス。

本罪ノ成立ニハ懷胎ノ婦女墮胎シタルコト及ヒ藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法

ヲ以テシタルコトノ二條件アルヲ要ス、

第一、懷胎ノ婦女、墮胎シタルコトヲ要ス、

墮胎行爲ヲ爲スニハ懷胎ノ婦女タルヲ要スルヤ言フマテモナシ蓋シ懷胎ノ婦女ニ非サル者墮胎行爲ヲ爲スモ此レ不能犯ニシテ當然罪トナルコトナケレハナリ、而シテ茲ニ所謂墮胎トハ胎兒カ母體ニ生レテヨリ後其自然ノ分娩期ニ至ルマテノ間ニ於テ行ハルヽ總テノ分離行爲ヲ指稱スル意ナリトス、而シテ既ニ胎兒ヲ自然ノ分娩期ニ先チテ母體ノ外ニ分離セシメタルノ所爲アリタルトキハ假令生兒カ其生ヲ保ツモ尙ホ本罪成立スルモノトス蓋シ此點ニ付キテハ、常ニ論議ノ絶エサル所ナリト雖モ墮胎ナル文字ノ意義ニ照シ且墮胎行爲其レ自身多クノ場合ニ於テ生兒ノ發育ヲ害スルモノタルヲ以テ刑罰ニ多少ノ斟酌ヲ爲スハ格別假令生兒其生命ヲ保ツモ本罪ヲ構成スルモノト爲スヲ妥當トスレハナリ、從テ本罪ハ胎兒ノ生死如何ヲ問ハス只出產ノ時期ヲ以テ其既遂ノ時期ト爲スモノトス、而シテ若シ犯人カ墮胎行爲ヲ了リタルニ其豫想ニ反シテ產兒ノ生息セルヲ見更ニ殺意ヲ決シテ之ヲ殺害シタルトキハ是レ二個別異ノ犯罪タル墮胎及ヒ殺人ヲ途行シタルモノナリトス、而シテ又本罪ハ不正ノ所爲ヲ以テ爲シタルコトヲ要シ醫師產婆カ母體ヲ安全ナラシメンカ爲メ胎兒ヲ殺シテ分娩セシメタルカ如キハ正當ノ業務行爲トシテ無罪タルヤ勿論ナリトス。

第二、藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テシタルコトヲ要ス、

茲ニ其他ノ方法云々トアルカ故ニ如何ナル行爲ト雖モ墮胎ノ結果ヲ生スヘキ行爲ハ皆之ヲ包含スルモノトス、從テ墮胎藥ノ服用ニ依ルモノナルト又護謨棒ノ如キモノヲ挿入シ胞子ヲ破壞スルカ如キ外部器械的ノ作用ニ依ルモノナルトヲ問ハス苟クモ人工的方法ヲ施シ以テ墮胎シタルトキハ常ニ本罪ヲ構成ス可キモノトス、然レトモ本罪ノ成立ニハ婦女自ラ懷胎ナルコトヲ知リ且ツ墮胎セシムルノ意思アルコトヲ要ス故ニ假令懷胎ナルコトヲ知ルモ墮胎セシムルノ意思ナク單ニ墮胎ノ結果ヲ生スルノ恐アル可キ所爲ヲ爲スノ意思アルノミヲ以テハ未タ本罪タラサルモノトス、例ヘハ婦女或ル藥物ヲ服用セハ墮胎スルヤモ知レスト想ヒツヽ他ノ疾病ノ爲メニ之ヲ服用シ其結果墮胎シタル場合ノ如キ未タ本罪ヲ構成スルニ足ラサルモノトス。

以上ハ條件具備スルトキハ一年以下ハ懲役ニ處スヘキモノトス。

第二百十三條　婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ婦女ハ囑託又ハ承諾ヲ得テ墮胎セシメタル罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三百三十一條ニ該當スル規定ナリトス即チ其趣旨ハ同一ナルモ唯舊法ニ明文ナキ爲メ往往疑ヲ生スルノ虞アリシヲ以テ本法ハ婦女ノ囑託又ハ承諾アル場合ト雖モ罪ト爲ルコトヲ明ラカニシタルノミナリトス。

本罪ノ成立ニハ婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得タルコト及ヒ墮胎セシメタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一、婦女ハ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得タルコトヲ要ス。

本條件ハ既ニ第二百二條ニ於テ述ヘタル所ニ依リ明ラカナルカ故ニ敢テ詳述スルノ要ナキモ要スルニ本罪ハ彼ノ情婦ヨリ墮胎ノ依頼ヲ受ケ又ハ自ラ進ンテ情婦ノ承諾ヲ得テ以テ墮胎セシメタルカ如キ場合ニ關スル罪ナリトス。

第二、墮胎セシメタルコトヲ要ス。

即チ姙婦ノ依頼ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ施シテ以テ自然ノ分娩期ニ先チテ胎兒ヲ母體ヨリ分離セシメタルトキハ本罪成立スルモノトス、故ニ假令婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得タルモ單ニ姙婦ノ墮胎行爲ヲ幇助シ之ヲ容易ナラシメタルニ止マルカ又ハ姙婦ヲ教唆シテ以テ之ヲシテ墮胎行爲ヲ行ハシメタルカニ止リ自ラ手ヲ下サヽル場合ニ於テハ前條規定ノ罪ノ從犯又ハ教唆犯ニシテ本罪ヲ構成セザルモノトス、而シテ苟クモ自ラ或ル方法ヲ施シテ墮胎セシメタル以上ハ依リテ婦女ヨリ報酬ヲ受ケタルト否ト又之ヲ與ヘタルト否トハ之ヲ問ハサルモノトス。

以上ハ條件具備スルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス、若シ因テ其結果婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス、蓋シ素ヨリ其婦女ヲ死傷ニ致シタルハ初メヨリ殺意アルニ非スシテ單ニ婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルニ止マルモ其方法宜シキヲ

得サリシ等ノ爲メ意外ニモ之ヲ死傷ニ致ラシメタルモノナルカ故ニ其科刑極メテ輕キモノナリトス。

第二百十四條　醫師、產婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ前條ハ罪ヲ醫師產婆藥劑師又ハ藥種商カ行ヒタル場合ノ罪ヲ規定シタルモノニシテ舊法第三百三十二條ト同一趣旨ノ規定ナリトス。

本條ノ罪ノ成立ニハ第一醫師產婆藥劑師又ハ藥種商タルコト及ヒ第二婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其ノ承諾ヲ得テ墮胎セシメタルコトノ二條件アルヲ要スルモ第一條件ハ第百三十四條ノ說明ヲ第二條件ハ前條ノ說明ヲ參照セハ明瞭ナルカ故ニ茲ニ贅セサル可シ要スルニ本罪ハ醫師產婆藥劑師又ハ藥種商等ハ其職業又ハ營業上墮胎セシムルノ手段方法ヲ熟知セルモノナルニ因リ常人ヨリモ墮胎ヲ行フコト容易ナルヲ以テ若シ此等ノ者カ婦女ヨリ囑託ヲ受ケ又ハ婦女ノ承諾ヲ得テ墮胎セシメタル場合ニハ其情最モ惡ム可キモノナルカ故ニ之ヲ嚴罰スルノ必要上特ニ本條ノ規定ヲ設ケタルモノナリトス。

終リニ一言注意ス可キハ法律規定ノ此等ノ者ト雖モ姙婦ノ身體生命ヲ保護スル爲メ醫學上認メラレタル手術ノ必要上墮胎セシメタル場合ニハ此レ一種ノ業務行爲ニシテ罪ヲ構成セサルコト是レナリトス。

本罪ヲ犯シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス可キモノニシテ若シ因テ其結果婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス、

第二百十五條　婦女ノ囑託ヲ受ケス又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ婦女ハ囑託又ハ承諾ナクシテ墮胎セシメタル罪ヲ規定シタルモノニ

シテ舊法第三百三十三條ヲ修正擴充シタル規定ナリトス。

本罪ノ成立ニハ婦女ノ囑託ヲ受ケス又ハ其承諾ヲ得サルコト及ヒ墮胎セシメタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一、婦女ハ囑託ヲ受ケス又ハ其承諾ヲ得サルコトヲ要ス、

即チ舊法規定スルカ如キ懷胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ詐騙シテ墮胎セシメタル場合ハ勿論其他何等婦女ノ囑託又ハ承諾ヲ受クルコトナクシテ墮胎セシメタル場合ハ總テ本罪ヲ構成スルモノトス、故ニ威力若クハ脅嚇ニ藉リテ之ニ墮胎ヲ強要シタル場合例ヘハ白刃ヲ擬シテ之ニ墮胎ヲ強要シタルカ如キ又ハ婦女ヲ欺キ恰モ墮胎ノ結果ヲ生スヘキモノニ非サルカ如ク思惟セシメ以テ之ヲシテ墮胎セシメタル場合例ヘハ解熱劑乃至強壯劑ナリト詐リテ墮胎劑ヲ服用セシメ因リテ墮胎セシメタルカ如キハ勿論其他苟クモ婦女ノ囑託又ハ承諾ナクシテ墮胎セシメタル場合ハ常ニ本罪ナリトス、但シ本罪ニ在リテハ姙婦ハ犯罪ノ主體ニ非スシテ被害者ナルヲ以テ若シ婦女ニ對シ汝ヲ妻トス可シ又ハ金品ヲ與フ可シト欺キ因リテ婦女自身ヲシテ墮胎行爲ヲ決行セシメタル場合ハ是レ單純ナル教唆行爲ニシテ本罪ニ關係ナキモノトス。

第二、墮胎セシメタルコトヲ要ス、

本條件ハ屢々詳述セシ所ナルヲ以テ別ニ論セス。

以上ノ條件具備スルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス。

本條第二項ハ前項ノ罪ハ未遂犯ヲ罰ス可キ旨ヲ規定シタルモノナリトス、而シテ本條墮胎罪ハ如何ナル程度ニ達シタルトキ未遂罪成立スルモノナルヤニ付キテハ既ニ第二百十二條ニ於テ說明シタル如ク產兒ノ生死如何ニ拘ラス墮胎行爲完了シタルトキ即チ胎兒カ母體ヲ分離シタルトキヲ以テ墮胎罪ノ既遂トナスカ故ニ未タ胎兒カ分離セサル以前即チ前項ノ罪ノ一構成要件タル姙婦ノ囑託又ハ承諾ナキ脅迫詐術其他ノ方法ニ着手シタルモ未タ墮胎行爲ヲ完了セサルトキヲ以テ未遂犯成立スルモノトス、故ニ例ヘハ情夫カ汝若シ墮胎セサレハ汝トノ緣ヲ絕ツヘシト威嚇シテ之ニ墮胎ヲ強要シ因リテ之ヲシテ其意ニ非サル墮胎ヲ爲サシメントシタルモ其方法適當ナラサリシ爲メ目的ヲ達スル能ハサリシ場合ノ如キ前項ノ罪ノ未遂罪ナリトス。

第二百十六條　前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ前條ハ罪ヲ犯シ其結果婦女ヲ死傷ニ致シタル罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三百三十五條ト同一趣旨ノ規定ナリトス。

本罪ヲ犯シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス可キモノナルカ故ニ若シ前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ第二百五條ト前條トヲ比較シテ重キ第二百五條ヲ適用處斷シ單ニ傷害ヲ與ヘタルニ止マルトキハ第二百四條ニ依リ處斷ス可キモノナリトス、蓋シ本條ハ是レ前條ノ性質上之ヲ附加セスンハ本條規定スルカ如キ死傷ノ結果ヲ生シタル場合ニ於テモ尙ホ前條ニ依リ墮胎ノ一罪ヲ構成スルニ過キサルヤノ疑ヲ生ス可キカ故ニ併合罪タルコトヲ明言シタルニ過キサルモノトス。

第三十章　遺棄ノ罪

本章ハ扶助ヲ要ス可キ老幼者等ヲ遺棄シタル罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三編第一章第九節ノ規定ヲ修正シタルモノナリトス、今其主ナル修正ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

一　舊法ハ本章ヲ幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪ト題シタルモ本法ハ之ヲ改メ單ニ遺棄ノ罪ト爲シ以テ總テ自活スル能ハサル者ニ關スル總括的規定トナシタリ。

二　舊法ハ其第三百四十條ニ於テ自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地內ニ遺棄セラレタル者アルコトヲ知リテ之ヲ扶助若クハ申告セサル者ニ關スル罪ヲ規定シタルモ是レ畢竟人倫ヲ盡サヽルノ行爲ニシテ行爲自體ハ寧ロ行政處分ノ性質ヲ有スルモノナルカ故ニ本法ハ之ヲ特別法ニ讓ル目的ヲ以テ刪除シタリ。

三　舊法ハ幼者老疾者等ヲ寥闊無人ノ地ニ遺棄シタル場合ト否トヲ區別シテ規定シタルモ本法ハ斯ル區別ノ必要ナシト認メ之ヲ廢シテ情狀ニ依リ裁判官ヲシテ自由裁斷セシムルコトヽ爲シタリ。

抑モ本罪ノ客體ニ付キテハ各國立法ノ主義二派ニ別ル即チ一ハ之ヲ幼者ニ限ルモノ他ハ單ニ幼者ノミナラス總テ自活スル能ハサル者ハ皆客體タルヲ得

ト爲スモノ是レナリ、本法ハ後者ノ主義ヲ採用シ總テ他人ノ扶助ヲ受クルニ非サレハ生活スル能ハサル者ハ皆本罪ノ客體タルコトヲ得ト爲シタリ、是レ蓋シ生存競爭ノ日ニ困難ナルヨリシテ或ハ單ニ扶養ノ責ヲ免レントノ意思ノミヲ以テ幼者ノ如ク其他ノ自活不能者ヲ遺棄スルノ實アルコト尠ナカラスシテ而モ是等ハ單ニ被遺棄者其人ヲ害スルノミナラス又以テ一般風俗ヲ害スルノ結果ヲ生スルニ至ルヲ以テナリトス。

第二百十七條　老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ單純ナル遺棄罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三百三十六條及第三百三十七條ヲ合シ修正シタルモノナリトス。

本罪ノ成立ニハ老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者タルコト及ヒ遺棄シタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一　老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者タルコトヲ要ス。

即チ本罪ノ客體ハ自活シテ生命ヲ維持スル能ハサル幼者老者不具者及ヒ疾病者ナリトス、舊法ハ幼者ヲ八才ニ滿タサル者ト限リタルヲ以テ滿八才以上ノ幼者ハ遺棄セラルヽモ全ク保護ヲ受ケサルノ不當ヲ免レサリシモ本法ハ其年齡ノ如何ヲ問ハス苟クモ自活スル能ハサル者ハ總テ本罪ノ客體タルヲ得ルカ故ニ滿八才以上ノ者ト雖モ自活ノ能力ナキ者ハ本罪ノ客體タルヲ得ルト同時ニ滿八才以下ノ者ト雖モ自活スルヲ得ル者ハ本罪ノ客體タルヲ得サルモノトス、然リ而シテ其果シテ自活シ得ヘキモノナルヤ否ヤハ事實上ノ問題ニシテ結局ハ裁判官ノ判斷ニ存スルモノトス、而シテ如斯自ラ生活スル能ハサル者ハ通常其父母兄弟等相互ニ民法上扶助ス可キ義務アルモノニシテ本條遺棄ハ此等ノ者ヲ救護ス可キ法律上ノ義務アル者ノ行爲ニ係ルコトヲ要スルモノトス、然レトモ契約ニ因リ一時其義務ヲ負ヒタル者亦タ同一ナリトス、例ヘハ一時宿泊スル宿屋下宿屋ノ主人、人力車夫御者船頭等即チ是レナリトス。

第二　遺棄シタルコトヲ要ス、

遺棄トハ不正ニ扶養ノ義務ヲ免脫スルヲ謂フ故ニ其保護スヘキ老幼者等ヲ他所ニ移送スル即チ俗ニ捨ツルト又自ラ其場所ヲ去リ踪跡ヲ隱ストヲ問ハス

苟クモ保護スヘキ責任ヲ脱シタルトキハ本罪成立スルモノトス、而シテ本罪ハ單ニ遺棄シタルノ所爲アルノミヲ以テ成立スルカ故ニ救助ノ確實ナル場合又ハ方法ニ於テ例ヘハ養育院ノ門前ニ於テ遺棄スルモ仍ホ本罪タルヲ免レサルモノトス、

以上ハ條件具備スルトキハ一年以下ハ懲役ニ處ス可キモノトス

第二百十八條　老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護スヘキ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サヽルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ保護ノ責任アル者ハ遺棄罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三百三十八條ノ規定ヲ修正シタルモノナリトス。

本條第一項ノ罪ノ成立ニハ第一老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者ナルコト及ヒ第二遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サヽルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一、老者、幼者、不具者、又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者ナルコトヲ要ス、

即チ本罪ハ老者幼者不具者又ハ病者ヲ保護スヘキ責任アル病院養育院廢兵院等カ其責任ニ反シテ幼者其他ノ者ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サヽルトキニ成立スルモノトス、茲ニ幼者其他ノ者ハ前條規定ノ罪ノ目的物ト同シク自ラ生活シ生命ヲ維持スル能ハサル者タルヲ要スルナリトス、而シテ本罪ノ成立ニハ此等保護ノ責任アル者ハ報酬ヲ得テ保護スルト否ト又其保護スヘキ時期ノ一時ナルト永久ナルトヲ問ハサルモノトス、而シテ其果シテ保護ノ責任アル者ナルヤ否ヤハ結局事實問題ナリト雖モ彼ノ自家ニ使用スル雇人ノ如キニ對シテハ前條ノ罪ノ成立スルハ格別本罪ノ成立スルコトナキモノトス。

第二之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サヽルコトヲ要ス、

遺棄ノ意義ニ付キテハ既ニ述ヘタルヲ以テ明ラカナルモ茲ニ生存ニ必要ナル保護トハ如何ナルモノナルヤト云フニ是レトテ結局ハ裁判官ノ認定スヘキ

事實問題ナリト雖モ要スルニ老者幼者不具者病者ニ對シ此等ノ者ノ生命ヲ維持スルニ足ルヘキ衣服ヲ給セサルハ勿論病氣ヲ治療セサル等其者ノ生命ヲ全ウセシムルニ必要ナル適當ノ保護救濟ヲ與ヘサル總テノ行爲ヲ謂フモノトス、而シテ法文ニハ保護ヲ爲サヽル云々トアルカ故ニ貧困其他ノ事情ノ爲メニ保護ヲ爲ス能ハサル者ハ本條ノ範圍外ナリトス。

以上ノ條件具備スルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス。

本條第二項ハ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シ前罪ヲ犯シタル場合ニ關スル罪ヲ規定シタルモノニシテ舊法第三百六十四條ト同一趣旨ノ規定ナリトス。

本罪ノ成立ニハ第一自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シタルコト及ヒ第二之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サヽルコトノ二條件アルヲ要スルモ第一條件ハ第二百一條ニ於テ第二條件ハ前項ニ於テ述ヘタルト同一ナルカ故ニ再說ヲ要セサル可シ要スルニ此義ニ付キテハ民法上ノ義務ヲ免脫スルノ行爲ナルヲ以テ民法第九百五十四條第九百五十九條第九百六十條及ヒ第九百六十一條等ヲ參看スヘシ、而シテ本罪ヲ犯シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス。

第二百十九條　前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ老者幼者不具者又ハ病者等自己ノ力ヲ以テ生活スル能ハサル者ヲ遺棄シ又ハ生存ニ必要ナル保護ヲ爲サス因テ其結果此等ノ者ヲ死傷ニ致シタルトキハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス可キ旨ヲ規定シタルモノニシテ舊法第三百三十九條ニ相當スル規定ナリトス、本條ノ如キ規定ニ付キテハ既ニ屢々說明シタル所ナルヲ以テ敢テ茲ニ別論スルノ要ナカル可シ。

第三十一章　逮捕及ヒ監禁ノ罪

本章ハ第百九十四條ノ規定ニ對シ一般逮捕監禁罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三編第一章第六節ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリトス其修正ヲ加ヘタル要點ハ各本條ニ於テ述フ可シ。

第二百二十條　不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月

以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ不法ニ人ヲ逮捕監禁シタル罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三百二十二條及ヒ第三百二十三條ノ規定ヲ合シ之ニ修正ヲ施シタルモノナリトス、即チ舊法ハ監禁ノ場所ヲ私家ニ限リタルモ之ヲ私家ニ制限スルハ狹キニ失シ往々不便ヲ感スルコトアリシヲ以テ本法ハ此ノ制限ヲ廢シテ其場所ノ如何ヲ問ハサルコトヽ爲シタリ、又舊法ハ監禁日數ニ依リ刑ヲ加重スルノ制ナリシモ是レ頗苛ニ過キ却テ適宜ノ刑ヲ科スルコト能ハサルノ害弊アリシヲ以テ本法ハ之ヲ廢シ刑ノ輕重ハ之ヲ裁判所ニ一任スルコトヽ爲シタリ。

本罪ノ成立ニハ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルコト及ヒ其所爲ハ不法ナルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一　人ヲ逮捕又ハ監禁シタルコトヲ要ス、

逮捕監禁共ニ何レモ其實質ニ於テハ人ノ身體ノ自由ヲ失ハシムルノ行爲ニシテ其些カ異ナル所ハ逮捕ハ直接ニ身體上ニ物質的力ヲ加ヘテ其自由ヲ失ハシムルヲ云ヒ監禁ハ一定ノ場所外ニ出ツルノ自由ヲ失ハシムルヲ謂フモノトス、然レトモ逮捕罪ハ逮捕ナル行爲ニ依リテ直ニ成立スル即時犯ニシテ時効期間ハ其行爲ノ即時ヨリ計算ス可キモノナルモ監禁罪ハ一定ノ時間或ル行爲ノ繼續スルニ因リテ成立スル所ノ繼續犯ニシテ時効期間ハ其行爲ノ終リタル時ヨリ計算ス可キモノナルノ差異アリトス、而シテ法律ハ其逮捕監禁ノ手段方法ノ如何ヲ問ハサルモノナルカ故ニ例ヘハ入浴中故意ニ其衣服ヲ隱シ因テ其者ヲシテ外出スル能ハサルニ至ラシメタルカ如キ又ハ室ノ出口ニ爆發物等ヲ据付ケテ以テ室外ニ出ツルコトヲ得サラシメタルカ如キ總テ本罪ニ依リ論ス可キモノナリトス、而シテ又本罪ハ作爲タルト不作爲タルトヲ問ハス罪ノ成立ヲ觀ルモノナルカ故ニ例ヘハ直ニ解禁ス可キコトヲ諾シテ戲レニ人ヲ縛リタル後故意ニ之ヲ解カサリシ場合ノ如キモ本罪タルヲ免レサルモノトス。

第二　其所爲ハ不法ナルコトヲ要ス、

所爲ノ不法ナルコトヲ要スルハ必スシモ本罪ニ於テ唯リ然ルニ非ス凡百ノ犯罪皆然リト雖モ特ニ茲ニ之ヲ揭クル所以ノモノハ次ノ如キ適法ノ場合ニハ假令人ヲ逮捕監禁スルモ本罪ヲ構成セサルコトヲ明カニセンカ爲メナリトス、即チ逮捕監禁ノ權利又ハ義務アル場合例ヘハ一私人カ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ現行犯ヲ逮捕スル場合(刑事訴訟法第六十條及第六十一條)船長カ船内ニ於ケル犯罪人ヲ逮捕スル場合、後見人カ懲戒權執行ノ爲メ適法ノ範圍内ニ於テ其子ヲ又ハ醫師カ適法ノ囑託ニ應シテ精神病者ヲ監禁スル場合若クハ狂者ニ對スル監督ノ爲メ之ヲ逮捕監禁スル場合ノ如キ總テ適法ノ行爲トシテ罪ニ問ハル可キモノニ非サルナリトス、故ニ本罪ハ必ス權利又ハ義務ナキ不法ノ逮捕監禁タルコトヲ要スルモノトス。

以上ハ條件具備スルトキハ三月以上五年以下ハ懲役ニ處ス可キモノトス。

本條第二項ハ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シ本項ノ罪ヲ犯シタル場合ニ關シ規定シタルモノナルカ法文ノ意ハ前項ノ説明及ヒ第二百條及第二百五條第二項ノ説明ヲ參照セハ別ニ説明ヲ要セスシテ明ラカナル可シ、而シテ本罪ヲ犯シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス。

第二百二十一條　前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三百二十四條及第三百二十五條ノ規定ヲ合シ一條ト爲シタルモノニテ其趣旨ハ同一ナリトス。

法文ノ意義一讀明瞭ナルカ故ニ説述ヲ要セサル可キモ要スルニ本罪ハ彼ノ俗ニ繼子虐メ等ニ於テ往々觀ルカ如ク人ヲ逮捕又ハ監禁シ毆打拷責シ若クハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ爲シ因テ其結果之ニ傷害ヲ與ヘ甚シキハ死ニ至ラシムルカ如キ又ハ人ヲ監禁制縛シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クコトヲ怠リ因リテ死傷ニ致シタルカ如キ場合ニ關スル罪ナリトス、而シテ本罪ハ素ヨリ最初殺人又ハ傷害ノ意思ナカリシモノナルヲ要ス若シ最初ヨリ其意思アリテ以テ人ヲ逮捕監禁シタルモノナルニ於テハ殺人罪又ハ傷害罪ニシテ本罪ニ非サルモノトス、而シテ本罪ヲ犯シタルトキハ第二十七章傷害ノ罪ノ各規定ニ

比較シ重キニ從テ處分ス可キモノトス。

第三十二章　脅迫ノ罪

本章ノ規定ハ人ヲ脅迫スル罪ニ關スルモノニシテ舊法第三編第一章第七節ノ規定ヲ修正シタルモノナリトス、而シテ其修正ヲ加ヘタル主要ノ點ハ次ノ如シトス。

一舊法ハ脅迫ノ方法ヲ列擧限定シ人ノ自由又ハ名譽ニ對シ害ヲ加ヘントスル場合ニ關スル規定ヲ缺キタルモ是レ屢々起ル所ノ事實ナルノミナラス又被害者ニ對シテハ些少ノ財産ヲ失フヨリモ一層重大ナル畏怖心ヲ懷カシムルモノナルヲ以テ本法ハ新ニ斯ル場合モ仍ホ脅迫罪成立スルコトヽ改メタリ。

二舊法ハ人ヲ脅迫シタル場合ノミヲ規定シ脅迫ニ因テ人ニ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル場合ニ付キ何等規定セサリシモ是レ必要ナルヲ以テ本法ハ斯ル場合ニ關スル處分ノ規定ヲ新設シタリ。

三舊法第三百二十七條ノ規定ハ單ニ犯罪ノ情狀ニ關スルモノニシテ必要ナキヲ以テ本法ハ之ヲ刪除シタリ、

四舊法ハ第三百二十九條ニ於テ本章ノ罪ヲ親告罪ト爲シタリト雖モ本章ノ罪ノ如キハ私人ノ名譽ニ關スルヨリハ寧ロ公ノ秩序ニ關スル罪ナルノミナラス之ヲ親告罪ト爲ス結果被害者ニ於テ後難ヲ恐レ告訴ヲ敢テセサルカ然ラサレハ却テ被害者ヲシテ不當ノ賠償ヲ貪ラシムルニ過キサリシヲ以テ本法ハ親告ノ制ヲ廢棄シタリ。

第二百二十二條

生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

本條ハ人ヲ脅迫シタル罪ヲ規定シタルモノニシテ舊法第三百二十六條及第

三百二十八條ノ規定ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリトス、

本罪ノ成立ニハ人ヲ脅迫シタルコト及ヒ本人又ハ其親族ノ生命身體自由名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テシタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一人ヲ脅迫シタルコトヲ要ス。

本條所謂脅迫トハ人ヲシテ生命身體自由名譽又ハ財産ニ對スル危害ヲ受クヘキコトヲ想像セシメ以テ之ヲ恐怖セシムルノ所爲ヲ謂フモノトス、而シテ法文ニハ單ニ人ヲ脅迫シタル者トアリテ其方法ヲ限定セサルカ故ニ苟クモ人ヲ恐怖セシムルノ所爲アルニ於テハ其方法ノ言語文書等無形ノ所爲ニ依ルト舉動トシテノ有形ノ所爲ニ依ルトヲ問ハス常ニ本罪ヲ構成スルモノトス、然レトモ本罪ハ被害者ニ於テ恐怖ノ念ヲ惹起スニ非スンハ成立スルコトナシ即チ被害者ハ法文規定ノ害ヲ受ク可キコトニ因リ恐怖セシメラル可キ位地ニ在リタルコトヲ要ス蓋シ然ラスンハ茲ニ其人ノ靜謐若クハ自由ヲ害スルコトナク從テ又社會ノ秩序安寧ヲ害シタリト謂フヲ得サル可ク尚ホ且ツ若シ被害者ノ感情如何ヲ問ハス直ニ本罪成立スルモノトセハ未タ脅迫ノ何モノタルヲ解セサル幼者ニ對シテモ仍ホ本罪成立ストノ不都合ナル結果ヲ生シ本罪ノ性質ニ反スレハナリトス、

第二本人又ハ其親族ノ生命身體自由名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テシタルコトヲ要ス、

本人又ハ其親族ニ對シタルコトヲ要スルカ故ニ本人ハ勿論其ノ親族タル六親等内ノ血族配偶者三等親内ノ姻族ノ生命身體等ニ對シ危害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタルトキハ常ニ本罪成立スルモノトス(民法第四編第一章參照)、

本章所謂生命身體自由ノ意義ニ付キテハ既ニ説明シタル所ナルヲ以テ敢テ贅スルノ要ナシ名譽財産ノ意義ニ付キテモ後章ニ至リ更ニ詳論スル所アル可キモ畢竟茲ニ名譽トハ人ノ社會上ニ於ケル地位信用ヲ謂ヒ財産トハ人ノ利益ノ目的ト爲ルヘキ物件即チ人カ之ニ依リテ或ル利益ヲ享有スル所ノ物件ヲ謂フモノトス、要スルニ本罪ハ例之汝又ハ汝ノ親族ヲ殺ス可シ又ハ毆打ス可シト、テ短銃ヲ擬シ又ハ棍棒ヲ加ヘントスルカ如キ或ハ汝ヲ監禁又ハ制縛セントテ

繩ヲ示スカ如キ或ハ惡事醜行ヲ摘發シ信用ヲ毀損セント通告スルカ如キ或ハ又汝ノ財産ヲ燒燬シ又ハ破壞セント通告シ以テ人ヲ脅迫シタルトキハ直ニ罪ヲ構成ス可キモノナリトス。

本罪ノ成立ニハ尙ホ單ニ人ヲ恐怖セシムルノ意思アレハ足リ更ニ進ンテ脅迫ノ材料ニ供シタル危害ヲ實行スルノ意思アルコトヲ要セサルモノトス故ニ單ニ戲謔ヲ以テスルモ犯人ノ意思ニシテ人ヲシテ恐怖ノ念ヲ起サシメントニ存スルトキハ常ニ本罪ヲ構成スルモノトス。

以上ハ條件具備スルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス。

第二百二十三條　生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條第一項ハ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害シタル罪ヲ規定シタルモノニシテ本法ノ新設ニ係ル規定ナリトス。

本罪ノ成立ニハ第一生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒタルコト及ヒ第二人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルコトノ二條件アルヲ要スルモ第一條件中ノ暴行ノ意義ハ既ニ屢々説述シタル所、又生命身體自由名譽財産ニ對シテ害ヲ加フ可キコトヲ以テシタル脅迫ノ意義ニ付キテハ既ニ前條ニ於テ論述シタル所ナルヲ以テ茲ニ再述ノ要ナカル可ク且ツ又第二條件ニ付キテハ既ニ第百九

十三條ニ於テ詳論シタル所ニシテ茲ニ贅スルノ必要ナカル可シ、要スルニ本罪ハ例之既ニ時效ニ因リ効力消滅シタル古證文ヲ惡用シテ暴行ヲ加ヘテ其債務ヲ履行セシメタルカ如キ又ハ他人ノ艶聞醜行ヲ發キ名譽ヲ毀損セシメンコトヲ脅迫シテ支拂ノ義務ナキ金錢ヲ支拂ハシメタルカ如キ或ハ又債權者ニ對シ暴行脅迫ヲ加ヘ以テ其債權ヲ實行セシメサリシカ如キ所爲ニ關スルモノナリトス。

而シテ本罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス。

本條第二項ハ親族ニ對スル脅迫ヲ以テ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル罪ヲ規定シタルモノナリトス

本罪ノ成立ニハ親族ノ生命身體自由名譽又ハ財產ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シタルコト及ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルコトノ二條件アルヲ要スルモ以上述ヘタル所ヲ參照セハ別ニ說明ヲ要セストモ各條件何レモ明ラカナル可シ。要スルニ前項ノ罪ハ被害者自身ニ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘ義務ナキ事ヲ行ハシメ若クハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル所爲ニ關シ本項ノ罪ハ被害者ノ親族ニ害ヲ加フ可キコトヲ以テ被害者ヲ脅迫シ因テ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル所爲ニ關スルノ差異アルニ過キサルモノナリトス。

而シテ本項ノ罪ヲ犯シタル者ハ前項ノ罪ト同シク三年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス。

本條第三項ハ前二項ノ罪ハ未遂罪ヲ罰ス可キコトヲ規定シタルモノナリトス、蓋シ前二項ノ罪ノ如キ犯人ノ心情實ニ惡ム可キモノアルト共ニ其ノ實害モ決シテ僅小ナラサルカ故ニ大害ヲ未發ニ妨遏スルノ政策上本項ノ規定ノ設ケラレタルモノナリトス、而シテ其未遂罪ハ暴行又ハ脅迫ノ所爲ニ着手シタルモ未タ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害スルニ至ラサルトキニ成立スルモノトス、

第三十三章　略取及誘拐ノ罪

本章ハ一般ニ人ヲ略取及誘拐スルノ罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第

三編第一章第十節ノ規定ヲ修正シタルモノナリトス、其修正ヲ加ヘタル主要ナル點ハ舊法ハ本章ノ罪ヲ二十歳未滿ノ幼者ニ對スル場合ニ限リタルモ成年者ト雖モ場合ニ因リテハ之ヲ保護スルノ必要アルヲ以テ本法ハ之ヲ一般人ニ對スルノ罪ト改メタルニ在リトス尙ホ詳細ニ付キテハ各本條ニ於テ之ヲ述フ可シ。

第二百二十四條　未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三百四十一條及第三百四十二條ノ規定ニ修正ヲ施シタルモノナリトス、即チ舊法ハ十二歳以下ト以上ニ因リ其科刑ヲ異ニシタルモ是レ單ニ一方ニ於テ犯スニ易ク防クニ困難ナルト他ノ一方ニ於テ未タ東西ヲモ辨セス身體ノ結構未タ完カラサルカ故ニ被害ノ結果ニ於テ幾分ノ差異アルニ過キサルニ由ルモノナルヲ以テ本法ハ一般科刑ノ範圍ヲ擴充シタル結果斯ル區別ハ之ヲ廢棄シ總テ裁判官ノ裁量ニ委スルコトヽ爲シタリ。

本罪ノ成立ニハ未成年者ナルコト及ヒ略取又ハ誘拐シタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一　未成年者ナルコトヲ要ス、

本條所謂未成年者ハ滿二十歳未滿ノ幼者ヲ指スノ意ナルヤ勿論ナリトス(民法第三條)而シテ此等未成年者ハ通例民法第八百七十九條ノ規定ニ依リ監督者アルモノナリト雖モ本罪ノ成立ハ監督者ノ有無ニ關係ナキモノトス故ニ監督者ノ不明ナル浮浪ノ少年ト雖モ或ル目的ヲ以テ之ヲ誘拐スルトキハ本罪ヲ構成スルモノトス、而シテ又法文ニハ單ニ未成年者トアルカ故ニ二十歳未滿ノ幼者ナルトキハ其男女賢愚强弱結婚ノ有無ハ之ヲ問ハス本罪ノ客體ト爲ルコトヲ得ルモノトス、

第二　略取又ハ誘拐シタルコトヲ要ス、

茲ニ略取トハ暴行又ハ脅迫ニ依リテ行ハルヽモノ誘拐トハ詐欺又ハ誘導ニ依リテ行ハルヽモノニシテ共ニ不法ニ監督者ノ監督權ノ範圍ヨリ脫出セシムルノ所爲ナリトス、故ニ未成年者ヲ其監督者ノ監督權ノ範圍ヲ脫セシメタルト

キハ未成年者ノ承諾又ハ囑託ニ基キタルト否トヲ問ハス本罪成立スルモノトス、而シテ既ニ述ヘタル如ク事實既ニ監督者ノ監督ヲ脱出セル幼者ト雖モ仍ホ本罪ノ目的ト爲ルコトヲ得ルモノトス、然レトモ監督者自身ノ行爲ナルニ於テハ假令被監督者タル未成年者ノ意思ニ反シテ總テ或場所ニ同伴シ若クハ欺テ他所ニ誘導シタリトスルモ罪ト爲ルコトナシトス、是レ蓋シ自己ノ所有物ヲ窃取スルト等シク一ノ權利行爲ニ外ナラサレハナリトス、而シテ尙ホ本罪ノ成立ニハ犯罪ノ遠因如何ハ何等關係ナキモノトス故ニ假令害ヲ加フルノ意思ナク本人ニ利益ヲ與フルノ目的ヲ以テ誘拐シタル場合ト雖モ仍ホ本罪成立スルモノトス又舊法ト異ナリ幼者ヲ畧取誘拐シテ自ラ藏匿シタルト他人ニ交付シタルトヲ區別セス其監督者ノ監督權ヨリ奪取シタルトキニ本罪成立スルモノトス。

以上ハ條件具備スルトキハ五年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス。

第二百二十五條　營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ營利猥褻結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ畧取誘拐シタル罪ニ付キ規定シタルモノニシテ本法ノ新設ニ係ル規定ナリトス。

本罪ノ成立ニハ營利猥褻又ハ結婚ノ目的ナルコト及ヒ人ヲ畧取又ハ誘拐シタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一　營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ナルコトヲ要ス。

即チ人ヲ賣リ又ハ使用シテ以テ利益ヲ得ンカ爲メナルカ又ハ之ヲ或ル猥褻ノ用ニ供センカ爲メナルカ若クハ之ト結婚センカ爲メニ畧取又ハ誘拐シタルトキハ其被拐者ノ年齡如何ヲ問ハス本罪成立スルモノトス、故ニ二十歳未滿ノ幼者ト雖モ以上ノ目的ヲ以テ之ヲ拐取シタルトキハ前罪ニ非スシテ本罪ニ依リ處分ス可キモノトス、而シテ又滿二十歳以上ノ者ニ對シテモ以上ノ目的ヲ以テ之ヲ拐取シタルトキハ直ニ本罪成立スルモノトス、但シ滿二十歳以上ノ男女ニ對シテハ以上ノ目的ナクシテ之ヲ拐取シタルトキハ罪ヲ構成スルコトナシトス蓋シ人二十歳以上ニ達スレハ充分思慮アルモノナルヲ以テ拐取者ノ目的

以上ノ如キ不正ノモノニ非サルニ於テハ敢テ之ヲ處罰スルノ必要ナキヲ以テナリトス。

第二人ヲ略取又ハ誘拐シタルコトヲ要ス。

略取及ヒ誘拐ノ意義ハ前條ニ於テ既ニ説明シタル如ク暴行威迫又ハ詐欺誘導ニ依リ現在スル場所ヨリ他ノ場所ニ人ヲ伴行スルヲ謂フモノナルカ故ニ僞計又ハ威力ヲ用ヒタルコトヲ要スルヤ勿論ナリトス、而シテ僞計又ハ威力ヲ用ヒタル結果被誘拐者カ承諾シタルト否トハ之ヲ問ハサルモノトス、然レトモ何等僞計若クハ威力ヲ用フルコトナク例ヘハ毎月金百圓ヲ給ス可シト云フカ如キ契約ノ下ニ其承諾ヲ得テ人ヲ伴行シタルカ如キ又ハ其ノ囑託ヲ受ケテ之ヲ伴行シタルカ如キ場合ニハ本罪ヲ構成スルコトナシトス但シ斯ノ如キ場合トハ雖モ滿二十歳以下ノ者ニ對シテハ前條ノ罪ヲ構成スルヤ勿論ナリトス。

以上ノ條件具備スルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス。

第二百二十六條　帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

本條第一項ハ帝國外ニ移送スルヲ目的トスル誘拐罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三百四十五條ノ規定ヲ修正シタルモノナリトス。即チ舊法ハ單ニ外國人ニ交付シタル者云々ト規定シタルモ內國ニ在留スル外國人ニ交付スルカ如キ何等特別ノ實害ナクシテ却テ外國ニ在留スル內國人ニ交付スルカ如キ場合ニ多クノ實害アルヲ以テ本法ハ之ヲ改メ廣ク帝國外ニ移送スル目的ヲ有スル場合ニ關スル規定ト爲シタリ。

本罪ノ成立ニハ帝國外ニ移送スル目的ナルコト及ヒ人ヲ略取又ハ誘拐シタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一帝國外ニ移送スル目的ナルコトヲ要ス。

即チ我帝國ノ領土領海外ニ送出スルノ目的アルヲ要スルモノトス、而シテ其

移送ノ目的如何ハ之ヲ問ハサルモノトス故ニ之ヲ外國人ニ賣買スルモノナルト醜業ヲ營マシムルモノナルトヲ區別スルコトナシトス、又外國人ニ交付スルモノナルト外國在留ノ內國人ニ交付スルモノナルトヲ別タス苟クモ外國ニ移送スル目的ナルニ於テハ常ニ本罪ヲ構成スルモノトス。

第二、人ヲ略取又ハ誘拐シタルコトヲ要ス。

本罪ハ年齡ノ如何ヲ問ハス帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタルトキハ直ニ成立スルモノトス其果シテ帝國外ニ移送シタルヤ否ヤハ本罪ノ成立ニ何等ノ關係ナキ所ナリトス。

以上ノ條件具備スルトキハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス可キモノトス、蓋シ本罪ノ如キ其害他ノ目的ニ出テタル場合ト同一ニ論ス可キモノニ非ス其結果タルヤ多クハ被誘拐者ヲシテ慘ヲ嘗メシムルノミナラス且ツハ國辱ヲ曝スニ至ルヘキモノナルヲ以テ本法ハ特ニ本條ノ規定ヲ設ケ其犯罪者ヲ重罰スルコト ト爲シタルモノナリトス。

本條第二項ハ帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シタル罪及ヒ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル罪ニ付キ規定シタルモノニシテ本法ハ新設ニ係ル規定ナリトス。

第一、帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シタル罪、

本罪ハ彼ノ所謂人身賣買ヲ禁シタルモノニシテ昔時盛ニ行ハレタル奴隸賣買ノ如キ現時ニ在リテハ全ク其跡ヲ絕ツニ至リタリト雖モ此ノ奴隸賣買ト殆ント異ナラサル彼ノ醜業婦賣買ノ如キ現今尙ホ行ハルヽ所ナルヲ以テ此等人道ノ敵トモ稱ス可キ惡漢ヲ嚴罰スルノ趣旨ヨリ本罪ノ設ケラレタルモノナリトス。

本罪ノ成立ニハ帝國外ニ移送スル目的ナルコト及ヒ人ヲ賣買シタルコトノ二條件アルヲ要スルモ各條件別ニ說明ヲ要セスシテ明瞭ナル可シ。

第二、被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル罪、

本罪ノ成立ニハ被拐取者若クハ被賣者ナルコト及ヒ帝國外ニ移送シタルコトノ二條件アルヲ要ス而シテ被拐取者トハ第二百四十四條第二百四十五條及ヒ本條第一項規定ノ所謂略取又ハ誘拐セラレタル者ヲ謂フモノニシテ被賣者

トハ前罪ノ賣ラレタル者即チ通例醜業婦トナル者ヲ指ス意ナリトス、而シテ此等ノ者ヲ帝國領海外ニ發送シタルトキハ本罪成立スルモノトス、即チ本罪ハ他人カ誘拐又ハ賣買シタル被害者ヲ海外ニ移送スルノ所爲ニ關スルモノニシテ若シ同一人カ人ヲ拐取又ハ賣買シテ海外ニ移送シタルトキハ本罪ト其他ノ拐取罪又ハ賣買罪トノ併合罪ヲ構成スルモノトス、終リニ本罪ノ成立ニハ被拐取者若クハ被賣者ナルコトヲ知リテ移送シタルモノナルヲ要スルヤ勿論ナリトス。

以上第一罪又ハ第二罪ヲ犯シタル者ハ前項ノ罪ト同シク二年以上ノ有期懲役ニ處ス可キモノトス。

第二百二十七條　前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幇助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條第一項ハ前三條ノ罪ハ幇助罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三百四十三條ノ規定ヲ修正シタルモノナリトス、

本罪ノ成立ニハ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幇助スル目的ナルコト及ヒ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一、前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幇助スル目的ナルコトヲ要ス、

即チ前三條所謂拐取者又ハ賣買者ノ拐取行爲若クハ賣買行爲ヲ容易ナラシムル希望アルヲ要スルモノトス、蓋シ本罪ハ所謂事後從犯ノ性質ヲ有スル罪ナルカ故ニ彼ノ贓物ニ關スル罪ト同シク主犯ヨリ被拐取者ヲ收受シテ主犯ノ犯行ヲ幇助スル結果ヲ生ス可キ場合ニ非スンハ罪ヲ構成スルコトナケレハナリトス。

第二、被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタルコトヲ要ス、

茲ニ收受トハ授クルモノヲ受クルノ義ニシテ被拐取者又ハ被賣者ナルコトヲ知リテ之ヲ受取ルノ意ナリトス、又藏匿トハ他人ノ發覺ヲ妨クルノ行爲ニシテ自家ニ隱シ置クカ如キ又ハ服裝等ヲ變セシムルカ如キハ其主ナル場合ナリトス、而シテ又隱避トハ一時他人ニ預ケ置ク等他ニ之ヲ避ケシメテ發見ヲ免レシムルノ所爲ヲ謂フモノトス。

以上ノ條件具備シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス。

本條第二項ハ營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者ヲ收受シタル所爲ニ關スルモノトス、而シテ營利又ハ猥褻ノ目的トハ既ニ說述シタル如ク藝娼妓酌婦ト爲シ又ハ自ラ之ト猥褻行爲ヲ爲サントスルカ如キヲ謂フモノトス。

而シテ本罪ヲ犯シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス。

第二百二十八條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ本章規定ノ各罪ハ何レモ其未遂ノ所爲ヲ罰ス可キコトヲ規定シタルモノナリトス。

而シテ本章ノ未遂罪ノ如何ナルモノナルヤニ付キテハ第二百二十四條乃至第二百二十六條第一項規定ノ罪ハ僞計又ハ威力ヲ用ヒテ正ニ人ヲ他所ヘ伴行セシメントシタルトキニ未遂罪成立スルモノニシテ若シ他所ヘ伴行セシメタルトキハ其距離ノ遠近如何ヲ問ハス各罪ノ既遂ナリトス、而シテ第二百二十六條第二項規定ノ罪ハ賣買行爲ニ着手シタルトキ又ハ帝國外ニ移送センカ爲メ船舶ニ乘込マシメタルトキ第二百二十七條ノ罪ハ被拐者又ハ被賣者ノ收受若クハ藏匿又ハ隱避ノ行爲ニ着手シタルトキ未遂罪成立スルモノトス。

第二百二十九條　第二百二十六條ノ罪同條ノ罪ヲ幇助スル目的ヲ以テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限リ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ

被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無效又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ

本條ハ本章中ハ或罪ハ親告罪ナル可キコトヲ規定シタルモノニシテ舊法第三百四十四條ノ規定ヲ修正シタルモノトス、即チ舊法ハ本章ノ罪ニ付キテハ其目的ノ如何ニ拘ラス總テ親告罪ト爲シタリト雖モ元來此種ノ罪ヲ親告罪ト爲スハ略取誘拐ノ事實ハ多クハ被害者ノ名譽ヲ害スルノ結果ヲ生スヘキモノナルモ妄リニ之ヲ訴追スルコトヲ得ルモノト爲ストキハ被害者ノ利益ヲ保護セントシテ却テ之ヲ傷クルノ結果ヲ生スルニ至ル可キヲ以テナルカ故ニ告訴ヲ待タスシテ直ニ犯人ヲ訴追シ處分スルモ爲メニ被害者ノ利益ヲ害スルノ虞ナキトキハ特ニ親告罪ト爲スノ必要ナカル可シ故ニ本法ハ本章ノ罪ト雖モ第二百二十六條ノ罪同條ノ罪ヲ幇助スル目的ヲ以テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪此等ノ罪ノ未遂罪及ヒ營利ノ目的ニ出テタル其他ノ各罪ハ告訴ヲ待タス直ニ訴追スルコトヲ得ルモノト爲シタリ。

本條ノ規定ニ從ヘハ第二百二十四條ノ未成年者ノ拐取罪第二百二十五條ノ猥褻結婚ノ目的ヲ有セル拐取罪第二百二十七條ノ前二條(第二百二十四條第二百二十五條)ノ罪ノ幇助罪猥褻ノ目的ヲ有セル被拐取者又ハ被賣者收受罪及ヒ以上各罪ノ未遂罪ハ總テ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス可キモノナリトス、然レトモ若シ被拐取者又ハ被賣者カ拐取者又ハ賣買者ナル犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキニ於テモ尚ホ告訴ノ效アルモノト爲スニ於テハ平和ノ家庭ニ波瀾ヲ起シ貴重ナル夫婦間ノ關係ヲ傷害スルト同時ニ其害或ハ率テ其間ニ生シタル無辜ノ家族ニモ及フコトアル可キヲ以テ斯ル場合ニハ告訴ノ效ナキモノト爲サヽル可カラス是レ本條但書カ被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ハ無效又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシト規定シタル所以ナリトス、而シテ茲ニ婚姻ノ無效又ハ取消ノ裁判確定後トハ民法第七百七十八條乃至第七百八十六條ノ規定ニ依リ婚姻ノ無效又ハ取消ノ判決確定シタルコトヲ謂フモノトス、從テ此等ノ判決確定セサル以上ハ無效トシテ取消シ得可キ瑕瑾アル婚姻ト雖モ尚ホ告訴ヲシテ無效ナラシムルノ力アルモノナリトス。

第三十四章　名譽ニ對スル罪

本章ノ規定ハ人ノ名譽ヲ毀損シタル罪ニ關スルモノニシテ舊法第三編第一章第十二節中ノ誹毀罪ヲ修正シタルモノナリトス、其修正ヲ加ヘタル主要ノ點ハ舊法ハ誹毀ノ方法ヲ列擧シタルモ其範圍狹キニ失シタルヲ以テ本法ハ之ヲ指示セス苟クモ人ノ名譽ヲ毀損シタリト認ム可キモノハ凡テ本章ノ規定ノ適用ヲ受ク可キコトヽ爲シタリ、又舊法ハ誹毀ノ方法ニ從ヒ其科刑ヲ區別シタルモ本法ハ之ヲ廢棄シ數種ノ廣汎ナル刑ヲ規定シ裁判官ヲシテ適宜ノ刑ヲ擇ハシムルコトヽ爲シタリ、尙舊法ニ所謂陰私漏告罪ハ本法ハ既ニ述ヘタル如ク之ヲ第十三節中ニ規定スルコトヽ爲シタリ。

第二百三十條　公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス

本條ハ名譽毀損罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三百五十八條ノ規定ヲ修正シタルモノナリトス。

本罪ノ成立ニハ公然事實ヲ摘示シタルコト及ヒ人ノ名譽ヲ毀損シタルコトノ二條件アルヲ要ス、

第一、公然事實ヲ摘示シタルコトヲ要ス、

本條所謂事實ハ摘示トハ人ノ名譽ヲ毀損ス可キ事實ヲ公然摘示スルヲ指稱スル意ナリトス、而シテ人ノ名譽ヲ毀損ス可キ事實トハ畢竟舊法所謂人ノ惡事醜行ヲ指スノ意ニ外ナラサルモ廣ク道義上他人ヲ害スヘキ若クハ刑律ニ觸ルヘキ總テノ行爲又ハ背德ノ行爲ニ關スル事實ハ勿論尙ホ惡事又ハ醜行トモ謂フ能ハサル事實例ヘハ彼ハ兩性ノ人ナリト云フカ如キ人ノ名譽ヲ毀損スルニ足ル可キモノハ總テ之ヲ包含スルノ意ナリトス、而シテ其事實ハ實際上存在シタルコトナルト虛僞ナルコトナルトハ之ヲ問ハサルモノトス。

而シテ茲ニ摘示トハ事實ヲ示シテ之ヲ公衆ニ公知セシムルノ義ナリトス、故ニ隱事ヲ發キテ之ヲ公ニスルノ所爲アルヲ要スルモノトス、從テ社會公衆カ未

タ之ヲ知ラサル事實ニ關スルニ非サレハ之ヲ公示スルモ摘示ト云フヲ得ス、サレハ現ニ公ト爲リ居レル事實例ヘハ或ル判決ノ如キヲ更ニ公ニスルモ本罪ヲ構成スルコトナシトス、而シテ又其摘示サレタル事實ハ確實ノモノナルヲ要ス單ニ彼レハ或ル者ト醜行ヲ爲シタルナラント云フカ如キ漠然タルモノハ本罪ヲ構成スルノ要素トナルコトナシトス、然リト雖モ其果シテ人ノ名譽ヲ毀損ス可キ事實ヲ摘示シタリト云フ可キヤ否ヤハ諸般ノ事情ヲ斟酌シテ決ス可キ法律上ノ問題ナリトス、但シ其事實ヲ摘示スル方法ハ本法之ヲ指定セサルカ故ニ公然ノ演說書類畫圖ノ公布又ハ雜劇偶像ノ作爲等ニ因ルハ勿論其他舊法ノ認メサル方法例ヘハ身振手眞似ヲ以テシ又ハ蓄音器活動寫眞器ヲ利用シテ發表スル等總テ之ヲ包含スルモノトス、然レトモ其摘示ハ公然ニ爲シタルコトヲ要ス單ニ人ノ名譽ヲ毀損ス可キ事實ヲ其本人ニ對シテ摘示スルモ侮辱罪ト爲ルハ格別本罪成立スルコトナシトス。

第二、人ノ名譽ヲ毀損シタルコトヲ要ス、

即チ如何ニ人ノ名譽ヲ毀損ス可キ事實ヲ公然摘示スルモ其結果人ノ名譽ヲ毀損シタルニ非スンハ本罪ヲ構成スルコトナシトス、然レトモ其果シテ人ノ名譽ヲ毀損シタルヤ否ヤハ其人ノ身分地位等ニ因リ異ナルヲ以テ一概ニ論定スルコトヲ得サルモノトス、然シ其人ノ社會上ニ有スル地位信用ニ對シ危害ヲ與ヘタルトキハ其人ノ名譽ヲ毀損シタルモノト謂フヲ得可ク其人ノ感情如何ヲ標準トスルモノニ非ス、故ニ例ヘハ或人カ自己ノ地位身分ヲ顧ミス淫事ニ耽ルノ癖アルコトヲ公然摘示シタリトセンニ假令其人自身ハ淫事ハ惡事醜行ニ非ス即チ自己ノ名譽ヲ毀損スヘキ事ニ非スト信シ居ルモ斯ル事ヲ公ニスルハ本罪タルヲ免レサルモノトス、從テ本罪ハ社會上ノ地位ヲ有スル者ニ對シテハ普ク之ヲ犯スコトヲ得ルモノト謂ハサル可カラス、故ニ彼ノ法人ノ如キハ勿論幼者又ハ狂者ニ對シテモ本罪ヲ行フコトヲ得ヘキモノトス蓋シ此等ノ者ト雖モ其社會上ノ地位ヲ有スルカ故ニ其惡事醜行ノ摘示ニ因リ其社會上ノ地位ヲ墜シ即チ名譽ヲ傷ケラルレハナリトス。

然リト雖モ本罪ハ特定シタル人ニ對シテ行ハルヽニ非サレハ成立セス漫然京都人ハ淫靡ナリト云フカ如キ其何人タルカヲ識別スル能ハサルトキハ本罪

成立スルコトナシトス、然レトモ其指示セラレタル人ノ誰レナルカヲ識別シ得ル以上ハ如何ナル方法ニ因リテ之ヲ示シタルトヲ問ハス即チ其藝名ナルト雅號ナルト將タ又渾名ナルトハ之ヲ別タス故ニ尚ホ其容貌ヲ世間ニ紹介スレハ容易ニ知ルコトヲ得可キ人ニ付キテハ敢テ其姓名ヲ指示スルヲ要セス、例ヘハ猿面冠者ト云フ如シ。

以上ノ條件具備スルトキハ其摘示シタル事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス、但シ新聞其他ノ出版物ヲ以テシタル場合ハ其事カ一私人ノ私行ニ係ラサルトキ從テ摘示ノ意思カ公益ノ爲メニスルニ在ル場合ハ罪トナルコトナシトス(新聞紙條例第二十五條出版法第三十一條參照)。

本條第二項ハ死者ノ名譽毀損罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三百五十九條ト同一趣旨ノ規定ナリトス。

元來死者ハ社會ニ何等ノ地位ヲ有セサルモノナルヲ以テ名譽ナルモノハアラサルノ理ナリト雖モ死者ノ遺族ヲ保護スルノ趣旨ヨリ本罪ノ規定サレタルモノナリトス、然レトモ之ヲ前項ノ罪ト同一ニ取扱フトキハ歴史ハ正實ナラサル可カラストノ公益ト相衝突スルカ故ニ公益上死者ニ對スル名譽毀損罪ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セサルコトヽ爲シタルモノナリトス、而シテ茲ニ誣罔トハ全ク虚僞ノ事項ヲ構造シテ摘示スル場合ヲ謂フモノトス、因テ即チ死者ニ對スル名譽毀損罪ハ事實ニアラサル事項ヲ摘示シテ名譽ヲ毀損シタルニ非スンハ成立スルコトナシトス、而シテ若シ虚僞ノ事實ヲ摘示シテ死者ノ名譽ヲ毀損シタルトキハ前項生存者ニ對スル場合ト同シク一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス。

終リニ本罪ト第二十一章誣告罪トノ區別ハ後者ニ在リテハ必ス虚僞ノ事實ニ關スルコトヲ要スルモ前者ニ在リテハ必ススシモ之ヲ要セサルト又後者ニ在リテハ刑辟ニ觸ル可キ事實ニ關スルコトヲ要スルモ前者ニ在リテハ單ニ其人ノ名譽ヲ毀損ス可キ事實ニ關スルヲ以テ十分トスルト且又後者ニ在リテハ告訴告發ヲ受ク可キ職責アル公務員ニ申告スルコトヲ要スルモ前者ニ在リテハ單ニ公衆ニ知ラシムレハ足ルモノトスルノ差異アリトス

第二百三十一條　事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

本條ハ侮辱罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第四百二十六條第十二號ノ規定ヲ修正シタルモノナリ即チ舊法ハ侮辱ノ方法ヲ罵詈嘲弄ニ限リタルモ仍ホ他ニ人ヲ侮辱スルノ方法多キヲ以テ本法ハ假令事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタルトキハ如何ナル方法手段ニ依リタルヲ問ハス之ヲ罰スルコトト爲シタリ。

本條所謂侮辱トハ人ノ有スル地位品格ヲ蹂躙スルノ行爲ヲ換言スレハ他人ヲ輕侮スルノ行爲ヲ謂フモノトス故ニ單ニ被害者ニ對シテ之ヲ爲シタルノミヲ以テ十分トシ第三者ノ之ヲ聞知セルヲ要セサルモノトス而シテ又被害者ニ對シテ或ル敬禮ヲ爲ササル可カラサル位地ニ在ル者ニ依リテ行ハレタルヲ要ス從テ其果シテ侮辱ノ行爲アリタルヤ否ヤハ双方ノ關係ヲ審査シタル後之ヲ決ス可キモノトス蓋シ他人ニ對シテハ通常侮辱ト爲ル可キ行爲ニテモ自己ノ妻子僕婢ニ對シテハ毫モ侮辱ト爲ラサルコトアレハナリトス。

之ヲ要スルニ凡ソ如何ナル手段ヲ以テスルモ苟クモ侮辱ノ意思ヲ表示スルニ足ルヘキモノハ皆侮辱ノ行爲タルヲ得可キカ故ニ侮辱ノ行爲ハ時ニ或ハ名譽毀損ノ手段即チ事實ノ摘示ヲ以テ行ハルルコトアリトス然レトモ名譽毀損罪ト本罪トハ其間大ナル差異ノ存スルアリトス即チ前者ハ他人ノ名譽ヲ毀損ス可キ事實ヲ第三者タル社會公衆ニ通告シ以テ之ヲシテ被害者ヲ論評スル材料ヲ得セシムルノ行爲ナルモ後者ハ犯人自ラ進ンテ被害者ヲ論評スルノ行爲ニシテ從テ其結果前者ハ第三者タル社會公衆ノ介在ヲ要スルモ後者ハ之ヲ要セサルノ差異アリトス。

而シテ本罪ヲ犯シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス可キモノトス。

第二百三十二條　本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ハ本章ノ罪ハ親告罪ナルコトヲ規定シタルモノニシテ舊法第三百六十一條ト同一趣旨ノ規定ナリトス蓋シ本章ノ罪ハ一面被害者ニ依リテ其成立ヲ知ルモノナルカ故ニ之ヲ知ルニ便ナランカ爲メナルト他方ニ於テ進ミテ之ヲ

訴追スルヲ得ルモノト爲ストキハ益々被害者ノ名譽ヲ傷クルノ結果却テ被害者ヲ害スルノ結果ヲ生スルノ虞アルトニ由リ之ヲ親告罪ト爲シ進ミテ之ヲ罰スルコトナク告訴ヲ待テ其罪ヲ論スルコトト爲シタルモノナリトス。

第三十五章　信用及ヒ業務ニ對スル罪

本章ノ規定ハ信用毀損罪及ヒ業務妨害罪ニ關スルモノニシテ舊法第二編第八章ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリトス即チ其修正ヲ加ヘタル主要ノ點ハ舊法ハ本章ノ罪ヲ公益ヲ害スルノ罪ノ一ニ列シ一般公衆ノ利益ヲ害スル場合ニ非スンハ罪ト爲サザリシト雖モ本法ハ之ヲ改メ單ニ一個人ノ利益ヲ害シタル場合ニ本章ノ罪ヲ構成ス可キモノト爲シタルニ在リトス

第二百三十三條　虛僞ノ風說ヲ流布シ又ハ僞計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ法律規定ハ手段ニ依ル信用毀損罪及ヒ業務妨害罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第二百六十七條乃至第二百七十二條ノ規定ニ修正ヲ施シタルモノナリトス。

本條規定ノ罪ノ成立ニハ虛僞ノ風說ヲ流布シ又ハ僞計ヲ用ヒタルコト及ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一、虛僞ノ風說ヲ流布シ又ハ僞計ヲ用ヒタルコトヲ要ス、

虛僞ノ風說ヲ流布スルトハ虛構不實ノ事項ヲ一般公衆ニ吹聽スルヲ謂フモノトス例ヘハ某氏ハ巨額ノ負債ノ爲メ正ニ破產セントスル狀況ニ在リト謂フカ如キ又ハ某所ノ製造品ハ粗惡ナリト云フカ如キ或ハ又某貸坐敷ニ毎夜幽靈出現スト無實ノ事項ヲ一般社會ニ流布スルカ如キ是レナリトス、又僞計ヲ用フトハ詐欺ノ要素ヲ包含シタル行爲ハ勿論賄賂其他ノ方法ヲ以テスル諸般ノ惡策ヲ用フルコトヲ謂フモノトス、即チ例之某商店ニ對シ商品ヲ粗惡ニセサレハ爾後汝ヲ同業組合ヨリ除名ス可キコトヲ協議シタリト詐言シ又ハ他人ニ贈與又ハ利益ヲ與フルノ約束ヲ爲シテ業務ノ妨害ヲ爲サシメントスルカ如キ總テ僞計ヲ用ヒタルモノナリトス。

第二、人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタルコトヲ要ス、

茲ニ信用毀損トハ人ノ社會上ニ有スル地位德望ヲ減却スルヲ謂ヒ業務妨害トハ農工商其他ノ業務ノ執行ヲ妨クルヲ謂フモノトス、而シテ本罪ハ風說ヲ流布シ又ハ僞計ヲ用フルモ之ヲ手段トシタルコト即チ風說ノ流布又ハ僞計ノ使用ト信用ノ毀損又ハ業務ノ妨害トノ間ニ原因結果ノ關係アルニ非スンハ成立スルコトナシトス、然レトモ其果シテ二者間ニ原因結果ノ關係アリシヤ否ヤ即チ或ル人ノ信用毀損ハ果シテ犯人ノ虛僞ノ風說ヲ流布シタルニ基キシヤ否ヤハ實ニ困難ナル事實問題ニシテ諸般ノ事情ヲ斟酌シテ決定ス可キコトナリトス。

而シテ又法律ニハ毀損シ、若クハ妨害シタル者云々トアリテ結果ノ生シタルコトヲ要スルカ故ニ風說又ハ僞計ニ依リテ一時若クハ永久ニ信用カ毀損セラレ又ハ業務カ妨害セラレタルノ事實ナキ場合例ヘハ被害者極メテ世上ニ德望高キ人ナリシ爲メ毫モ犯人ノ風說流布ニ依リ信用毀損セラルヽコトナク却テ益々其人ノ信用ヲ高メシメタルカ如キ場合ニハ單ニ未遂犯タルニ過キサルモノニシテ未遂犯ハ法律之ヲ罰セサルカ故ニ無罪タルヘキモノナリトス、然レトモ苟クモ犯人ノ目的ニシテ他人ノ信用毀損若クハ業務妨害ナルコトニアリテ而モ事實ニ於テ其人ノ信用毀損セラレ若クハ業務妨害セラルヽノ結果ヲ生シタルニ於テハ敢テ犯人カ犯罪ニ因リテ得ントスル所ノ目的即チ遠因ノ如何ハ之ヲ問ハサルモノトス

以上ハ條件具備スルトキハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

第二百三十四條　威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

本條ハ威力ニ依ル業務妨害罪ニ付キ規定シタルモノニシテ前條ト同シク舊法第二百六十七條乃至第二百七十二條ノ趣旨ヲ採リ之ヲ修正シタルモノナリトス

本罪ノ成立ニハ第一、威力ヲ用ヒタルコト及ヒ第二、人ノ業務ヲ妨害シタルコトノ二條件アルヲ要ス、而シテ茲ニ威力ヲ用フトハ暴行脅迫ハ勿論輕キ脅迫若

ク、ハ權力ノ濫用等ヲモ包含スルノ意ナリトス、即チ例ヘハ公務員タルノ地位或ハ會社銀行ノ重役タルノ地位乃至父兄先輩タルノ地位ヲ濫用シテ強ヒテ法文ニ掲クル如キ行爲ヲ爲サシムル場合ハ悉ク威力ヲ用ヒタルモノナリトス、斯ク本罪ハ脅迫ヲ以テ行ハルヽコトヲ得ヘキモノニシテ脅迫ハ第三十二章規定ノ條件ヲ具備スルトキハ其レ自身罪ヲ構成シ其目的如何ハ之ヲ問ハサルモノナルカ故ニ假令本條規定ノ如キ目的ヲ以テ脅迫スルモ其脅迫カ第二十二章規定ノ條件ヲ具備シタルトキハ同章ニ入ル可キモノニシテ本罪タルコトナシトス從テ本罪ノ手段タルカ爲メニハ同章規定ノ條件ヲ具備セサル場合タルコトヲ要スルモノトス、尚ホ本罪ニ於テモ前條ト同シク威力ノ使用ト業務ノ妨害トノ間ニ因果ノ關係アルコト及ヒ業務妨害ナル結果ヲ生シタルコトヲ要スルヤ勿論ナリトス。

而シテ本罪ヲ犯シタル者ハ前條ハ罪ト同シク三年以下ハ懲役又ハ千圓以下ハ罰金ニ處ス可キモノトス。

第三十六章　窃盗及ヒ強盗ノ罪

本章ノ規定ハ所謂盗罪ニ關スルモノニシテ舊法第三編第二章中ノ第一節及第二節ノ規定ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリトス、其修正ヲ施シタル主要ノ點ハ次ノ如シ

一舊法ハ本章ノ罪ニ付キ窃盗罪及強盗罪各別ニ別異ノ節目ノ下ニ規定シタルモ此等ノ二罪ハ單ニ形式上ニ於テ差異アルニ過キスシテ其實質ニ於テハ兩罪就レモ他人ノ財物ヲ不正ニ奪取スルノ行爲ニ外ナラサルカ故ニ本法ハ此二罪ヲ合シ共ニ本章中ニ規定スルコトヽ爲シタリ

二舊法第三百六十七條乃至第三百七十條第三百七十二條乃至第三百七十四條及第三百七十九條ハ共ニ皆所謂盗罪ノ情狀ニ因リ設ケタル區別ニ關スル規定ナルモ斯ル區別ハ毫モ實益ナキノミナラス凡ソ犯罪ノ情狀ト云フコトハ其種類極メテ夥多ナルモノニシテ容易ニ列擧スルコトヲ得ヘキモノニ非サルヲ以テ畢竟舊法ノ如キハ極メテ杜撰ナル立法例ナリシカ故ニ本法ハ總テ此等ノ區別ヲ廢スルト共ニ如上ノ規定ヲモ廢棄シ刑ノ範圍ヲ擴張シテ罪情相當ノ刑ヲ科スルコトト爲シタリ。

三以上ノ如ク本法ハ本章ノ罪ニ對シ其科刑範圍ヲ廣クシタル結果彼ノ舊法ノ補充法タリシ二十三年法律第九十九號屋外窃盗ニ關スル件ノ如キ其必要ナキニ至リタルヲ以テ本法ハ同施行法第二十四條ヲ以テ之ヲ廢止スルコトトシタリ。

第二百三十五條　他人ノ財物ヲ窃取シタル者ハ窃盗ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ窃盗罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三百六十六條ト同一趣旨ノ規定ナリトス

本罪ノ成立ニハ他人ノ財物ナルコト及ヒ窃取シタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一、他人ノ財物ナルコトヲ要ス、

茲ニ所謂物トハ人類ニ非サル自然界ノ一部ニシテ體ヲ有シ吾人ノ權力ニ服從セシメ得可キモノヲ謂フ意ナリトス、蓋シ物ハ人類ニ非サルコト勿論ナル可ク又體ヲ有シ吾人ノ權力ニ服從セシメ得可キモノニ非サレハ窃取即チ他人ノ所持ヲ離シ自己ノ所持内ニ移スコトヲ得サレハナリトス、人類ニ非サルコトヲ要スルカ故ニ人類ノ身體及其一部トシテ之ニ附加サレタルモノモ亦物ニ非ス然レトモ身體ノ一部ニシテ之ト分離セルモノ例ヘハ毛髮義足義齒ノ如キハ物ナリトス、又有體物ナルヲ要スルカ故ニ空間ヲ充滿スルノ性質ヲ有セサル自然的及人工的ノ力例ヘハ熱光電氣債權ノ如キハ茲ニ所謂物ニ非ス、然レトモ電氣ニ付テハ第二百四十五條ノ特別規定ニ依リ物ト看做サレ債權モ之ヲ證明スル證書ハ有體物ナルヲ以テ物ナリトス故ニ貸金證書ヲ窃取シタル者アリタルトキニハ之レ債權ヲ窃取シタル者ニ非スシテ相當ノ價額ヲ有スル書類ヲ窃取シタル者ナリトス從テ贓額ノ問題生シタル場合ニハ其證書ニ記載シタル價額ニ依ルコトナクシテ裁判官ノ評定ニ委ス可キモノトス、尚又吾人ノ權力ニ服從セシメ得可キモノナルヲ要スルカ故ニ太陽月星ノ如キ吾人ノ權力ニ服從セシメ能ハサルモノハ此又物ニ非ス、之ヲ要スルニ茲ニ所謂物ハ單ニ移轉シ得可キ物件タルコトヲ要スルノミナルカ故ニ必スシモ民法上所謂動產タルコトヲ要セス不動產ト雖モ山林ノ竹木鑛物又ハ建築物ノ一部分等事實上動シ得ヘキ物ハ皆

本罪ノ目的タルコトヲ得ヘキモノトス。

然リト雖モ以上ノ物ト雖モ他人ノ物ナラサレハ本罪ノ目的タルヲ得ス即チ他人カ其上ニ法律上ノ利益ヲ有スル物ナルコトヲ要ス、斯ク利益ヲ有スル物件タルヲ要スルカ故ニ假令一個人ノ專有ニ屬ス可キモノト雖モ未タ初ヨリ何人ノ所有ニモ屬セサル無主物又ハ所有物カ遺棄シタル物ハ本罪ノ目的物タルヲ得ス、又他人カ有スル物件タルヲ要スルカ故ニ犯人ニノミ專屬シテ他人カ其上ニ何等ノ利益ヲモ有セサル物ハ本罪ノ目的物タルヲ得ス、然レトモ他人カ利益ヲ有スルノミヲ以テ十分トスルカ故ニ犯人カ他人ト共ニ共有スル物ハ常ニ本罪ノ目的物タルコトヲ得ルモノトス蓋シ共有ハ共有者ノ各自カ其物ノ上ニ不可分ノ權利ヲ有シ何レノ部分ニ於テモ犯人以外ノ共有者ノ持分ヲ含有スルカ故ニ之ヲ害スルトキハ同時ニ他ノ共有者ノ權利ヲ害スレハナリトス、尚又他人カ法律上ノ利益ヲ有スル物件タルコトヲ要スルカ故ニ假令事實上他人カ利益ヲ有スト思量スル物件ト雖モ例ヘハ阿片烟又ハ僞造貨幣ノ如キ法律ノ禁制シタル物件及ヒ埋葬ス可キ屍體ノ如キハ本罪ノ目的物タルヲ得サルモノトス但シ死體ニ付キテハ解剖其他ノ必要上官許ヲ得テ保持スルモノハ此限リニ非サルモノトス、然リト雖モ法律ハ單ニ他人ノ所有物タルコトヲ要シ被害者若クハ被奪取者ノ所有物タルコトヲ要セサルカ故ニ苟クモ犯人以外ノ者カ所有スル物件ヲ窃取シタルトキハ現在之ヲ奪取セラレタル者ハ假令所有權ヲ有セサルモ尚ホ常ニ本罪ヲ構成スルモノトス

以上ノ要件ヲ具備スル物ハ總テ本罪ノ目的タルヲ得ルモノニシテ敢テ此等ノ物カ交換價格ヲ有スルヲ要セス蓋シ本罪ニ付キテハ法律ハ必スシモ價額ヲ保護スルモノニ非スシテ所持及其他ノ權利ヲ保護スルモノナレハナリトス、故ニ彼ノ寡婦カ夫ノ紀念トシテ所持スル遺髮ノ如キ假令毫厘ノ價格ナキモノト雖モ之ヲ窃取シタルトキハ窃盗罪タルヲ免レサルモノトス。

第二、窃取シタルコトヲ要ス、

茲ニ窃取トハ不正ニ奪取スルヲ謂フ而シテ奪取トハ他人ノ占有ヲ離シ自己ノ占有ニ移スヲ謂フモノトス、斯ク己レノ占有ニ移スノ行爲アルコトヲ要スルカ故ニ已ニ自己ノ占有内ニ在ル物ハ更ニ之ヲ占有スルノ理ナキカ故ニ本罪ノ

目的物ハ常ニ自己ノ占有内ニ在ラサルモノタルコトヲ要ス、從テ他人ヨリ寄託セラレタル物件又ハ拾得シテ占有スル物件等ハ本罪ノ目的タルコトヲ得サルモノトス、然レトモ自己ノ占有内ニ在ラサル物ハ總テ之ヲ奪取スルコトヲ得ルカ故ニ本罪ノ目的物ハ必スシモ他人ノ占有内ニ在ル物タルコトヲ要セス即チ遺失物等ト雖モ初ヨリ不正ニ所有スルノ意思即チ奪取スルノ意思ヲ以テ之ヲ獲得シタル者ハ本罪ノ犯人ナリトス。

本罪ハ奪取ノ行爲ニ因リテ完成スル即時犯ニシテ奪取以後ノ行爲例ヘハ奪取シタル物ヲ抛棄シ又ハ返還シタル等ノ行爲ハ本罪ノ構成ニ關係ナキモノトス、然レトモ窃取ノ意思ナキ場合例ヘハ友人ノ時計ヲ無斷ニテ取出シテ時ヲ觀タル後再ヒ元ノ位置ニ復スルカ如キ又ハ他人ノ貴重品ヲ門外ニ取出シテ破棄スルカ如キ之ヲ不正ニ奪取スルノ意思ナキ場合ニハ本罪成立スルコトナキヤ勿論ナリトス、而シテ奪取行爲ノ完成時期即チ本罪ノ既遂ノ時期ハ何時ナリヤニ付キテハ從來學説種々アリトス、或ハ物カ現在ノ場所ヲ離レタルトキ或ハ犯人カ之ヲ獨　スルノ狀態ニ達シタルトキ或ハ犯人カ持テ行カント欲シタル場所ニ置キタルトキ或ハ又現在ノ場所ヲ離レテ犯人ノ實力内ニ入リタルトキヲ以テ既遂トスト爲スカ如シ、然レトモ畢竟最後ノ説ヲ以テ尤モ妥當ナリトス蓋シ奪取トハ他ニ在ル物ヲ移轉シテ自己ノ手中ニ入ルヽコトヲ意味スレハナリトス、尚ホ最後ニ本罪ノ成立ニハ不正ノ奪取ナルコトヲ要ス蓋シ彼ノ債務者カ資力アルニ拘ラス辨濟ヲ怠リシ爲メ債權者腕力ニ訴ヘテ之ヲ奪取シタルカ如キ假令適法ノ手段ニ依ラサリシトハ雖モ彼ノ權利ナクシテ他人ノ物ヲ奪取スルカ如キ不正アルニ非サルヲ以テ本罪ヲ構成スルコトナケレハナリトス。

以上ノ條件具備スルトキハ之ヲ窃盗ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトシ敢テ犯罪ノ遠因如何ハ之ヲ問フコトナシ即チ犯人已レヲ利益セントノ目的ナリシモノナルト否トハ之ヲ別タス又其犯罪カ屋内ニ於テ行ハレタルト屋外ニ於テ行ハレタルトハ之ヲ區別スルコトナシトス。

第二百三十六條　暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ强取シタル者ハ强盗ノ罪トナシ五年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシ

テ之ヲ得セシメタル者亦同シ

本條ハ強盗罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三百七十八條ト同一趣旨ノ規定ナリトス、而シテ本罪ノ成立ニハ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコト及ヒ他人ノ財物ヲ強取シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコトヲ要ス

茲ニ所謂暴行又ハ脅迫トハ既ニ屢々説明シタル如ク暴行ハ人ノ生命身體等ニ對シ直接ナル損害ヲ生セシム可キ不正ノ腕力ヲ意味シ脅迫ハ精神的ニ人ノ生命身體等ニ危害アラントノ恐怖心ヲ起サシムヘキ行爲ヲ意味スルモノトス、而シテ本條脅迫ハ單ニ被害者ニ對シテ危害ヲ加ヘンコトヲ以テシタル場合ノミナラス被害者自身ニ對シテハ勿論尚ホ現ニ被害者ニ於テ救護ス可キ者ノ生命身體等ニ對シ危害ヲ加ヘンコトヲ以テ脅迫シタル場合ヲモ包含スル意ナリトス、故ニ例ヘハ被害者ノ情婦ヲ殺害ス可キコトヲ以テ脅迫シタル場合ノ如キ因リテ財物ヲ強取シタルトキハ直ニ本罪成立スルモノトス、然レトモ茲ニ所謂脅迫ハ現實且ツ直接ナル危害ヲ生ス可キ恐ヲ抱カシムル有形ノモノト未來ニ有形ノ危害ヲ生ズルノ恐ヲ抱カシムヘキ無形ノモノトヲ限リ包含スル意ナリトス、故ニ例ヘハ汝ノ名譽ヲ毀損ス可シト云フカ如キ未來ニ無形ノ害惡ヲ生ス可キ恐ヲ抱カシムル無形ノモノハ之ヲ包含セサルモノトス。

而シテ本罪ノ成立ニハ此ノ暴行又ハ脅迫カ他人ノ財物ヲ強取スルノ手段ニ用ヒラレタルコトヲ要スルモノトス、故ニ強取以外ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルモノナルニ於テハ假令其ト同時ニ財物奪取ヲ行ヒタルトキト雖モ本罪ニ非スシテ窃盗罪ト他罪トノ併合罪ナリトス。

第二、他人ノ財物ヲ強取シタルコトヲ要ス、

茲ニ他人ノ財物ノ何タルヤニ付キテハ前條ニ於テ既ニ詳論シタル所ナルヲ以テ就テ參照セラル可ク又強取ハ前條奪取ト同一義ニシテ只本罪ハ暴行脅迫ヲ手段ト爲スカ故ニ法文ノ體裁上之ヲ強取ト爲シタルニ過キス、而シテ奪取ノ何タルヤモ既ニ説述シタル所ナルヲ以テ更ニ復説セサル可シ唯茲ニ一言注意ス可キハ本罪ハ苟クモ暴行脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ他人ノ占有ヨリ離シ自己ノ占有ニ入レタルトキハ直ニ罪ヲ構成シ敢テ犯人自ラ進テ財物ヲ奪取シタル

ト將タ被害者ヨリ之ヲ提供シタルトハ之ヲ問ハサルコト是レナリトス。

以上ノ條件具備シタルトキハ強盗ハ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處スヘキモノトス。

本條第二項ハ暴行又ハ脅迫ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル罪ニ付キ規定シタルモノニシテ本法ノ新設ニ係ル規定ナリトス、蓋シ強盗罪ハ窃盗罪ト異ナリ單ニ財物ヲ强取スルノミナラス其他ノ財産上ノ利益ヲモ奪取スルコトナキニ非サルカ故ニ本法ハ舊法ノ不備ヲ補修シタルモノナリトス。

本罪ノ成立ニハ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコト及ヒ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一、暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコトヲ要ス。

本條件ハ前項ニ於テ述ヘタルト同一ナルカ故ニ更ニ復說セサル可シ。

第二、財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルコトヲ要ス。

即チ本罪ハ暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ニ對シ其眞意ニ反シ財産上ノ利益ヲ授付セシメタル場合ニ關スルモノニシテ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルトハ義務ナキニ自己又ハ第三者ノ爲メ他人ニ物權ノ設定移轉又ハ變更ヲ强制シ若クハ債權證書ヲ破毀セシメテ自己又ハ第三者ノ債務ヲ免レシメ又ハ債權ナキニ他人ヲシテ自己又ハ第三者ニ對シ債務證書ヲ作ラシメタルカ如キヲ謂フモノトス、例之彼ノ壯士ト稱スル惡徒カ自己若クハ囑託者タル第三者ノ爲メニ口述ヲ設ケテ暴行脅迫ヲ加ヘ金錢ヲ强要スルカ如キ其顯著ナル實例ナリトス。

以上ノ條件具備スルトキハ前項ト同シク强盗ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處スヘキモノトス。

第二百三十七條　强盗ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ强盗罪ノ豫備行爲ヲ罰スヘキコトヲ規定シタルモノニシテ本法ノ新設ニ係ル規定ナリトス、蓋シ强盗罪ノ如キ其社會ニ對スル實害極メテ大ナルモノナルカ故ニ危害ヲ未前ニ防遏スルノ趣旨ヨリ第七十八條及第二百一條ト同

シク本條ノ規定ヲ觀ルニ至リタルモノトス。

本條所謂豫備行爲トハ強盗ヲ爲サントスルノ決心ヨリ前條所謂強盗罪ニ着手シタル迄ノ準備的行爲ヲ謂フモノニシテ例之暴行脅迫ノ用ニ供センカ爲メ銃劍ヲ購買スルカ如キ乃至ハ之ヲ携ヘテ他人ノ家ニ進ムカ如キ又ハ門戸ヲ開キテ忍ヒ入ラントスルカ如キ強盗罪一構成要件タル暴行脅迫ニ着手スル迄ノ準備行爲ノ總テハ其ノ豫備行爲ナリトス。

而シテ本罪ヲ犯シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス。

第二百三十八條　窃盗財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盗ヲ以テ論ス

本條ハ準強盗罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三百八十二條ト同一趣旨ノ規定ナリトス。

本罪ノ成立ニハ第一窃盗財物ヲ得テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルコト及ヒ第二暴行又ハ脅迫ハ財物ノ取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メニ爲シタルコトノ二條件アルヲ要ス、而シテ茲ニ窃盗財物ヲ得テトハ第二百三十五條ニ所謂窃盗罪ヲ遂ケ他人ノ財物ヲ奪取シ尚ホ未タ刑事訴訟法ニ所謂現行犯ノ狀態ニ在ル間ヲ謂フモノトス、又取還ヲ拒ク爲メトハ他人ノ財物ヲ窃取シタル後家人其他ノ者ニ發見セラレ其物ヲ取還セラレントスルヲ拒ク爲メナルヲ謂ヒ、逮捕ヲ免レン爲メトハ財物ヲ窃取シテ逃走セントスルニ際シ他人ニ發見サレ逮捕セラレントスルヲ拒ム爲メナルヲ謂ヒ、罪跡ヲ湮滅セン爲メトハ現ニ行ヒタル窃盗罪ノ證據ヲ破棄隱蔽シテ無カラシメンカ爲メナルヲ謂フモノトス、蓋シ此等ノ目的ヲ以テ暴行脅迫ヲ加フルハ恰モ財物ヲ奪取センカ爲メニ暴行脅迫ヲ加フルモノト其間僅ニ表裏ノ差アルニ過キサルヨリ之ヲ強盗ニ準シタルモノトス。

終リニ一言注意ス可キハ本罪ノ成立ニハ財物ノ取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スルノ目的ヲ以テ暴行脅迫ヲ加ヘタルコトヲ要シ若シ然ルニ非スシテ例之窃取後家人ニ發見サレ罵倒サレタルヲ憤リ暴行ヲ加ヘタルカ如キ又ハ家人ノ暴行ニ對シ一時ノ感情ヨリ之ヲ毆打シタルカ如キ場合ニハ本

罪ニ非スシテ窃盗罪ト暴行罪ノ併合罪ナルコト是レナリトス。

以上ノ條件具備シタルトキハ強盗ヲ以テ論シ五年以上ノ有期懲役ニ處スヘキモノトス。

第二百三十九條　人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盗取シタル者ハ強盗ヲ以テ論ス

本條モ亦タ準強盗罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三百八十三條ノ規定ト全ク同一趣旨ニシテ唯舊法ハ人ヲ昏醉セシムル方法ヲ例示シタルモ本法ハ之ヲ必要ナラスト認メ删除シタルノミナリトス。

本條規定ノ罪ノ成立ニハ人ヲ昏醉セシメタルコト及財物ヲ盗取シタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一、人ヲ昏醉セシメタルコトヲ要ス

人ヲ昏醉セシムルトハ藥酒ヲ飲用セシメ又ハ催眠術ヲ施シ人ヲ醉迷セシメ人事不省ニ陷ラシムル等被害者ノ抵抗力ヲ失ハシムルヲ謂フモノトス、而シテ本罪ハ人ヲ昏醉セシメ以テ財物ヲ盗取シタルコトヲ要スルカ故ニ被害者自ラ亂酒等ニ因リ醉迷シタルニ乘シ又ハ第三者カ昏醉セシメタルニ乘シ其財物ヲ窃盗シタルカ如キ場合ニハ強盗罪ニ非スシテ單純ナル窃盗罪ニ過キサルモノトス、然レトモ苟クモ犯人自身人ヲ昏醉セシメ財物ヲ盗取シタルトキハ本法ハ舊法ノ如ク昏醉セシメタル方法ノ如何ヲ問ハサルカ故ニ藥種若クハ酒類ニ依リタルト將タ催眠術又ハ電氣作用其他或ル手術ヲ用ヰタルトニ論ナク常ニ本罪ヲ構成スルモノトス。

第二、財物ヲ盗取シタルコトヲ要ス。

財物盗取ノ意義如何ハ重テ説明スルノ要ナカルヘシ、唯茲ニ注意ス可キハ本罪ハ常ニ財物盗取ノ意思ヲ以テ故ラニ被害者ノ抵抗力ヲ失ハシメタル場合ニ限ルコト是レナリトス、故ニ大酒等ニ因リ醉迷シタルニ乘シ急ニ發意シテ其所持品ヲ盗取シタルカ如キ場合ニハ醉迷ノ原因カ假令犯人自身ノ行爲ニ出テタル場合ト雖モ窃盗ニシテ強盗ニ非サルモノトス。

以上ノ條件具備スルトキハ強盗ヲ以テ論シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス可キモノトス、蓋シ人ヲ昏醉セシメ以テ其抵抗力ヲ失ハシメ因リテ財物ヲ盗取シタ

ル者ハ暴行脅迫ヲ用ヰテ其抵抗力ヲ失ハシメ因リテ財物ヲ盗取シタル者ト異ナラサルヲ以テ之ヲ強盗ニ準シタルモノナリトス。

第二百四十條　強盗人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ強盗人ヲ死傷ニ致シタル罪ヲ規定シタルモノニシテ舊法第三百八十條ト同一趣旨ノ規定ナリトス。

本條所謂強盗トハ強盗ノ行爲ト之ヲ爲シタル人トノ關係ニ於テ其人カ強盗犯人タルノ稱呼ヲ受クルノ間即チ犯罪ノ着手ヨリ之ヲ行ヒ了リタル際マテニ於ケル犯人ノ名稱ナリトス、從テ茲ニ所謂人ヲ傷ハシ又ハ死ニ致シトハ財物ヲ奪取センカ爲メニ殺傷シタルモノ、財物ヲ奪取スル手段タル暴行脅迫當然ノ結果トシテ死傷セシメタルモノ及ヒ暴行脅迫ヲ行ハントシテ誤リテ死傷セシメタルモノヲ指稱スルノ意ナリトス、故ニ彼ノ強盗ヲ行ヒ又ハ行ヒ了リタル際偶々平生恨メル者ノ側ニ在ルヲ發見シタルニ由リ臨時之ヲ殺傷シタルモノ又ハ逃走ノ際誤リテ嬰兒ヲ踏ミ殺シタルカ如キモノハ茲ニ之ヲ包含セサル意ナリトス、蓋シ本條文ハ強盗トシテ人ヲ傷シ又ハ死ニ致シト讀ムヘキヲ至當トス可ク且ツ之ニ關係ヲ有セスンハ更ニ刑ヲ加重スヘキノ理由ナケレハナリトス。

上述ノ如ク本條ハ強盗カ強盗トシテ人ヲ傷シ又ハ死ニ致シタル場合ヲ規定シタルモノナルカ故ニ強盗ノ行爲カ未遂ナルヤ將タ既遂ナルヤハ之ヲ問フコトヲ要セサルノミナラス死傷ニ付テモ亦未遂既遂ノ問題ヲ生スルコトナシ唯其結果ヲ吟味シ結果アリタルトキニ於テ始メテ本條ヲ適用ス可キノミナリトス、而シテ人ヲ傷シタル者ナルトキハ無期又ハ七年以上ハ懲役ニ處シ死ニ致シタル者ナルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス可キモノナリトス。

第二百四十一條　強盗婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス、

本條ハ強盗強姦罪ヲ規定シタルモノニシテ舊法第三百八十一條ト同一趣旨ノ規定ナリトス。

本條ノ意義ハ前條ニ於テ既ニ述ヘタルト同一ナリ唯前條ト異ナルハ本條ハ前條ノ如ク死傷ト云フカ如キ結果ヲ以テ其罪ヲ論スルコトナク強姦テフ行爲ヲ以テ罪ヲ論スルモノナルカ故ニ強姦セントシテ遂クル能ハサル場合ニハ本條ノ未遂ヲ以テ論スヘキニ在リトス、但シ本條末段規定ノ場合ニ付キテハ強姦テフ行爲ニ基因シテ死テフ結果ヲ生シタルトキニハ直ニ本條ヲ擬スヘキコト勿論ナリトス、尚ホ本條所謂強姦ノ何者タルヤハ既ニ第百七十七條ニ於テ説明シタル所ニ係ルカ故ニ敢テ茲ニ再言スルノ要ヲ認メス。

本條前段規定ノ強盗婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス可ク因テ其結果婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス可ク若シ因テ婦女ヲ傷シタルトキハ前條ノ規定ニ依リテ處斷ス可キモノナリトス蓋シ本條ハ畢竟前條ヲ補充シタル規定ナレハナリトス。

第二百四十二條　自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス、

本條ハ自己ノ財物ト雖モ他人ノ之ヲ占有スルトキハ他人ノ財物ト看做ス可キ旨ヲ規定シタルモノニシテ普通盗罪ニ對スル例外規定ナリトス而シテ本條ハ舊法第三百七十一條ト同一趣旨ノ規定ニシテ唯異ナルハ舊法ハ本條ヲ窃盗罪ノ條下ニ規定シタルヲ以テ強盗罪ニ之ヲ適用スル能ハサルヤノ嫌アリシモ本法ハ本條ヲ本章ノ最後ニ規定シ窃盗罪ノミナラス總テノ盗罪ニ汎ク本條ヲ適用スルコトヲ得セシメタルニ在リトス。

既ニ述ヘタル如ク通常盗罪ハ他人カ所有權ヲ有スル物ニ對スルニ非サレハ成立セサルヲ原則トス、然ルニ本條ハ盗取者自身所有權ヲ有スル物ニ付キ盗罪ノ成立ス可キコトアルヲ規定シタルモノナリ、本條カ特別規定ナリト云フ所以實ニ茲ニ在ルナリ、而シテ本條規定ノ要件タルヤ第一他人ノ占有ニ屬スル物ナルコト又ハ第二公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守スル物タルコトノ何レカ一ヲ具フル物タルヲ要スルニ在リトス。

第一、他人ノ占有ニ屬スル物ナルコトヲ要ス、

茲ニ所謂占有トハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ即チ或ル權利ノ行使トシテ

他人ノ物ヲ所持スルヲ謂フモノトス、換言セハ民法上所謂質權留置權等ニ因リ所持スル他人ノ所有物ニ關スルモノナリトス、而シテ茲ニ質權トハ債權ノ擔保トシテ債務者又ハ第三者ヨリ受取リタル物ヲ占有シ且ツ他ノ債權者ニ先チテ其物ヲ債權ノ辨濟ニ供スルヲ得ル權利ヲ謂ヒ(民法第三百四十二條)留置權トハ他人ノ占有者カ其物ニ關シテ生シタル債權ノ辨濟ヲ受クルマテ其占有物ヲ留置スルコトヲ得ルノ權利ヲ謂フモノトス(民法第二百九十五條)從テ之ヲ要スルニ本條所謂他人ノ占有ニ屬スル物トハ質權者又ハ留置權者カ所持スル自己ノ所有物ヲ謂フモノナリトス。

第二、公務所ハ命ニ因リ他人ハ看守スル物タルコトヲ要ス、

茲ニ公務所ハ命ニ因リ他人ハ看守スル物トハ法令ノ規定ニ從ヒタル公務所ノ命令ニ基キ看守人カ看守スル自己ノ所有物ヲ謂フモノトス例之民事訴訟法又ハ刑事訴訟法ノ規定ニ依リ公務所又ハ公務員カ差押ヘタル物件ノ如キ即チ是レナリトス。

以上二條件ノ何レカヲ具フル物件ハ假令自己ノ所有物ナリト雖モ本章規定ノ罪ニ付キテハ他人ノ財物ト看做シ之ヲ窃取シタルトキハ窃盗罪成立シ之ヲ強取シタルトキハ強盗罪成立スルモノトス、蓋シ以上ノ如キ物件ハ假令自ラ之カ所有權ヲ有スト雖モ法律上自由ニ之カ處分ヲ爲シ得ヘカラサルモノナルカ故ニ之ヲ盗取スルニ於テハ他人ノ所有物ヲ盗取シタルト其結果ニ於テ毫モ異ナル所ナケレハナリトス。

第二百四十三條　第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ本章規定ハ或ル罪ハ未遂罪ハ之ヲ罰スヘキ旨ヲ規定シタルハニシテ其罰ス可キ罪ハ第二百三十五條第二百三十六條第二百三十八條乃至第二百四十一條規定ノ罪ナリトス、從テ本條ノ規定ニ依レハ例ヘハ他人ノ財物又ハ自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬スル物等ヲ窃取センカ爲メ人家ニ忍ヒ入リタルモ家人ニ發見サレ果タス能ハサリシ場合ノ如キ又ハ暴行脅迫ヲ加ヘ如上ノ物件ヲ强取セントシ捕ヘラレテ遂クル能ハサリシ場合ノ如キ其他財物ヲ强取センカ爲メ人ヲ昏醉セシメタルモ其目的ヲ果タスヲ得サリシ場合ノ如キ總テ

本章規定ノ罪ノ未遂罪トシテ第四十三條及第六十八條等ヲ適用シ所罰スヘキモノナリトス、然レトモ强盗ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲サントシタルモ爲ス能ハサリシ場合ノ如キ第二百三十七條規定ノ罪ノ未遂罪ハ之ヲ罰スルコトナシトス。

第二百四十四條　直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

本條ハ親族相盗ノ罪ヲ規定シタルモノニシテ舊法第三百七十七條ヲ修正シタル規定ナリトス即チ舊法ハ直系血族及ヒ同居ノ親族ハ其罪ヲ免スルモ其他ノ親屬ニ付テハ之ヲ除外スルノ趣旨ナリシト雖モ本法ハ假令其他ノ親屬ナリト雖モ通常他人ト同一ニ之レヲ處分スルハ酷ニ失スト認メ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スルコトヽ爲シタルモノナリトス。

抑モ本條規定ノ如ク親族相盗ヲ罰セスト云フハ遠ク羅馬ノ時代ヨリ今日ニ至ル迄親族間ニ在リテハ互ニ特有ノ財産ヲ有スル者ナキカ故ニ其間ニ於ケル盗取ノ行爲ハ尚ホ自己ノ物ヲ盗取スルト同シク根底ヨリ罪ヲ構成セストノ理由ノ下ニ各國ノ立法上久シキ沿革ヲ以テ採用セラレタルト共ニ法律カ現ニ親屬間ニ於テ互ニ獨立シテ財産ヲ有スル者アルコトヲ認メタル今日ニ於テモ之ヲ罪トシ罰スルニ於テハ親密ナル親屬間ノ平和ヲ破リ率テ一般ノ道義若クハ公益ヲ害スルニ至ルヲ以テ主トシテ公益上ノ必要ニ基キ親族相盗ニ關シテハ其刑ヲ免除スルコトヽ爲シタルモノナリトス。

本條第一項ノ規定ニ從ヘハ直系血族配偶者及ヒ同居ノ親屬又ハ同居ノ家族間ニ於テハ窃盗罪及其未遂罪ヲ犯スモ其刑ヲ免除シ科セサルモノトス(民法第四編第一章及ヒ第二章參照)而シテ其他ノ親族即チ事實同居セサル親族又ハ家族間ニ於ケル窃盗罪及其未遂罪ハ告訴ヲ待テ始メテ其罪ヲ論ス可キモノナリトス。

本條第二項ハ親族又ハ家族ニ非サル者カ親族又ハ家族ノ窃盗罪ノ共犯者ナ

リシ場合ニハ前項ノ例ニ依ルコトナク其刑ヲ科ス可キ旨ヲ規定シタルモノナリトス、親族相盜ハ根底ヨリ竊盜罪構成ノ要件ヲ缺クニ基ク無罪ナルヤノ觀アルカ故ニ之ニ與リタル他人モ尙ホ根本ヨリ罪ヲ構成セサルヤノ疑アルヲ以テ法律ハ特ニ本項ノ規定ヲ設ケ親族又ハ家族ニ非サル共犯者ハ此限リニ非サル旨ヲ規定シタルモノナリトス、而シテ茲ニ所謂共犯ハ彼ノ實行正犯ノミナラス教唆犯及ヒ從犯ヲモ包含スル意ナリトス、從テ例之自己ノ友人ヲ教唆シテ其友人ノ父ノ金圓ヲ盜マシメタル者ハ本項ノ規定ニ依リ第二百三十五條ヲ適用シ所罰ス可キモノナリトス。

第二百四十五條　本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

本條ハ電氣ヲ財物ト看做ス可キ旨ヲ規定シタルモノニシテ本法ノ新設ニ係ル規定ナリトス蓋シ電氣ハ財物ナルヤ否ヤニ付テハ舊法上頗ル議論ノアリシ所ナルヲ以テ其疑義ヲ避ケンカ爲メ茲ニ本條ノ規定ヲ設ケタルモノナリトス。

抑モ既ニ述ヘタル如ク盜罪ノ目的物カ有體物ナラサル可カラスト云ヘル有體物ノ意味ハ民法第八十六條ノ規定ニ基クモノニ非スシテ盜取ト云フ行爲自身カ物ヲ現實ニ握取シテ他人ノ所持ヨリ自己ノ所持ニ移スヲ謂フニ基キタルモノナリト雖モ其終局ハ同一ニシテ孰レニシテモ盜罪ノ目的物タル財物ハ有體物即チ空間ヲ充滿スルノ性質ヲ有スルモノナラサル可カラス、從テ何等空間ヲ充スコトヲ得サル人工的ノ力ナル電氣ハ財物ニ非ス即チ盜罪ノ目的物ニ非スト云ハサル可カラス、人或ハ曰ク電氣ハ之ヲ貯フルコトヲ得ルカ故ニ空間ヲ充シ得ルモノト云フヲ得ヘク即チ財物ナリト、然リト雖モ電氣ハ之ヲ電氣トシテ貯フルコトヲ得ス若シ之ヲ貯フルトキハ全ク別種ノモノトナル、加之若シ論者ノ說ニ從ハンカ人ノ音聲モ又之ヲ貯フルコトヲ得ルカ故ニ物ナリト云ハサル可カラサルニ至ルヘシ、誰レカ音聲ハ物ナリト聞キテ驚カサル者アランヤ、又或ハ曰ク電氣ハ之ヲ計量スルコトヲ得ルカ故ニ物ナリト然レトモ若シ計量シ得ルモノカ凡テ物ナルニ於テハ彼ノ日光及溫度ノ如キモ又物ナリト云ハサル可カラサル可シ、要スルニ電氣ハ一種ノ力ニシテ物ニ非サル可シ從テ盜罪ノ目的物タルヲ得サルモノトス然レトモ彼ノ電流ノ如キハ之ヲ盜取スルヲ得ヘク、

又世ノ進歩ニ伴ヒ電氣ニ對スル需要ノ益々增加スルト共ニ事實ニ於テモ屢々之アル所ナルヲ以テ決シテ之ヲ不問ニ付スルヲ得ス、因テ歐州諸國ニ於テモ英國ヲ初メトシテ獨逸其他ノ國ニ於テ電氣盜ニ關スル規定ヲ設ケ以テ社會ノ進歩ニ應セシムルコト、爲スニ至レリ、本法モ亦此等各國ノ立法例ニ倣ヒ本條ノ規定ヲ設ケ本章ノ規定ノ盜罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ一種ノ財物ト看做シ電氣ヲ竊盜シタル者ニ對シテハ竊盜罪ノ各本條ヲ適用シ若シ强取シタルトキハ强盜罪ノ各本條ニ照シ處分ス可キコト、爲シタルモノナリトス。

第三十七章　詐欺及ヒ恐喝ノ罪

本章ハ所謂詐欺取財及恐喝取財ノ罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三編第二章第五節ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリトス、其修正ヲ加ヘタル主要ノ點ハ舊法第三百九十二條ノ規定ハ純然タル詐欺取財罪ノ一種ニシテ本法第二百四十六條中ニ包含セラル可キモノナルヲ以テ別ニ之ヲ規定スルノ必要ナシト認メ之ヲ刪除シタルト且舊法ニ於テハ其第三百九十條ノ規定中ニ彼ノ所謂恐喝取財罪ナルモノヲ含ムヤ否ヤニ付キ多大ノ議論アリシ所ナルヲ以テ本法ハ其疑義ヲ避ケンカ爲メ其第二百四十九條ニ於テ同條ニ關スル規定ヲ特ニ設ケタルトニアリトス、其他ノ修正ヲ施シタル點ニ付テハ以下各本條ニ於テ之ヲ說述スヘシ、

第二百四十六條　人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

本條ハ所謂詐欺取財罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三百九十條ノ規定ヲ修正シタルモノナリトス即チ舊法ニ財物若クハ証書類トアリシハ其意義不明ニシテ且狹キニ失スルコト强竊盜罪ノ場合ト同一ナルヲ以テ本法ハ廣ク財物ニ關スル規定ト爲シタルモノナリトス。

本條第一項規定ハ罪ノ成立ニハ人ヲ欺罔シタルコト及ヒ他人ノ財物ヲ騙取シタルコトノ二條件アルヲ要ス、

第一、人ヲ欺罔シタルコトヲ要ス、

茲ニ所謂欺罔トハ有ヲ無ト云ヒ無ヲ有ト僞リ以テ人ヲ錯誤ニ陷ラシムルヲ云フモノトス、而シテ其行爲ハ必スシモ積極ノモノタルコトヲ必要トセス消極行爲モ尙本罪ノ成立上同等ナリトス蓋シ財物ヲ騙取スルカ爲メ故ラニ默スルハ同一ノ目的ノ爲メニ故ラニ語ルト唯方法ヲ異ニスルノミニシテ行爲ノ性質ニ於テハ毫モ相異ル所ナケレハナリトス、故ニ例ヘハ我ハ汝ノ債權者五兵衞ナリト詐リ太郎作カ五兵衞ニ支拂フヘキ金額ヲ騙取スルハ勿論尙ホ五兵衞ナリト誤信シテ太郎作カ自己ノ金額ヲ支拂フコトヲ知リナカラ毫モ其錯誤ヲ矯正シ得ヘキニ之ヲ爲スコトナク其錯誤ヲ利用シ恰モ眞正ノ五兵衞ナルカ如クニ裝ヒ奪取ノ意思ヲ以テ騙取シタルカ如キ場合ニモ仍ホ本罪タルヘキモノナリトス、又彼ノ無錢遊興ノ如キモ服裝其他ノ方法ニ因リ特ニ金錢アルコトヲ信セシメ以テ酒食ヲ供セシムルモノナルカ故ニ同一理由ニ基キ矢張本罪タルヲ免レサルモノト信ス、但シ相手方自ラ自己ノ錯定ヲ誤リテ錯誤ニ陷リタルカ如キ場合ニハ詐欺トナルコトナシトス、而シテ又一定ノ人ニ對シテ僞計ヲ施シタル事實アルヲ要スルカ故ニ何等錯誤ニ陷レラレタル人ナキニ於テハ詐欺トナルコトナシ、例ヘハ彼ノ辻占自働函ニ金錢ト同一ノ形狀及ヒ重量ノ石ヲ投入シテ其目的ヲ達スルカ如キ是レナリ、然レトモ假令一定ノ人ニ對シ欺罔ノ言語又ハ舉動ヲ施シタリトスルモ相手方ニ於テ毫モ錯誤ヲ惹起サヽル場合ニハ此カ爲メ財物ヲ交付スルコトアルモ本罪ト爲ラサルモノトス例ヘハ切符ナクシテ滊車ニ乘込ムカ如キ即チ此ナリ。

之ヲ要スルニ本罪ハ人ノ財產ヲ騙取スル目的ヲ以テ虛僞ノ事實ヲ表示シ人ヲ錯誤ニ陷ラシメタルコトヲ要スルモノトス、然レトモ其果シテ人ヲ欺クニ足ルヘキ詐欺ノ行爲アリタルヤ否ヤハ結局事實問題ニシテ被詐欺者ノ知能ヲ標準トシテ判斷ス可キコトナリトス蓋シ假令他人ハ決シテ欺カルヘキ行爲ニ非サルモ犯人カ人ヲ欺ク意思ヲ以テ其行爲ヲ行ヒ對手方カ之ニ欺カルヽノ事情アルニ於テハ詐欺ノ行爲アリタリト謂フヲ得ヘケレハナリ。

第二、他人ノ財物ヲ騙取シタルコトヲ要ス、

茲ニ所謂騙取トハ奪取ノ意ニシテ欺罔ヲ手段トシテ財物ヲ取得スルカ故ニ

法文ノ體裁上騙取ナル文字ヲ用ヰタルニ過キス恰モ暴行脅迫ヲ手段トシテ財物ヲ奪取シタル場合ニ之ヲ强取ト云ヒタルカ如シ而シテ又茲ニ財物トハ前章强竊盜罪ニ付キ説明シタルト同一義ニシテ不動産ハ之ヲ包含セサルモノトス蓋シ本罪モ亦盜罪ノ一種ニシテ所謂奪取ハ前途ノ如ク有形上現實ニ物ノ所在ヲ移轉シテ犯人ノ占有ニ入ルヽコトヲ意味シ不動産ハ此行爲ノ目的ト爲リ得ヘカラサレハナリ。

而シテ本罪欺罔ハ財物奪取ノ原因ト爲シタルコトヲ要ス而シテ犯人カ財物ヲ奪取シタルハ被害者ノ決心ノ原因ニ錯誤ヲ生セシメタルニ因ルモノニシテ決心ノ原因ハ財物ノ交付ヲ要シタル最モ重ナル理由ナルカ故ニ苟クモ財物ノ交付ヲ要シタル最モ重ナル理由ハ上ニ詐欺ヲ行ヒタル場合ニ於テハ常ニ本罪ヲ構成ス可キモノトス故ニ例ヘハ之ヲ目露戰役ノ戰利品ナリト僞リ相手方ヲ錯誤ニ陷ラシムルニ足ルヘキ僞計ヲ用ヰ賣付クルカ如キ行爲モ尙本罪タルヲ免レサルモノトス、然レトモ彼ノ番頭カ主人ノ金錢ヲ竊取シタル後帳簿ヲ誤魔化スカ如キハ是レ犯罪ノ痕跡ヲ蔽ハントスル行爲タルニ止マリ欺罔ヲ奪取ノ手段ト爲サヽルカ故ニ本罪ヲ構成スルノ限リニ在ラス然リト雖モ欺罔ノ結果錯誤ニ陷リタル者ト財物ヲ失ヒタル者トハ同一人タルコトヲ必要トセス蓋シ苟クモ欺罔カ奪取行爲ノ原因タルニ於テハ何人ヲ欺罔シテ何人ヨリ財物ヲ奪取スルモ何等罪ヲ構成スルニ妨ケトナルヘキ筈ナケレハナリ故ニ例ヘハ詐僞ノ證書ニ依リテ訴ヲ起シ裁判官ヲ欺キテ眞ニ債務ナキ者ヨリ金錢ヲ引渡サシメタルカ如キ場合ニ於テモ直ニ本罪成立スルモノトス。

以上ノ條件具備スルトキハ十年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス。

本條第二項ハ前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ヲ罰ス可キ旨ヲ規定シタルモノニシテ本法ノ新設ニ係ル規定ナリトス蓋シ前項規定ノ罪ハ上述ノ如ク單ニ奪取行爲ノ目的ト爲リ得ヘキ物ニ關スル場合ニ限リタルヲ以テ其目的ト爲リ得ヘカラサル物例ヘハ權利ハ勿論不動産ニ關スル場合モ尙ホ前項規定ノ支配ヲ受クル能ハサルヲ以テ本法ハ此ノ缺陷ヲ補フカ爲メ本項ノ規定ヲ設ケタルモノナリトス。

本項規定ノ罪ノ成立ニハ第一人ヲ欺罔シタルコト及ヒ第二財産上不法ノ利

益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルコトノ二條件アルヲ要スルモ第一條件ニ付テハ前項ニ於テ既ニ説明シタル所ナルヲ以テ再説ノ要ナカルヘク第二條件ニ付テモ一讀明瞭ナルヲ以テ敢テ説述スルノ必要ナカル可シ唯之ヲ要スルニ本項規定ノ罪ハ自己又ハ他人ノ爲メニ正當ニ得ヘカラサル利益ヲ獲得スルノ目的ヲ以テ人ヲ欺キ錯誤ニ陷ラシメ以テ自ラ正當ニ得ヘカラサル利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル場合ニ關スルモノニシテ例之債權者ヲ欺キ自己ニ對スル債權ハ時效ニ依リ消滅シタルモノナリト謂ヒ以テ其債務ヲ免除セシメタルカ如キ又ハ何等權利ナキニ拘ラス所有者ヲ欺キ自己又ハ他人ニ地上權其他ノ物權アルモノト爲サシムルカ如キ總テ本罪ニ依リ處罰セラルヘキモノナルカ如キ即是レナリ。

而シテ本罪ヲ犯シタル者ハ前項ノ罪ト同シク十年以下ノ懲役ニ處セラル可キモノトス。

第二百四十七條　他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ他人ノ事務ヲ處理スル者其任務ニ背キ財産上ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ關スル罪ヲ規定シタルモノニシテ本法ハ新ニ設ケタル規定ナリトス蓋シ從來他人ノ事務ヲ處理スル者徒ラニ私利ヲ營ミ本人ニ損害ヲ加フルコト往々ニシテ見ル所ナリシカ此等ノ場合ニ於テハ理論上民事訴訟ニ依リ損害賠償ヲ求ムルノ途ナキニ非スト雖モ事實上ハ概ヲ其救濟ナキト同一ナルノミナラス而モ其行爲ノ治安ヲ害スルコト敢テ本章及次章ニ規定スル罪ニ讓ラサルヲ以テ本法ハ新ニ本條ノ規定ヲ設ケ其弊ヲ防止セントシタルモノナリトス。

本條規定ノ罪ノ成立ニハ第一他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者タルコト第二自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ任務ニ背キタル行爲ヲ爲シタルコト及ヒ第三本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルコトノ三

條件アルヲ要ス。

第一、他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者タルコトヲ要ス、

茲ニ他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者トハ法令ノ規定又ハ契約ニ基キ他人ノ財産ヲ管理スル等他人ノ事務ヲ處理スル者ヲ謂フ例ヘハ未成年者及禁治産者ノ法定代理人、準禁治産者ノ保佐人又ハ不在者ノ財産管理人其他法人ノ理事等即チ是レナリ、蓋シ此等ノ者ハ法令ノ規定又ハ契約ノ趣旨ニ基キ總テ本人ノ利益ニ適ス可キ方法ニ依リテ事務ヲ處理スルコトヲ要スルモノナルニ拘ラス私利ヲ營ミ以テ本人ニ損害ヲ加フルカ如キハ私益ハ勿論公益上決シテ忽緒ニス可カラサルモノナルヲ以テ法律之ヲ嚴罰スルニ至リタルモノナリトス(民法第五十三條第八十四條第六百九十七條第八百八十九條等參照)。

第二、自己若クハ第三者ハ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シタルコトヲ要ス、

即チ敢テ本人ニ損害ヲ加フルノ害意ナクトモ自己一身又ハ他人ノ懷ヲ肥サンカ爲メ正當ニ爲シ得ヘカラサル行爲ヲ爲シ其結果圖ラスモ本人ニ損害ヲ加ヘタル場合若クハ敢テ特ニ自己又ハ他人ノ利益ヲ圖ルノ目的ナクモ本人ニ損害ヲ加フルノ目的ヲ以テ法令ノ規定又ハ契約ノ趣旨ニ基ク自己ノ任務ニ反シタル行爲ヲ爲シ以テ本人ノ財産ヲ減少スル等直接本人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニハ常ニ本罪ヲ構成ス可キモノトス例之會社ノ重役カ私利ヲ貪ランカ爲メ會社ノ資産ヲ亂用シ以テ會社ニ損害ヲ加ヘタルカ如キ又ハ會社ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ法令又ハ定欵ノ規定ニ依リ定マリタル自己ノ任務ニ反シタル行爲ヲ爲シ其結果會社ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルカ如キ場合即チ是レナリトス。

第三、本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルコトヲ要ス、

假令自己若クハ他人ノ利益ヲ圖ル爲メ如何ニ不正ナル行爲ヲ爲スモ又本人ニ特ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ如何ニ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲スモ其結果本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘサル以上ハ未タ以テ本罪タルヲ得サルモノトス然レトモ本人ニ債務ヲ負擔セシメ又ハ本人ノ財産ヲ減少セシムル等少シタリトモ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ直ニ本罪成立スルモノトス。

以上ハ三條件ヲ具備スルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

ヘキモノトス。

第二百四十八條　未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ準詐欺取財罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三百九十一條ニ修正ヲ加ヘタル規定ナリトス蓋シ舊法ハ本條規定ノ罪ヲ詐欺取財ヲ以テ論スルコトヽ爲シタルモ本條ハ純然タル詐欺取財ニ非サル一種ノ不法行爲ニ關スルモノニシテ單ニ詐欺取財ニ準ス可キモノナルヲ以テ本法ハ詐欺取財ヲ以テ論セス特別ノ刑ヲ科スルコトヽ爲シタリ。

本條ノ罪ノ成立ニハ未成年者又ハ心神耗弱者ニ對スルコト、知慮淺薄又ハ心神耗弱ニ乘シタルコト及ヒ財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルコトノ三條件アルヲ要ス。

第一、未成年者又ハ心神耗弱者ニ對スルコトヲ要ス、

茲ニ未成年者トハ民法第三條規定ノ二十才未滿ノ者ヲ謂ヒ心神耗弱者トハ本法第三十九條第二項規定ノ精神機能ノ不完全ナル者ヲ謂フ意ナリトス蓋シ此等經驗少ナク遠慮ナキ未成年者又ハ精神ノ錯亂シタル者ハ利害得失ヲ判斷スルノ能力ナク從テ格別ノ詐術ヲ用ヰラレサルモ爲メニ財産ヲ奪取セラルヽコトアルヘキヲ以テ特ニ此等無能力者ヲ保護スルノ必要上本條ノ規定ヲ設ケラレタルモノトス、而シテ茲ニ心神耗弱者ハ未成年者ナルト成年者ナルトヲ問ハサルモノトス。

第二、知慮淺薄又ハ心神耗弱ニ乘シタルコトヲ要ス、

茲ニ乘シタルトハ知慮淺薄又ハ心神耗弱等ノ弱點ヲ利用スルヲ謂フモノトス、而シテ其結果未成年者又ハ心神耗弱者ヲ錯誤ニ陷レタルコトヲ必要トセス單ニ未成年者ヲ瞞着シ精神病者ヲ利用シテ法律規定ノ不正行爲ヲ爲シタルトキハ直ニ本罪ニ擬ス可キモノトス、但シ未成年者ニ付テハ果シテ知慮淺薄ナルヤ否ヤヲ調査セサル可カラス蓋シ未成年者ト雖モ成年者ト同一ニ十分知慮ノ

發達シタル者アリテ此等ノ者ニ對シテハ知慮淺薄ヲ利用スルヲ得サル可ケレハナリ。

第三、財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルコトヲ要ス、

本條件ノ意義ニ付テハ既ニ本章ニ於テ屢々説明シタル所ナルヲ以テ茲ニ復説セサル可シ、要スルニ本條ノ規定ニ依レハ敢テ格別ナル詐欺又ハ恐喝ヲ加ヘサルモ未成年者ヲ喃着シ若クハ人ノ心神耗弱ナルヲ利用シ以テ財物ヲ交付セシメ又ハ不法ニ財産上ノ利益ヲ得タル場合ニハ其如何ナル名義ノ下ニ行ハルルモ直ニ本罪成立ス可キモノナリトス。

以上ノ三條件ヲ具備スルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス。

第二百四十九條　人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

本條ハ所謂恐喝取財罪ヲ規定シタルモノニシテ既ニ述ヘタル如ク舊法ハ其第三百九十條ニ於テ本罪ヲ認メタルカ如カリシモ多少ノ疑義ヲ免レサリシヲ以テ本法ハ特ニ本條ノ規定ヲ詐欺取財罪ノ外ニ設ケタルナリトス。

本罪ノ成立ニハ人ヲ恐喝シタルコト及ヒ財物ヲ交付セシメタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一、人ヲ恐喝シタルコトヲ要ス。

茲ニ恐喝トハ無形ノ害惡ヲ加ヘント威嚇スルヲ謂フ即チ換言セハ單ニ精神上ニノミ恐怖ノ念ヲ起サシムヘキ害惡ヲ加フヘキコトヲ以テ威嚇スルヲ謂フモノトス例之人ノ名譽ヲ毀損スヘキ醜事ヲ摘發シ若クハ犯罪アルコトヲ申告セシト云ヒ以テ人ヲ恐嚇スルカ如キ即是レナリ、從テ人ノ生命身體又ハ財産ニ現實ノ危害ヲ與ヘント云フカ如キ有形ノ害惡ヲ加ヘント威嚇スル場合ハ强盜罪ニ擬ス可キモノニシテ本罪ニ非ス、尚本罪ト强盜罪トノ差異ハ本罪ノ成立ニ必要ナル第二條件ニ示スカ如ク本罪ハ財物ヲ被害者カ已ムヲ得スシテ提出ス

ルニ因リテ之ヲ獲得スルモノナルモ強盗罪ニアリテハ之ニ反シ犯人カ強テ被害者ノ手ヨリ財物ヲ劫キ取ルモノナルノ差アリトス、而シテ尚本罪ト單純ナル脅迫罪トノ差異タルヤ後者ハ其ノ材料タルヘキ害ハ法文ニ限ラレ(第二百二十二條)且ツ脅迫ヲ財物奪取ノ手段ト爲サヽルニアリトス、依テ假令脅迫罪成立ノ條件トシテ法文ニ列擧セラレタル行爲ト雖モ若シ其等ノ行爲ヲ財物奪取ノ手段ト爲スニ於テハ強盗罪又ハ本罪ヲ構成スヘキモノトス。

第二、財物ヲ交付セシメタルコトヲ要ス、

即チ人ヲ恐喝シ以テ被恐喝者ヲシテ財物ヲ交付セシメタルコトヲ要スルナリ從テ威嚇カ財物奪取ノ直接ノ原因タルコトヲ要スルモノトス、是レ抑モ本罪ト詐欺取財罪トノ區別サルヽ要點ニシテ詐欺取財罪ニアリテハ既ニ述ヘタル如ク被害者カ物品ヲ奪取セラレタルハ加害者ノ詐術ヲ眞實ナリト誤信シタルニ原因スルモノトス、故ニ例ヘハ汝ノ住家ハ方角極メテ惡シ余ニ若干ノ金ヲ贈ラハ其厄ヲ除カント云フカ如キハ純然タル詐欺取財ニシテ本罪ニ非サルモノトス蓋シ財物提出ノ原因ハ除厄セントノ詐欺ヲ信シタルニ在リテ被害者ノ恐怖ハ單ニ其遠因ナルニ過キサレハナリ、尚ホ本罪ト詐欺取財罪トハ前者ハ已ムヲ得スシテ財物ヲ提出シタル場合ナルモ後者ニアリテハ被害者進ンテ之ヲ提出シタルモノナルノ大ナル差異アリトス。

尚ホ本罪ノ成立ニハ犯人ニ於テ不正ニ財産上ノ利益ヲ獲得スルノ意思アルコトヲ要ス、故ニ單ニ他人ノ名譽ヲ傷ケンカ爲メ恐喝シタルニ過キサルカ如キ場合ニハ假令後日ニ至リ財物ノ交付ヲ受クルカ如キコトアルモ本罪タルコトナキヤ勿論尚ホ正當ニ得ヘカリシ利益ヲ得ンカ爲メナル場合例ヘハ債務ノ辨濟ヲ催スカ爲メナル等不正ノ利益ヲ得ルノ目的ニ非サル以上ハ本罪ヲ構成スルコトナシトス。

以上ノ條件ヲ具備スルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス。

本條第二項ハ前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル場合ニ關スル罪ヲ規定シタルモノトス蓋シ既ニ第二百四十六條ニ於テ述ヘタルト同シク前項ノ規定ヲ補フカ爲メ本法ノ新ニ設ケタル規定ナリトス、而シテ本罪ヲ犯シタル者ハ前項ノ罪ト同シク十年以下ノ懲役ニ處セラ

ルヘキモノトス。

第二百五十條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ本章規定ハ各犯罪ハ其未遂ハ處爲ヲ罰スヘキ旨ヲ規定シタルモノナリトス、從テ本章規定ノ各犯罪構成要件ノ一ニ着手シタルトキハ假令犯人ニ於テ其目的ヲ達スル能ハサリシ場合ト雖モ本條ノ規定ニ依リ總則未遂犯ノ例ヲ適用シ以テ處罰スヘキモノトス、今之ヲ例ヘハ人ヲ欺キ得ヘキ方法ヲ以テ人ヲ欺カントシタルモ其人初メヨリ之ヲ看破シ居リタルカ爲メ遂クル能ハサリシ場合ノ如キ又ハ無形ノ害惡ヲ加ヘントス威嚇シ而モ其威嚇カ被害者ヲシテ十分恐怖セシメ得ヘキモノナリシニ拘ラス偶マ其威嚇ニ應セス因テ其目的ヲ果タス能ハサリシ場合ノ如キ總テ本章第二百四十六條又ハ第二百四十九條規定ノ罪ノ未遂罪トシテ總則第八章及第十三章ノ規定ヲ適用シテ處斷スヘキモノナルカ如キ即チ是レナリトス。

第二百五十一條　本章ノ罪ニハ第二百四十二條第二百四十四條及第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス

本條ハ第二百四十二條、第二百四十四條及第二百四十五條ハ規定ヲ本章ハ罪ニ準用ス可キ旨ヲ規定シタルモノナリ、蓋シ第二百四十二條及第二百四十五條規定ノ物件ハ他人ノ財物ニ準ス可キモノナルカ故ニ此等ノ物件ヲ詐欺又ハ恐喝ニ依リテ奪取シタルトキハ本章規定ノ各罪ト等シク之ヲ處罰スルノ必要アルヘク且ツ第二百四十四條ノ規定ハ同條ニ於テ說明シタルト同一理由ニ基キ本章ノ罪ニモ之ヲ準用ス可キモノナルヲ以テ茲ニ本條ノ規定ノ設ケラレタルナリトス。

本條ノ規定ニ從ヘハ自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ之ヲ欺罔シテ奪取シタル者ハ第二百四十六條ニ依リ十年以下ノ懲役ニ處ス可ク、恐喝シテ之ヲ奪取シタル者ハ第二百四十九條ニ依リ十年以下ノ懲役ニ處ス可ク、若シ直系血族配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族間ニ於テ欺罔又ハ恐喝ニ因リ財物ヲ奪取シタルトキハ其刑ヲ免除シ又ハ告訴ヲ得テ其罪ヲ論ス可ク、又電氣ヲ欺罔恐喝シテ奪取シタルトキハ本

章各條ヲ適用シテ處罰ス可キモノトナルナリ、而シテ各其意義ニ付テハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ第二百四十五條ノ釋義ヲ參照シテ知ラル可シ。

第三十八章　横領ノ罪

本章ハ所謂冒認罪委託物費消罪及ヒ遺失物埋藏物ニ關スル罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三編第二章第三節及第五節中ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリトス、其修正ヲ施シタル主要ノ點ハ第一舊法ハ本章規定ノ罪ニ關シテハ冒認罪及ヒ委託物費消罪トシテ極メテ狹隘ナル規定ヲ設ケタリシモ本法ハ横領罪ト題シ苟クモ他人ノ爲メニ占有スル動産不動産ヲ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ横領シタルトキハ委託ヲ受ケタルモノナルト否トヲ問ハス又之ヲ費消拐帶シタルト否トヲ問ハス總テ之ヲ罰スルコトト爲シタルト且ツ遺失物埋藏物ニ關スル罪ニ付キ舊法ハ別ニ一節ヲ設ケタルモ本法ハ其法文ヲ修正スルト共ニ本章ニ之ヲ規定スルコトト爲シタルニアリ。

第二百五十二條　自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

本條ハ一般横領罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三百九十三條及第三百九十五條ニ修正ヲ加ヘタル規定ナリトス、即チ舊法ハ其第三百九十三條ニ於テ冒認罪ニ付キ規定シ第三百九十五條ニ於テ委託物費消罪ニ付キ規定シタルモ此二罪ハ其性質同一ニシテ共ニ他人ノ財物ヲ横領スルノ所爲ナルカ故ニ本法ハ之ヲ合シテ本條ニ規定スルコトヽ爲シタリ。

本罪ノ成立ニハ自己ノ占有スル他人ノ物タルコト及ヒ横領シタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一、自己ノ占有スル他人ノ物タルコトヲ要ス。

茲ニ占有トハ民法上所謂占有權アル者ノ占有ヲ謂フ而シテ占有權トハ自己ノ爲メニスルノ意思ヲ以テ物ヲ所持スル人カ其所持ヲ繼續シ私力ニ對シテ之

ヲ維持スルコトヲ得ルノ權利ナリ、從テ茲ニ所謂自己ノ占有スル他人ノ物トハ或ル權利ノ行使トシテ自己カ所持スル他人ノ所有物ヲ謂フモノトス但シ占有者カ實體上ニ於テ其權利ヲ有スルト否トハ之ヲ問ハサルナリ、故ニ何等ノ權利ナク單ニ好意上他人ノ財物ヲ保管スル場合モ尚本條所謂占有スル他人ノ物ナリトス、其他物權債權ノ行使トシテ所持スル他人ノ物ハ總テ本罪ノ物體ニシテ其委託セラレタルモノ即チ保管ヲ爲スコトヲ約シテ受取リ占有スルモノナルト否トハ之ヲ問ハサルナリ、故ニ例ヘハ壹圓紙幣ト誤信シテ五圓紙幣ヲ引渡シタル場合ニ差額四圓ニ付テハ何等委託關係ナシト雖モ若シ之ヲ横領シタルトキハ本罪ヲ構成スヘキモノトス、而シテ茲ニ物ハ有體物ヲ指スコト勿論ニシテ動產タルト不動產タルトハ之ヲ問ハス故ニ例ヘハ賃借シタル家屋又ハ土地ヲ他人ニ賣渡スカ如キモ本罪タルヲ免レサルモノトス。

第二、横領シタルコトヲ要ス、

茲ニ横領トハ自己ノ占有スル他人ノ物ヲ自己ノ物トシテ不正ニ支配スルヲ謂フモノトス例ヘハ自己ノ占有スル他人ノ不動產ヲ賣買賃貸又ハ抵當ト爲スハ勿論自己ノ物トシテ登記ノ變更ヲ爲スカ如キモ總テ横領ナリトス、尚ホ其他現在他人ノ物ヲ所持シ居リナカラ水火盜難ニ遭ヒテ亡失シ又ハ疾病ニ罹リテ死亡シタリ若クハ預リタル覺ナシト詐言シ因リテ他人ノ物ヲ横奪スルカ如キモ亦本罪ニ擬ス可キモノトス但シ他人ヲ錯誤ニ陷ルヽカ爲メニ言フモノ即チ欺罔ト爲ルモノハ本罪ニ非スシテ詐欺取財罪ナリトス。

以上ハ條件ヲ具備スルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス可キモノナリトス。

本條第二項ハ自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者ハ第一項ニ準シ横領罪トシテ之ヲ處罰ス可キ旨ヲ規定シタルモ解ニシテ舊法第三百九十六條ト同一趣旨ノ規定ナリトス、蓋シ自己ノ物ト雖モ若シ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタルモノナルトキハ之ヲ解除セラルヽ迄ハ看守スヘキ責任アルモノナルヲ以テ此場合ニハ他人ノ物ヲ他人ノ爲メニ占有スルト殆ト同一ナルヲ以テ第一項ニ準スヘキモノト爲シタルナリトス、而シテ茲ニ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合トハ刑事訴訟上證據物件トシテ差押ヘラレタル場合又ハ民事訴訟上執行保全ノ爲メ差押ヲ受ケタル場合ノ如キハ勿

論其他如何ナル公務所ヨリ如何ナル理由ニ因リ命セラルヽトモ苟クモ公務所ノ命ニ依リ保管スル自己ノ物ハ總テ之ヲ包含スルモノトス。

第二百五十三條　業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ業務上占有セル他人ハ物ニ關スル横領罪ヲ規定シタルモノニシテ本法ハ新設ニ係ル規定ナリトス、蓋シ舊法ハ占有物ニ關シ業務上他人ノ爲メニ占有スル場合ト否ラサル場合トノ區別ヲ爲サヽリシト雖モ業務ニ因リ他人ノ爲メニ物ヲ占有スル場合ハ通常ノ場合ト異ナリ法令又ハ契約ニ基キ自ラ保管ノ責アルノミナラス一方ニハ交通取引ヲ妨ケ社會ノ信用ヲ害スルコト甚大ナルヲ以テ情狀上之ヲ重罰スルノ必要アルヨリ本法ハ此二者ヲ區別シテ規定スルコトヽ爲シタルモノトス。

本條所謂業務上自己ハ占有スル他人ハ物トハ職務若クハ營業上他人ノ物ヲ占有スルノ地位ニ在ル者カ現ニ所持スル他人ノ物ヲ謂フモノトス、例ヘハ公務員カ公務所又ハ私人ノ物ヲ保管スルカ如キ又ハ倉庫業者カ他人ノ物品ヲ預ルカ如キ若クハ時計商カ修繕ノ爲メ他人ノ時計ヲ占有スルカ如キ即チ是レナリトス、依テ若シ此等ノ者カ其占有スル他人ノ物ヲ質入賣却等其他横領行爲ヲ爲シタルトキハ直ニ本罪成立スルモノトス。

而シテ本罪ヲ犯シタル者ハ其情重キカ故ニ二年以上十年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス。

第二百五十四條　遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

本條ハ他人ノ占有ヲ離レタル物ヲ横領シタル罪ニ付キ規定シタルモノニシテ遺失物法第十六條ノ規定ヲ修正シタルモノナリトス、但シ舊法ニ於テモ其第三百八十五條及第三百八十六條ニ本罪ニ關スル規定ヲ設ケタリシモ該條ハ既ニ明治三十二年三月法律第八十七號遺失物法第十六條ノ規定ニ由リ暗默ニ廢止セラレタルモノナルカ故ニ本法ハ同第十六條ノ規定ニ依リタルモノナリト

ス、而シテ同第十六條ニ曰ク「拾得物其他本法ノ規定ヲ準用スル物件ヲ隠匿シ若クハ不正ニ處分シタル者ハ三月以下ノ重禁錮又ハ貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス」ト。

本罪ノ成立ニハ遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物件ヲ領シタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一、遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ナルコトヲ要ス、

(一)遺失物トハ占有者カ占有ヲ抛棄スルノ意思ナクシテ偶然ニ占有ヲ失ヒタル動産ヲ謂フ、故ニ故意ニ遺棄シタル物件又ハ他人ヨリ奪取セラレタル物件ハ勿論阿片煙ノ如キ法律ノ禁制シタル物又ハ山野ノ鳥獸ノ如キ未タ何人ノ所有ニモ屬セサル物若クハ契約ノ錯誤又ハ偶然ノ出來事等ニ因リ犯人ノ占有ニ在ル物ハ、遺失物ニ非ス、但シ犯人ノ誤リテ占有シタル物及ヒ他人ノ置キ去リタル物件ハ遺失物ナリトス(遺失物法第十二條)而シテ尚本罪ノ目的物ハ犯人ノ占有ニ在ラサル物ナルヲ要スルヤ勿論ナリト雖モ必スシモ何人ノ占有ニモ屬セサル物件タルコトヲ要セス蓋シ犯人ト物トノ關係上ヨリ觀察シ苟クモ犯人カ遺失物ト思考シタルモノハ假令現ニ他人ノ占有ニ係ル物件ト雖モ法律ニ所謂遺失物ニシテ之ヲ横領シタル者ハ本罪ヲ犯シタル者トセサルヲ得サレハナリトス。

(二)漂流物ハ明治三十二年法律第九十五號水難救助法ニ依リテ遺失物ニ準セラルヽコトヽナレルヲ以テ漂流物トハ單ニ遺失物ノ一種ニシテ水上又ハ水邊陸地ニ漂着シタル遺失物ヲ謂フモノトス。

(三)其他占有ヲ離レタル他人ノ物トハ占有者ノ意思ニ基キ又ハ其意思ニ反シテ其現實ノ所持ヲ離レタル他人ノ所有物ヲ總稱スルノ意ナリトス彼ノ埋藏物ノ如キ其一例ナリ、埋藏物トハ或ル動産又ハ不動産中ニ埋藏セラレタル物件ニシテ所有者ノ何人タルヤヲ知ルコト能ハサル物ヲ謂フ、故ニ物件ノ所有者不明ナルモ其物件カ容易ニ目擊シ得ヘキ場所ニ在リタルトキハ是レ埋藏物ニ非ス、尚鑛物ノ如キモ土地ノ自然的産出物ニシテ地中ニ埋藏シタルモノニ非サルカ故ニ埋藏物ニ非ス(遺失物法第十三條參照)。

第二、横領シタルコトヲ要ス、

茲ニ横領トハ如上ノ物件ハ之ヲ拾得又ハ發見シタルトキニハ其所有者ニ返

還スルカ若クハ官ニ申告セサル可カラサルモノナルニ之ヲ私シ横奪スルヲ謂フモノトス、但シ初メ犯人ノ之ヲ其占有ニ移入レタル所為カ單ニ他人ノ所有物ヲ保護セントノ意思ノ表示ナリシコトヲ要ス若シ初メヨリ之ヲ自己ノ物トセントノ意思即チ奪取ノ意思ヲ以テ占有ニ移入レタルニ於テハ竊盜ニシテ本罪ニ非ス本罪ハ姑メ善意ヲ以テ獲得シタル物ヲ後ニ至リ私セントノ惡意ヲ生シ之ヲ横領スルニ因リテ成立スルモノトス、從テ奪取ノ意思ナルカ保管ノ意思ナルカハ無形上ノ判斷ニ屬スルヲ以テ通常之ヲ判別スルコト困難ナリト雖モ彼ノ現實ニ物ヲ自己ノ手中ニ移シ入ル、場合ニ於テ例ヘハ現在遺失者自ラ之ヲ拾得シ得ヘキ位地ニ在ルコトヲ知ルニモ拘ラス其遺失ヲ幸トシ竊ニ之ヲ取得シタルカ如キ場合ニ於テハ奪取ノ意思アルモノ即竊盜行為アルモノト謂ハサル可カラス、但シ彼ノ瀛車車掌カ乘客ノ客車内ニ置キ忘レタル物品ヲ發見シ横領スルカ如キ又ハ紙屑買カ其買受ケタル紙屑中ヨリ金指輪ヲ發見シテ收得スルカ如キハ總テ本罪ナリトス、尚ホ本罪ノ成立ニハ横領ノ意思アルコトヲ要スルヤ勿論ナリトス。

以上ノ條件ヲ具備スルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス可キモノトス。

第二百五十五條　本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス

本條ハ直系血族配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族互ニ横領罪ヲ犯シタル場合ニハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スヘキ旨ヲ規定シタルモノナリトス蓋シ本罪モ一種ノ盜罪ナルヲ以テ既ニ第二百四十四條ニ於テ述ヘタルト同一理由ニ基キ親族相互ニ横領罪ヲ犯シタル場合ニハ之ヲ罰スルノ必要ナシト認メ本章横領罪ニモ第二百四十四條ノ規定ヲ準用スルコトト爲シタルモノナリトス、故ニ例ヘハ父ノ命ニ依リ百圓紙幣ヲ持テ買物ニ行キタル子カ途中惡意ヲ起シ其百圓ヲ横領シタルカ如キ又ハ夫ノ時計ヲ預リ居リシ妻カ其ヲ賣却シタルカ如キ場合ニハ其刑ヲ免除ス可キモノトス。

第三十九章　贓物ニ關スル罪

本章ハ所謂事後從犯ト稱スル贓物ニ關スル罪ヲ規定シタルモノニシテ舊法第三編第二章第六節ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリトス、其修正シタル主要ノ點ハ舊法ハ强竊盜ノ贓物ト詐欺取財其他ノ犯罪ニ關スル贓物トヲ區別シテ規定シ其刑ヲ異ニシタルモ贓物タルコトヲ知テ收受シ又ハ故買スル所爲ヨリ觀レハ何等其間ニ性質上ノ差異ナク從テ特ニ之ヲ區別シテ規定スルノ必要ナキヲ以テ本法ハ其區別ヲ廢シ同一ニ規定スルコトヽ爲シタルニ在リ。

第二百五十六條　贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ贓物ノ收受、運搬、故買等ニ關スル罪ヲ規定シタルモノニシテ舊法第三百九十九條及第四百一條ニ修正ヲ施シタルモノナリトス即チ舊法ハ單ニ贓物ヲ收受シタル者ト之ヲ運搬故買シタル者トハ其罪情大ニ異ナルモノアルニ拘ラス之ヲ區別スルコトナク同一ノ刑ヲ科シタルモ本法ハ之ヲ區別シ後者ハ其情狀重キカ故ニ之ヲ嚴罰スルコトト爲シタリ。

本條第一項ハ贓物收受罪ニ付キ規定シタルモノニシテ本罪ノ成立ニハ贓物タルコト及ヒ收受シタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一、贓物タルコトヲ要ス、

贓物トハ犯罪ニ因リテ不正ニ獲得シタル物件ヲ謂フナリ例ヘハ强竊盜ニ因リテ奪取シタル物件又ハ人ヲ欺罔若クハ恐喝シテ引渡サシメタル物件ノ如キハ勿論其他拾得シテ之ヲ所有主ニ還付セス又ハ官ニ申告セサル遺失物ノ如キモ又贓物ナリトス、然レトモ彼ノ賭博又ハ淫賣等ノ犯罪ニ因リテ得タル物件ハ贓物ニ非ス蓋シ此等ノ行爲ヲ法律カ罰スルハ其物件ヲ獲得スルコトカ不正ナルカ故ニ非ス單ニ其物件獲得ノ手段カ不法ナルヲ以テナリ從テ此等ノ物件ハ法律カ之ヲ獲得スルコトヲ不正ナリトシテ罰シタル罪ヲ犯スニ因リテ得タル物件ト謂フヲ得サレハナリ、而シテ尙ホ贓物ヲ賣却シテ得タル金額ノ如キモ亦贓物ニ非ス蓋シ是レ犯罪ニ因リテ得タル物ニ非スシテ其物ニ代リタル物件ナ

レハナリ、其他犯罪意思ナクシテ行ヒタル犯罪行爲ニ因リテ得タル物件ノ如キモ全然罪ナキ行爲ニ源因スルヲ以テ此又贓物ニ非ス、然レトモ幼者又ハ心神喪失者ノ犯罪行爲ニ因リ得タル物件若クハ親族相盜ニ因リ得タル物件ノ如キハ總テ贓物ナリトス蓋シ此等ノ場合ハ犯罪ハ成立スルモ唯其刑ヲ免除スルニ止マルモノナレハナリ、其他苟クモ法律カ犯罪トシテ處罰シタル行爲ニ因リテ得タル物件ナルニ於テハ動產タルト不動產タルト特定物タルト代替物タルトハ之ヲ問ハス總テ贓物ナリトス。

第二、收受シタルコトヲ要ス。

茲ニ收受トハ贓物タルコトヲ知テ他人ヨリ物ヲ領收スル行爲ヲ謂フ、從テ苟クモ他人ノ授クルニ依リテ之ヲ領收シタルモノハ其名義ノ如何ヲ問ハス皆茲ニ收受シタルモノナルカ如シト雖モ運搬寄藏故買牙保等凡テ犯罪人ヲ利スルト共ニ已ヲ利スル行爲ニ付テハ本條第二項ニ特別規定アルヲ以テ茲ニ所謂收受ハ單ニ無償ニテ領收スル場合ノミヲ指シタルモノナリトス、例ヘハ贓物タルコトヲ知リテ贈與ヲ受クルカ如キ是レナリトス、而シテ苟クモ贓物タルコトヲ知リテ收受シタルニ於テハ强竊盜ノ贓物ナルト其他ノ犯罪ニ關シタル贓物ナルトハ何等區別ナク直ニ本罪ニ擬スヘキモノトス、從テ强竊盜ノ贓物ナリト信シテ其他ノ犯罪ニ關スル物件ヲ又ハ其他ノ犯罪ニ關スル物件ナリト信シテ强竊盜ノ贓物ヲ收受シタル場合ニ於テモ凡テ同一ニ本罪ノ犯人ナリトス、而シテ又苟クモ贓物タルコトヲ知リナカラ之ヲ收受シタルトキハ假令善意ニテ其所有權ヲ得タル者ヨリ之ヲ收受スルモ尙ホ本罪ヲ構成スヘキモノトス蓋シ占有者カ眞正ノ所有者ニ之ヲ返還スルノ義務ヲ脫セサル間ハ尙ホ贓物タルノ性質ヲ保有スルモノナレハナリ(民法第百九十二條乃至第百九十四條參照)

以上ハ條件ヲ具備スルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス。

本條第二項ハ贓物ノ運搬寄藏故買又ハ牙保ヲ爲シタル罪ヲ規定シタルモノハニシテ前述ノ如ク舊法第三百九十九條ノ規定ヲ前項ト區分シテ規定シタルモノナリトス。

本罪ノ成立ニハ贓物タルコト及ヒ運搬寄藏故買又ハ牙保ヲ爲シタルコトノ二條件アルヲ要スルモノトス。

第一、贓物タルコトヲ要ス、

前項既ニ説明シタルト同一ナルヲ以テ省畧ス。

第二、運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタルコトヲ要ス、

(一)茲ニ運搬トハ犯罪行爲終了後贓物タルコトヲ知テ一場所ヨリ他ノ場所ニ物ヲ移送スル所爲ヲ謂フナリ、從テ贓物タルコトヲ知ラサル場合ハ勿論假令之ヲ知ルモ犯罪ト同時ニ爲シタル場合例ヘハ强窃盗者カ屋内ヨリ持出ス物品ヲ屋外ニテ受取リ他ニ運搬スルカ如キ其强窃盗ヲ補助シタル場合ハ是レ强窃盗ノ共犯ニシテ茲ニ所謂贓物ノ運搬ニ非ス、(二)寄藏トハ贓物タルコトヲ知テ他人又ハ其他ノ者ヨリ寄託ヲ受ケ之ヲ收藏スル所爲ヲ謂フ從テ請求アル場合ニハ返還スルノ義務ヲ負フモノナリ、(三)故買トハ贓物タルコトヲ知テ交換販賣等廣ク有償名義ニテ之ヲ獲得スルヲ謂フ、從テ例ヘバ他人カ贓物ヲ以テ自己ニ債務ノ辨濟ヲ爲シタルカ如キ場合ニ於テモ贓物タルコトヲ知テ之ヲ受取ルニ於テハ茲ニ所謂贓物ノ故買ナリトス、(四)牙保トハ所持人ト讓受人トノ間ニ立チテ賣買ノ媒介ヲ爲スヲ謂フ即チ例ヘハ贓物タルコトヲ知テ賣買ノ周旋ヲ爲スカ如キ此ナリ從テ本罪ノ成立ニハ其賣買ヲ遂ケシメタルコトヲ要ス。

以上ノ行爲ハ是レ凡テ犯罪ノ結果ヲ保全シ以テ犯罪人ヲ利シ若クハ犯罪人ト共ニ己ヲ利スルノ行爲ニシテ俗ニ所謂「ケイス買」ト稱スル徒輩ノ爲ス所ニテ之アルカ爲メ一面强窃盗罪ノ如キ益々增加スルモノナルヲ以テ其情狀重キモノト爲シ本法ハ上述ノ如ク特ニ之ヲ重罰スルコトヽ爲シタルモノナリ尚ホ其他前項ニ於テ述ヘタル處ハ本項ニモ亦之ヲ適用スルヲ得ヘキカ故ニ就テ參照セラルヘシ。

以上ノ條件ヲ具備スルトキハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス。

第二百五十七條　直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

本條ハ直系血族配偶者同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者間ニ於テ本章ノ罪ヲ犯シタルトキハ其刑ヲ免除スヘキ旨ヲ規定シタルモノニシテ本法ノ新設ニ係ル規定ナリトス、蓋シ既ニ第百〇五條ニ於テ述ヘタルト同シク本章ノ罪ノ如キハ以上ノ者ノ間ニ於テハ之ヲ罰スルノ必要ナク却テ之ヲ罰スルトキハ其結果家族間ノ平和ヲ知リ率テ社會ノ秩序ヲ害スルニ至ルヲ以テ第七章規定ノ罪人藏匿罪又ハ證憑湮滅罪ト等シク其刑ヲ免除スルコトヽ爲シタルモノナリトス。

本條第二項ハ親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ニ依リ其刑ヲ免除スルコトナキ旨ヲ規定シタルモノニシテ第二百四十四條第二項ト同一趣旨ノ規定ナリトス、而シテ本條規定ノ意義ハ既ニ屢々述ヘタル所ニ依リ明瞭ナルヲ以テ茲ニ贅セサルヘシ。

第四十章　毀棄及ヒ隱匿ノ罪

本章ハ毀棄罪及ヒ信書隱匿罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第三編第二章第十節ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリトス、其修正ヲ施シタル主要ノ點ハ舊法ハ本章ノ罪ヲ家屋其他ノ建造物又ハ器物ヲ毀損シ若クハ其他ノ動植物ヲ毀損シタル場合等之ヲ細別シテ各別ノ規定ヲ設ケタリシモ損害ノ多少ハ物ノ性質ニ因リ豫メ一定スルコト能ハサルヲ以テ本法ハ是等ノ區別ヲ廢シ刑ノ範圍ヲ擴張シタルト且ツ舊法ハ官文書ノ毀棄ニ關スル罪ヲ官文書僞造罪中ニ規定シタリシモ其罪質全ク異ナリ其規定ノ場所宜シキヲ得サリシヲ以テ本法ハ之ヲ本章ニ移シ汎ク公務所ノ用ニ供スル文書ノ毀棄ニ關スル規定ヲ設クルコトヽ爲シタルニアリ。

第二百五十八條　公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ所謂官文書毀棄罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第二百二條後段ノ規定第二百三條第二項及ヒ第二百五條第二項ノ規定ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリトス。

本罪ノ成立ニハ公務所ノ用ニ供スル文書ナルコト及ヒ毀棄シタルコトノ二

條件アルヲ要ス。

第一、公務所ノ用ニ供スル文書ナルコトヲ要ス、

本條公務所ノ用ニ供スル文書トハ既ニ第十七章ニ於テ述ヘタル如ク上ハ詔書ヨリ下ハ各公務所ノ往復文書ニ至ルマテ總テ公務所カ證據トシテ保管スル文書ヲ謂フモノナリトス、而シテ其作製者ノ公務員タルト一私人タルトハ之ヲ問ハサルモノナリトス。

第二、毀棄シタルコトヲ要ス、

毀トハ凡テ有形的ニ物ノ實質ヲ傷害スルコトヲ謂ヒ棄トハ其用ヲ失ハシムルコトヲ謂フモノナルカ故ニ茲ニ所謂毀棄トハ結局毀損ノ意ニシテ文書ヲ記載シタル物質其モノヲ毀損シ又ハ記載シタル文書ノミヲ無形的ニ抹消スル等其證據ヲ滅却スルノ所爲ヲ謂フモノトス、從テ文書ノ毀損トハ單ニ文書ノ紙ヲ引裂クト云フカ如ク物質ノ滅盡ノミヲ謂フ意ニ非ス物質ト文書トハ全ク別異ノモノニシテ物質ハ之ヲ毀損スルコトナク寧ロ增加シタル場合例ヘハ紙ノ上ニ新ニ紙ヲ附加シタルカ如キ場合ニ於テモ文字ヲ不明ニ至ラシメタルトキハ毀損トナルモノトス、斯ク文書ノ毀棄ハ文書ノ證據力ヲ滅却セシムルモノナルカ故ニ例ヘハ壹萬五千圓トアル文字ヲ抹消シ壹萬何千圓ナルカ不明トナラシメタルトキハ即チ其證據力ヲ滅却セシメタルモノナルカ故ニ文書一部ノ毀棄タリトス、然レトモ若シ壹萬五千圓トアル文字中五ノ字ヲ抹消シ壹萬千圓タラシメタルトキハ壹萬五千圓ノ證據力ヲ變換シテ更ニ壹萬千圓ノ證據力ヲ發生セシメタルモノナルヲ以テ是レ文書一部ノ變造ニシテ毀棄ニ非ス。

以上ハ條件具備スルトキハ三月以上七年以下ハ懲役ニ處ス可キモノトス。

第二百五十九條　權利義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ私文書毀棄罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第四百二十四條ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリトス。

本罪ノ成立ニハ權利義務ニ關スル他人ノ文書タルコト及ヒ毀棄シタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一、權利義務ニ關スル他人ハ文書タルコトヲ要ス。

本條權利義務ニ關スル他人ノ文書トハ既ニ第百五十九條ニ於テ說明シタル如ク權利義務ヲ證明スルノ目的ヲ以テ作製セラレタル一切ノ他人所持ノ文書ヲ指稱スル意ナリトス、之ヲ例ヘハ諸般ノ契約證書受取書送狀委任狀等即チ是レナリ、而シテ初メヨリ權利義務ヲ證明スルカ爲メニ作製セラレタルモノニ非サル以上ハ偶々權利義務ヲ證明スルノ用ニ供セラルヘキ書柬ノ如キハ茲ニ之ヲ包含セサルモノトス、而シテ又他人ノ文書ニ關スルコトヲ要スルカ故ニ假令他人ノ義務ニ關スル文書ナリト雖モ自己ノ文書例ヘハ債權者ノ所持スル貸借證書ノ如キ債權者之ヲ毀棄スルモ本罪ヲ構成スルコトナシトス、其他本條件ニ付テハ第百五十九條ノ釋義ヲ參照セラル可シ。

第二、毀棄シタルコトヲ要ス。

本條件ニ付テハ前條ニ於テ述ヘタル所ナルヲ以テ敢テ再說ノ要ナシト雖モ一言茲ニ注意ス可キハ既ニ述ヘタル如ク同シク文書ノ文字ノ抹消モ若シ犯人ノ目的カ其ニ因リテ文書ノ證據力ヲ滅失セシメントスルニアリテ事實文書ヲ不明ナラシメタルトキハ本罪ト爲ルモノナリト雖モ若シ犯人カ其場所ニ他ノ文字ヲ書加ヘテ別種ノ文書タラシメ又ハ單ニ文書ニ變更ヲ加ヘシトスルニ出テタルモノニテ事實新ニ文書ノ證據力ヲ作リ出シタルカ如キ場合ニハ別ニ本罪ヲ成サスシテ第百五十九條規定ノ文書僞造罪又ハ變造罪ヲ構成ス可キモノナルコト是レナリトス。

以上ハ條件具備スルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス。

第二百六十條　他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第四百十七條ト同一趣旨ノ規定ナリトス。

本罪ノ成立ニハ他人ノ建造物又ハ艦船ナルコト及ヒ損壞シタルコトノ二條件アルヲ要ス、

第一、他人ノ建造物又ハ艦船タルコトヲ要ス、

茲ニ建造物トハ既ニ第百八條ニ於テ詳論シタル如ク家屋其他ノ建造物ヲ總稱スルノ意ニシテ神社佛閣官舍學校劇場等人ノ常住起臥スルカ爲メ又ハ其他ノ目的ニテ土地ニ定着シテ建造セラレタル多少重要ナル物件ヲ謂フモノトス、但シ廢屋小屋掛等ハ之ヲ包含セス、而シテ建造物タル以上ハ人ノ住居スルト否トハ之ヲ區別スルコトナシト雖モ他人ノ所有ニ係ルコトヲ要スルカ故ニ自己ノ所有ニ係ルトキハ假令他人カ其上ニ質權抵當權若クハ賃借權等ヲ有スル物ト雖モ本罪ノ物體タルコトナシトス、而シテ又建造物ニ附着シテ之ト一體ヲ爲セル物ハ素ヨリ建造物ノ一部ナリト雖モ單ニ建造物ニ附屬スルモ之ニ附着シテ一體ヲナサヽル物ハ其ノ一部ト謂フヲ得ス壓建具ノ如キ即チ是レナリ、其他本條件ニ付テハ第百〇八條ノ釋義ヲ參照シテ其詳細ヲ知ラル可シ。

第二、損壞シタルコトヲ要ス、

損トハ有形無形ノ損害ヲ物ノ實質ニ加フルコトヲ謂ヒ壞トハ人力又ハ自然力ニ依リテ結合セラレタル物件ヲ解放スルコトヲ謂フモノナルカ故ニ茲ニ損壞トハ例ヘハ家屋ノ屋根又ハ床ノ類ヲ破損スル等家屋其他ノ建造物ヲ組成スル物件ニ對シ物質上ノ損害ヲ加フルコトヲ謂フモノトス、從テ損壞ハ毀棄ト異ナリ建造物カ建造物タルノ用ニ堪エサル程度ノ損害アリタルコトヲ要セス苟クモ其組成部分ヲ解放シテ傷害ヲ加フルトキハ常ニ本條ノ支配ヲ受クヘキモノトス、然レトモ墨ヲ塗リ又ハ落書ヲ爲ス等單ニ建造物ノ實質ヲ汚損シタルニ過キサル場合ハ茲ニ之ヲ包含セサルモノトス。

以上ノ條件具備スルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス、若シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ第二十七章傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス可キモノトス。

第二百六十一條　前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

本條ハ前三條規定以外ハ物ヲ損壞又ハ傷害シタル罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊法第四百十八條乃至第四百二十三條ノ規定ヲ合シ之ニ修正ヲ施シタ

ルモノナリトス。

本罪ノ成立ニハ前三條ニ記載シタル以外ノ物タルコト及ヒ損壞又ハ傷害シタルコトノ二條件アルヲ要ス。

第一、前三條ニ記載シタル以外ハ物タルコトヲ要ス、

本條所謂前三條ニ記載シタル以外ハ物トハ公務所ノ用ニ供スル文書、權利義務ニ關スル他人ノ文書建造物及ヒ艦船ヲ除ク他人所有ノ有體物ヲ謂フモノトス、故ニ舊法規定ノ家屋ニ屬スル牆壁、庭石、石燈籠等ノ園池ノ裝飾、田園ノ圍、牧場ノ柵、耕作物、研究ノ爲メニ培養セラルヽ植物、牛馬其他ノ家畜ハ勿論其他一切ノ器物ハ皆茲ニ所謂物ナリトス、但シ此等ノ物ハ總テ他人ノ所有ニ屬スルコトヲ要ス。

第二、損壞又ハ傷害シタルコトヲ要ス、

茲ニ損壞トハ既ニ說明セル所ト同一ニシテ傷害トハ既ニ第二百四條ニ於テ說明シタルト同一其ノ現狀ヲ侵害スルヲ謂フモノトス、故ニ例ヘハ諸般ノ器具ヲ破損シ又ハ植物ヲ引キ拔キ伐リ仆シ毀傷シ又ハ其生活力ヲ害シ若クハ帳簿ヲ抹消シテ其效用ヲ失ハシメ或ハ家畜ヲ毆打其他負傷セシムル等凡テ有形又ハ無形ニ物ノ實質ヲ害スルハ皆是レ本條所謂損壞又ハ傷害シタルモノナリトス。

以上ハ條件具備スルトキハ三年以下ハ懲役又ハ五百圓以下ハ罰金若クハ科料ニ處ス可キモノトス。

第二百六十二條　自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シタルモノヲ損壞又傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

本條ハ自己ノ物ニ對スル毀棄罪ヲ規定シタルモノニシテ本法ハ新設ニ係ル規定ナリトス、蓋シ自己ノ物ト雖モ公務所ノ命令ニ依リ差押ヲ受ケ又ハ地上權永小作權地役權其他ノ物權ヲ負擔シ若クハ賃貸借契約ニ依リ他人ニ貸シタルトキハ其物上ニ他人ノ權利存在スルヲ以テ其目的物ヲ損壞シ又ハ傷害シタルトキハ他人ノ物ヲ損傷シタルト同一ナルカ故ニ本法ハ第百三十四條及第百四

十一條第二項ト同一趣旨ニ基キ如上ノ場合ニハ前三條ノ例ニ依リ他人ノ物ヲ損傷シタルト同一ニ罰スルコトト爲シタルモノナリトス、從テ例ヘハ自己ノ所有ノ家屋ト雖モ他人ニ賃貸シタルモノヲ損壞シタルトキハ第二百六十條他人ノ建造物ヲ損壞シタルト同シク五年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス、其他本條ノ意義ニ付テハ第百三十四條及第百四十一條第二項ノ義解ヲ參照シテ詳細ヲ知ラルヘシ。

第二百六十三條　他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五拾圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

本條ハ信書隱匿罪ニ付キ規定シタルモノニシテ本法ハ新設ニ係ル規定ナリトス。

本罪ノ成立ニハ他人ノ信書タルコト及ヒ隱匿シタルコトノ二條件アルヲ要スルモ信書ノ何タルヤニ付テハ既ニ第百三十三條ニテ詳論シ且隱匿ノ意義ニ付テハ第百三條及第百十四條ニ於テ論述シタル所ナルヲ以テ更ニ茲ニ贅スルノ要ナカルヘシ、要スルニ本罪ハ他人ノ信書ヲ隱シテ其發見ヲ妨クル所爲ニ關スルモノナリトス、而シテ本罪ヲ犯シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五拾圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス可キモノトス。

第二百六十四條　第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ハ本章ノ罪ノ中第二百五十九條權利義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル罪第二百六十一條規定ノ物件ヲ損傷シタル罪及ヒ第二百六十三條信書隱匿罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス可キ旨ヲ規定シタルモノニシテ本法ノ新ニ設ケタル規定ナリトス、蓋シ如上ノ犯罪ハ既ニ屢々述ヘタル一般親告罪ト等シク被害者ノ利益ヲ主眼トシテ之ヲ保護センカ爲メニ設ケラレタル規定ナルヲ以テ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スト爲スヲ得策トシ本條ノ規定ヲ設ケタルモノナリトス。

新刑法逐條義解　畢

新舊法條文對照表

（茲ニ記載ナキ刑法ノ條文ハ其ノ新設ニ係ルモノ舊法ノ條文ハ削除セラレタルモノト知ルヘシ）

刑法	舊法	刑法	舊法
第六條	第三條	第二十四條	第四十九條
第八條	第五條	第二十八條	第五十三條
第九條	第六條第七條	第二十九條	第五十六條
第十一條	第八條及第十條	第三十一條	第五十八條
第十二條	第十二條	第三十二條	第五十九條
第十三條	第二十二條	第三十四條第二項	第六十一條
第十四條	第二十四條	第三十五條	第七十六條
	第七十條第二項及第七十一條	第三十六條	第三百十四條乃至第三百十六條
第十五條	第二十六條	第三十七條	第七十五條
第十六條	第二十八條	第三十八條	第七十七條
第十七條	第二十九條	第三十九條第一項	第七十八條
第十八條	第二十七條及第三十條	第四十條	第八十二條
		第四十一條	第七十九條

刑法	舊法
第十九條	第四十三條及第四十四條
第二十三條	第五十一條
第四十三條	第百十二條
第四十四條	第百十三條
第五十三條	第百一條
第五十七條	第九十一條及第九十二條
第六十條	第百四條
第六十一條第一項	第百五條
第六十二條	第百九條
第六十三條	第百十條
第六十五條第二項	第八十九條
第六十六條	第八十九條
第六十七條	第八十九條
第七十條	第七十三條

刑法	舊法
第四十二條	乃至第八十一條
	第八十五條
	乃至第八十八條
第七十八條	第百二十五條
第七十九條	第百二十一條
	及第百二十七條
第八十條	第百二十六條
第八十一條	第百二十九條
第八十二條	第百三十條
第八十五條	第百三十一條
第八十九條	第百二十九條
	及第百三十條
第九十三條	第百三十三條
第九十四條	第百三十四條
第九十五條	第百三十九條
第九十六條	第百二十四條

刑法	舊法
第七十二條	第九十九條
第七十三條	第百十六條
第七十四條第一項	第百十七條
第七十五條	第百十八條
第七十六條	第百十九條
第七十七條	第百二十一條
第百一條	第百四十八條
第百二條	第百四十九條
第百三條	第百五十一條
第百四條	第百五十二條
第百五條	第百五十三條
第百六條	第百三十七條
第百七條	第百三十六條
第百八條	第四百二條
	及第四百五條第一項
第百九條	第四百三條

刑法	舊法
第九十七條	第百四十二條第一項及第百四十四條
第九十八條	第百四十二條第二項及第百四十五條
第九十九條	第百四十七條
第百條	第百四十六條及第百四十七條
第百二十三條	第四百十三條
第百二十四條	第百六十二條及第百六十八條
第百二十五條	第百六十五條及第百六十六條
第百二十六條第二項	第四百十五條
第百二十七條	第百六十九條
第百二十八條	第百七十條
第百三十條	第百七十一條及第百七十二條

刑法	舊法
第百十條第一項	第四百五條第二項
第百十六條	第四百七條
第百十七條	第四百四條及
第百十九條	第四百六條
第百二十條第一項	第四百九條
第百二十二條	第四百十條
第百四十二條	第四百十一條第一項
第百四十四條	第四百十二條
第百四十五條	第四百九條
第百四十八條	第二百四十三條
第百四十九條	第二百四十四條
第百五十條	第二百四十五條
	第百八十二條第百八十四條
	第百八十五條及第百八十九條
	第百八十三條及第百八十四條
	第百九十條

刑法	舊法
第百三十一條	第百七十三條
第百三十四條	第三百六十條
第百三十五條	第三百六十一條
第百三十六條	第二百三十七條
第百三十七條	第二百三十八條
第百三十八條	第二百三十九條
第百三十九條	第二百四十一條第一項及第二百四十一條
第百四十條	第二百四十二條
第百六十四條	第百九十四條及第百九十七條
第百六十五條	第百九十五條及第百九十七條
第百六十六條	第百九十六條及第百九十七條
第百六十七條	第二百八條
第百六十八條	第二百條
第百六十九條	第二百十八條乃至

刑法	舊法
第百五十一條	第百八十六條
第百五十二條	第百九十三條
第百五十三條	第百八十六條
第百五十四條	第二百二條第一項
第百五十五條	第二百三條及
第百五十六條	第二百十三條
第百五十九條	第二百五條第一項及
第百六十條	第二百十四條第二項
第百六十二條	第二百十條
	第二百十五條第二項
	第二百四條及第二百九條

刑法	舊法
第百七十條	第二百二十三條
第百七十一條	第二百二十六條
第百七十二條	第二百二十四條
第百七十三條	第三百五十五條
第百七十四條	第三百五十六條
第百七十五條	第二百五十八條
第百七十六條	第二百五十九條
第百七十七條	第三百四十六條及
第百七十八條	第三百四十七條
第百七十九條	第三百四十八條及
第百八十條	第三百四十九條
第百八十一條	第三百四十八條第二項
第百八十二條	第二百九十二條乃至
第百八十三條	第二百九十八條
	第三百六十二條第一項
	第三百二十條及
	第二百二條

刑法	舊法	刑法	舊法
第百八十四條	第三百五十四條	第二百四條	第三百二十一條
第百八十五條	第二百六十一條	第二百五條	第三百一條
第百八十七條	第二百六十二條		第二百九十九條及第三百六十三條
第百八十八條	第二百六十三條		
第百八十九條	第二百六十五條第一項	第二百六條	第三百六條
第百九十條	第二百六十四條	第二百七條	第三百五條
第百九十一條	第二百六十五條第二項	第二百八條	第四百二十五條
第百九十三條	第二百七十六條	第二百九條	第三百十八條及第三百十九條
第百九十四條	第二百七十八條		
第百九十五條	第二百八十條及第二百八十二條	第二百十條	第三百十七條
		第二百十二條	第三百三十條
第百九十六條	第二百八十條第二項及第二百八十二條第二項	第二百十三條	第三百三十一條
		第二百十四條	第三百三十二條
第百九十七條	第二百八十四條及第二百八十八條	第二百十五條	第三百三十三條
		第二百十六條	第三百三十五條

刑法	舊法	刑法	舊法
第二百十七條	第三百三十六條及第三百三十七條	第二百三十三條及第二百三十四條	第二百六十七條乃至第二百七十二條
第二百十八條	第三百三十八條及第三百六十三條		
第二百十九條	第三百三十九條	第二百三十五條	第三百六十六條
第二百二十條	第三百二十二條及第三百二十三條	第二百三十六條	第三百三十六條
第二百二十一條	第三百二十四條及第三百二十五條	第二百三十八條	第三百三十八條
第二百二十二條	第三百二十六條及第三百二十八條	第二百三十九條	第三百三十九條
第二百二十四條	第三百二十一條及第三百二十四條	第二百四十一條	第三百四十一條
		第二百四十二條	第三百四十二條
		第二百四十四條	第三百四十四條
		第二百四十六條第一項	第三百四十七條
			第三百四十二條
			第三百九十條

刑法	舊法	刑法	舊法
第二百二十六條第一項	第三百四十五條	第二百四十八條	第三百九十一條
第二百二十七條第一項	第三百四十三條	第二百四十九條	第三百九十條
第二百二十九條	第三百四十四條	第二百五十二條	第三百九十三條
第二百三十條	第三百五十八條		第三百九十五條及第三百九十六條
第二百三十一條	第四百二十六條	第二百五十四條	第三百八十五條及第三百八十六條
第二百三十二條	第三百六十一條	第二百五十八條	第二百二條第二百三條第二項及第二百五條第二項
第二百五十六條	第三百九十九條及第四百一條	第二百六十條	第四百十七條
第二百五十九條	第四百二十四條		
第二百六十一條	第四百十八條乃至第四百二十三條		

警察犯處罰令（明治四十一年九月二十九日內務省令第十六號）

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留ニ處ス

一　故ナク人ノ居住若ハ看守セル邸宅、建造物及船舶內ニ潛伏シタル者

二　密賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合若ハ容止ヲ爲シタル者

三　一定ノ住居又ハ生業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

四　故ナク面會ヲ强請シ又ハ强談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

一　合力、喜捨ヲ强請シ又ハ强テ物品ノ購買ヲ求メタル者

二　乞丐ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

三　濫ニ寄附ヲ强請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ强テ物品、入場券等ヲ配付シタル者

四　入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ强請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ强請シタル者

五　他人ノ業務ニ對シ惡戲又ハ妨害ヲ爲シタル者

六　新聞紙、雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虛僞ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者

七　新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載に付强テ其ノ申込ヲ求メタル者

八　申込ナキ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者

九　祭事、祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戲又ハ妨害ヲ爲シタル者

十　自己占有ノ場所內ニ老幼、不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ人ノ死屍、死胎アルコトヲ知リテ速ニ警察官吏ニ申告セサル者

前項ノ死屍、死胎ニ對シ警察官吏ノ指揮ナキニ其ノ現場ヲ變更シタル者

十一　公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧噪シ、横臥シ又ハ泥醉シテ徘徊シタル者

十二　公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ濫ニ車馬舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者

十三　公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者

十四　劇場、寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ爲シタル者

十五　雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス混雜ヲ增スノ行爲ヲ爲シタル者

十六　人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮說又ハ虛報ヲ爲シタル者

十七　妄ニ吉凶禍福ヲ說キ又ハ祈禱、符呪等ヲ爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者

十八　病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符、神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者

十九　濫ニ催眠術ヲ施シタル者

二十　官職、位記、勳爵、學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾、徽章ヲ僭用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者

二十一　官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ其ノ義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ肯セサル者

二十二　人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障碍ヲ爲シタル者

二十三　河川、溝渠又ハ下水路ノ疏通ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲シタル者

二十四　自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者

二十五　出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者

二十六　官公署ノ榜示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル榜標ヲ汚瀆シ若ハ撤去シタル者

二十七　水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セスシテ其ノ現場ニ立入リ若ハ其ノ場所ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援助ノ求ヲ受ケタルニ拘ラス傍觀シテ之ニ應セサル者

二十八　濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺、道路、公園其ノ他ノ公衆用ノ常燈ヲ消シタル者

二十九　他人ノ田野、園圃ニ於テ菜果ヲ採摘シ又ハ花卉ヲ採折シタル者

三十　使用者ニシテ勞役者ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者

三十一　濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者

三十二　他人ノ身體、物件又ハ之ニ害ヲ及ホスヘキ場所ニ對シ物件ヲ拋澆シ又ハ放射シタル者

三十三　神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像其ノ他之ニ類スル物ヲ汚瀆シタル者

三十四　人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬裝シタル者

三十五　一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リタル者

三十六　不熟ノ果物、腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者

三十七　濫ニ他人ノ繫キタル舟筏、牛馬其ノ他ノ獸類ヲ解放シタル者

第三條　左ノ各等ノ一ニ該當スル者ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

一　許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之レカ保存ヲ爲シタル者

二　公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ袒裼、裸裎シ又ハ臀部、股部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者

三　街路ニ於テ屎尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

四　濫ニ銃砲ノ發射ヲ爲シ又ハ火藥其ノ他劇發スヘキ物ヲ玩ヒタル者

五　家屋其他ノ建造物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚ク者

六　石灰其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ忽ニシタル者

七　開業ノ醫師、産婆故ナク病者又ハ妊婦、産婦ノ招キニ應セサル者

八　故ナク官公署ノ召喚ニ應セサル者

九　炮竹、洗滌、剝皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スヘキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケス店頭ニ陳列シタル者

十　濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之レカ取除ノ義務ヲ怠リタル者

十一　監置ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者

十二　濫ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ嗾シ又ハ驚逸セシメタル者

十三　狂犬、猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ逸走セシメタル者

十四　公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者

十五　濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚瀆シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札、招牌、賣貸家札其ノ他榜標ノ類ヲ汚瀆シ若ハ撤去シタル者

十六　橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ虞アル場所ニ舟筏ヲ繫ギタル者

十七　通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ此ニ牛馬諸車ヲ牽入レタル者

第四條　本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幇助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年二月五日印刷
明治四十四年二月十一日發行

定價金貳圓

著者　森　悟一
著者　木村增太郎　京都市上京區二條通富小路東入晴明町第六百七十番地
發行者　福富薫三　京都市上京區鉄屋町通二條北入布袋町五百十五番地
印刷者　竹本梅次郎

發行所　京都市上京區二條通富小路東入晴明町第六百七十番地　帝國法政學會

不許複製